

牛頸後田窯跡群 II

— 77地点の調査 —

大野城市文化財調査報告書 第89集

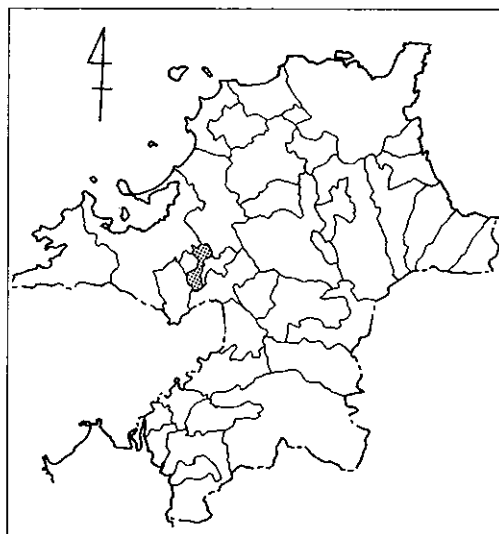
2009

大野城市教育委員会

う し く び う し ろ だ か ま あ と ぐ ん
牛頸後田窯跡群II

— 77地点の調査 —

大野城市文化財調査報告書 第89集



2009

大野城市教育委員会



(1) 後田窯跡群77地点1号窯完掘状況



(2) 後田窯跡群77地点出土遺物

序

今回報告する後田窯跡群は、九州最大の須恵器窯跡群として著名な「牛頸窯跡群」の一角に位置する遺跡です。

牛頸窯跡群では、これまで約300基の窯跡が調査され、さらに分布調査等によって未調査の窯跡は200基を超えると予想されています。また、その歴史的重要性は全国的にも注目されており、2009年2月には、窯跡群の一部が「牛頸須恵器窯跡」として国史跡に指定されました。本市としても、窯跡群の調査研究・整備活用に向け、精力的に取り組んでいく所存です。

今回発掘調査を実施した77地点については、現地保存することはできませんでしたが、窯跡の規模や形態、出土須恵器の器種構成など、奈良時代の牛頸窯跡群の特徴をよく示しており、窯跡群の実態や大宰府との関連について重要な知見を得ることができました。

本書が学術研究はもとより、地域の歴史や文化財への理解と認識を深める一助となり広く活用されることを願うとともに、今後とも文化財行政に対し、尚一層のご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、大野城太宰府環境処理施設組合をはじめ、周辺住民の皆様、発掘調査・整理作業に携われた方々には、多大なご協力を頂きました。心から感謝申し上げます。

平成21年3月31日

大野城市教育委員会
教育長 古賀 宮太

例 言

1. 本書は、大野城市教育委員会が発掘調査を実施した、大野城市大字牛頸所在「後田窯跡群77地点」の報告である。なお後田窯跡群は、九州最大の須恵器窯跡群である牛頸窯跡群の一角に位置しており、こうした歴史的事象とこれまでの報告にならって本書の表題を『牛頸後田窯跡群II』とした。また、近年牛頸地区で実施した4遺跡5地点の試掘・確認調査の成果について、併せて掲載した。
2. IV章に掲載した試掘・確認調査のうち、小田浦遺跡80地点、月の浦西土地区画整理事業地内、後田窯跡群76地点については、文化庁および福岡県の補助を受けて実施した。
3. 遺構写真は林潤也が撮影した。
4. 空中写真は(有)空中写真企画が撮影した。
5. 遺物写真は(有)文化財写真工房(岡紀久雄、埋蔵文化財写真研究会会員)が撮影した。
6. 巻頭図版1(2)のうち、図版右上端の短頸壺の蓋については、大谷窯跡群B地点の出土遺物(第23図238)である。
7. 遺構図は林が作成した。
8. 遺構実測図中の方位は真北を表し、図上の座標は国土座標(第II系)を示す。
9. 地形測量図は(株)埋蔵文化財サポートシステムが作成した。
10. 遺物実測図は大里弥生・中島圭が作成した。
11. 拓本は大里・中島が作成した。
12. 製図は、渡部美香が行なった。
13. 観察表は、大里・中島・遠藤茜が作成した。
14. 炭化材樹種同定については、パリノ・サーヴェイ(株)に分析を委託し、分析原稿をV章に掲載した。
15. 遺物番号は、通し番号とし、挿図と図版で番号を統一した。
16. 本書に掲載した周辺遺跡分布図(第1図)は、国土地理院発行の1/25,000地形図『福岡南部』『不入道』を基に作成した。
17. 遺物の名称のうち、須恵器蓋杯については平城宮分類による呼称を用いる。
18. 本遺跡の遺物・実測図・写真は全て大野城市教育委員会にて管理・保管している。
19. 本書の執筆は、IV章1(5)を徳本洋一が、V章をパリノ・サーヴェイ(株)が、これ以外を林が行い、編集は林が行なった。

本文目次

I. はじめに	
1. 調査に至る経緯	1
2. 調査体制	1
3. 調査の経過	2
II. 位置と環境	
1. 地理的環境	3
2. 歴史的環境	3
3. これまでの調査と調査地点名の設定について	4
III. 調査の成果	
1. 調査の方法・成果の概要	11
2. 遺構と遺物	
(1) 1号窯	11
(2) 土坑	22
IV. 牛頸地区における試掘・確認調査の結果	
1. 報告の経緯	23
2. 調査の結果	24
(1) ハセムシ窯跡群30地点確認調査	24
(2) 大谷窯跡群B地点試掘調査	29
(3) 小田浦遺跡群80地点試掘調査	31
(4) 月の浦西土地地区画整理事業地内確認調査	33
(5) 後田窯跡群76地点確認調査	34
V. 自然化学分析の成果	
1. 後田窯跡群77地点およびハセムシ窯跡群30地点出土炭化材の樹種	36
VI. まとめ	
1. 各調査地点の概要と時間的位置づけ	41
2. 焼成器種について	42
3. 法量分化について	43

挿 図 目 次

第1図	周辺遺跡分布図 (1/25,000)	5・6
第2図	後田窯跡群のこれまでの調査地点 (1/10,000)	7
第3図	77地点位置図 (1/5,000)	7
第4図	後田窯跡群77地点遺構配置図 (1/100)	9・10
第5図	後田窯跡群77地点1号窯実測図 (1/40)	13・14
第6図	後田窯跡群77地点1号窯灰原土層図 (1/40)	15
第7図	後田窯跡群77地点1号窯跡出土遺物実測図① (1/3)	16
第8図	後田窯跡群77地点1号窯跡出土遺物実測図② (1/3)	17
第9図	後田窯跡群77地点1号窯跡出土遺物実測図③ (1/3)	18
第10図	後田窯跡群77地点1号窯跡出土遺物実測図④ (1/3)	19
第11図	後田窯跡群77地点1号窯跡出土遺物実測図⑤ (1/3)	20
第12図	後田窯跡群77地点1号窯跡出土遺物実測図⑥ (1/3)	21
第13図	後田窯跡群77地点SX04実測図 (1/30)	22
第14図	後田窯跡群77地点SX04出土遺物実測図 (1/3)	22
第15図	試掘・確認調査地点位置図 (1/25,000)	23
第16図	ハセムシ窯跡群30地点位置図 (1/2,500)	24
第17図	ハセムシ窯跡群30地点灰原土層図 (1/60)	25
第18図	ハセムシ窯跡群30地点出土遺物実測図① (1/3)	26
第19図	ハセムシ窯跡群30地点出土遺物実測図② (1/3)	27
第20図	ハセムシ窯跡群30地点出土遺物実測図③ (1/3)	28
第21図	大谷窯跡群B地点トレンチ土層断面図 (1/40)	29
第22図	大谷窯跡群B地点トレンチ配置図 (1/1,000)	29
第23図	大谷窯跡群B地点出土遺物実測図 (1/3)	30
第24図	小田浦遺跡群80地点トレンチ配置図 (1/2,000)	31
第25図	小田浦遺跡群80地点出土遺物実測図 (1/3)	32
第26図	月の浦西土地地区画整理事業地内トレンチ配置図 (1/1,000)	34
第27図	後田窯跡群76地点確認調査範囲図 (1/5,000)	35
第28図	ハセムシ窯跡群30地点・後田窯跡群77地点出土須恵器法量分布図	45
第29図	周辺窯跡出土須恵器法量分布図	45

図 版 目 次

巻頭図版 1 (1) 後田窯跡群77地点 1号窯完掘状況 (北から)

(2) 後田窯跡群77地点出土遺物

図版 1 (1) 調査区全景 (北東から)

(2) 1号窯検出状況 (北から)

図版 2 (1) 1号窯煙突検出状況 (北東から)

(2) 1号窯焼成部横断面土層堆積状況 (北東から)

(3) 1号窯燃焼部縦断面土層堆積状況 (北西から)

図版 3 (1) 1号窯前庭部縦断面土層堆積状況 (北西から)

(2) 1号窯灰原縦断面土層堆積状況 (北西から)

(3) 1号窯跡灰原横断面右側土層堆積状況 (北東から)

図版 4 (1) 1号窯完掘状況① (北東から)

(2) 1号窯完掘状況② (北東から)

図版 5 (1) 1号窯完掘状況③ (北東から)

(2) 1号窯完掘状況④ (南西から)

図版 6 (1) 1号窯左側壁 (北西から)

(2) 1号窯右側壁 (東から)

(3) 1号窯右側壁遺物出土状況 (東から)

図版 7 (1) 1号窯燃焼部断ち割り状況左側壁 (北東から)

(2) 1号窯燃焼部断ち割り状況右側壁 (北東から)

(3) 1号窯燃焼部断ち割り状況 (北東から)

図版 8 (1) SX04完掘状況 (北西から)

(2) 作業風景① (北東から)

(3) 作業風景② (北から)

図版 9～18 後田窯跡群77地点出土遺物

図版 19～24 ハセムシ窯跡群30地点出土遺物

図版 24・25 ハセムシ窯跡群30地点出土須恵器ヘラ記号

図版 26 大谷窯跡群B地点出土遺物

図版 27 小田浦遺跡群80地点出土遺物

図版 28 後田窯跡群77地点 1号窯出土炭化材

図版 29・30 ハセムシ窯跡群30地点出土炭化材

表 目 次

第1表 後田窯跡群・古墳群のこれまでの調査	8
第2表 後田窯跡群77地点の樹種同定結果	36
第3表 ハセムシ窯跡群30地点の樹種同定結果	38
第4表 ハセムシ窯跡群30地点器種別重量	43
第5表 後田窯跡群77地点器種別重量	43
第6表 梅頭遺跡4次調査1号窯跡器種別重量	43
遺物観察表	46～54
後田窯跡群77地点	46～50
ハセムシ窯跡群30地点	51～53
大谷窯跡群B地点	54
小田浦遺跡群80地点	54

I. はじめに

1. 調査に至る経緯

大野城市大字牛頸周辺は、九州最大の須恵器窯跡群「牛頸窯跡群」の中心的な地域として知られ、未開発の山林部には、数多くの窯跡が分布していると予想されていた。

平成14年12月11日、大野城市大字牛頸2472-3ほかに関して、大野城太宰府環境施設組合から一般廃棄物最終処分場建設に伴う試掘調査の依頼書・承諾書が提出された。これに基づき、本市教育委員会では、平成15年2月21日～3月4日に試掘調査を実施し、その結果、2ヶ所（77地点・78地点）で須恵器窯跡を検出し、当該地が後田窯跡群に含まれることが明らかとなった。

大野城太宰府環境施設組合との協議の結果、最終処分場建設の計画変更は不可能であること、発掘調査は次年度のできるだけ早期に着手すること、調査は既設の大野城環境処理センターの北東側（77地点）→南側（78地点）の順で実施することが決定した。

この協議に基づき、平成15年4月3日、大野城牛頸環境施設組合との間に、埋蔵文化財発掘調査委託契約を締結した。4月7日より77地点の発掘調査を開始し、5月2日に完了、5月6日より78地点の発掘調査を開始し、7月11日に完了した。

今回報告する77地点の整理作業は、平成20年度に実施した。

2. 調査体制

平成15年度（発掘調査）

大野城市教育委員会	教 育 長	堀 内 貞 夫（～6月）
		古 賀 宮 太（6月～）
	教育部長	鬼 塚 春 光
	社会教育課長	秋 吉 正 一
	文化財担当係長	舟 山 良 一
	主 査	徳 本 洋 一
		石 木 秀 啓
	主任技師	丸 尾 博 恵
		林 潤 也（調査担当）
	主任主事	大 道 和 貴（庶務担当）
	嘱 託	平 島 義 孝
		岸 見 泰 宏
		島 田 拓（～6月）
		上 田 恵（～4月）
		西 堂 将 夫
		一 瀬 智（10月～）

平成20年度（整理作業）

大野城市教育委員会	教 育 長	古 賀 宮 太
	教育部長	森 岡 勉
	ふるさと文化財課長	舟 山 良 一
	文化財担当係長	中 山 宏（庶務担当）
	主 査	徳 本 洋 一
		石 木 秀 啓
		丸 尾 博 恵
	主任技師	林 潤 也（整理担当）
		早 瀬 賢
		上 田 龍 児
	嘱 託	石 川 健
		遠 藤 茜
		大 里 弥 生
		甲 斐 康 大
		中 島 圭

発掘調査作業員

立石律子	貞包由紀子	坂本泰子	大園英美	小林敏子	小林久美子	樋之口浩一
広渡隆子	渡辺久美子	深野人美	船越桃子	穴井和子	仲前富美子	井口るみ子
西村清子						

整理作業員

松岡信子	町井裕子	鬼塚穂子	白井典子	村山律子	渡部美香	仲村美幸
------	------	------	------	------	------	------

3. 調査の経過

平成15年	4月 7日	バックホーを用いて表土剥ぎ開始
	4月 9日	遺構検出開始
	4月10日	1号窯掘り下げ開始
	4月21日	1号窯完掘
	4月28日	空中写真撮影、1号窯断ち割り開始
	5月 2日	現地作業終了

II. 位置と環境

1. 地理的環境

後田窯跡群77地点は、大野城市大字牛頸2472-3に所在し、大野城市南端の牛頸山から北側に派生する丘陵の北東斜面（標高約118～124m）に位置する。この牛頸山（標高447.3m）は、背振山系の一角をなしており、地質的には花崗岩類を基盤とし、その風化土が被覆した状況を呈している。この北麓を、牛頸川、足洗川などの中小の河川が開析することによって、無数の丘陵が形成され、この丘陵斜面に数多くの須恵器窯跡が分布している。この窯跡群は、「牛頸窯跡群」と呼ばれ、大野城市牛頸地区を中心に春日市の一部から太宰府市の一部（東西約4.0km、南北約4.8km）まで広がっている。後田窯跡群は、この牛頸窯跡群の中でも、やや牛頸山に近く、概ね西端に位置している。

2. 歴史的環境

大野城市南部を中心とした牛頸山北麓地域では、旧石器時代から近世にいたるまでの遺跡が数多く確認されている（第1図）。まず、旧石器時代には、出口遺跡で剥片尖頭器、本堂遺跡、門田遺跡、柏田遺跡、向谷北遺跡などでナイフ形石器や細石刃核が出土しており、当該期から人間活動の痕跡が確認できる。

続く縄文時代には、遺物量の多少はあれ、門田遺跡、深原遺跡、観音山古墳群、柏田遺跡、九州大学筑紫地区遺跡、塚原遺跡、本堂遺跡などで、草創期から晩期にいたるまでの遺物が出土している。特に、門田遺跡から出土した草創期の爪形文土器、深原遺跡や本堂遺跡の早期押型文土器、柏田遺跡の後期中葉の住居跡、土器などは、周辺地域を見渡しても特に重要な資料といえよう。

弥生時代になると、奴国の中心域とされる須玖岡本遺跡群からは南側に外れるものの、門田遺跡、辻田遺跡、天神の木遺跡、原遺跡、中白水遺跡、向谷北遺跡、向谷南遺跡、惣利東遺跡など、質・量とも充実した遺跡が多く認められる。中でも、門田遺跡・辻田遺跡は大規模な集落遺跡であり、前期末の袋状貯蔵穴群、中期前葉～後期初頭の甕棺墓群、後期終末のドングリの貯蔵穴群などが確認されたほか、遺物としては、多様な木製品（鋏類、網杵、筥、竪杵、斧柄、盤、杓子、琴など）が特に注目されている。

続く古墳時代には、九州最大の須恵器窯跡群である「牛頸窯跡群」の操業が開始される。この牛頸窯跡群は、6世紀中頃から9世紀中頃に操業した窯跡群で、これまで300基あまりが調査されており、未調査の窯を考慮すれば500基を越える窯の存在が予想されている。最古相の窯跡については、現時点では窯跡群の北端に近い本堂遺跡群・野添遺跡群において確認されており、6世紀中頃の本堂遺跡14次1号窯、野添6号窯、次いで6世紀後半の野添9号窯が古く位置づけられている。その後、6世紀末～7世紀前半には、本堂遺跡、梅頭遺跡、惣利東遺跡、浦ノ原窯跡群、神の前窯跡、小田浦窯跡群、ハセムシ窯跡群、中通窯跡群など、当遺跡を含めて、窯跡の分布は飛躍的に広がり、その数も爆発的に増加している。また、この時期の特徴として、神の前2号窯跡や月ノ浦1号窯跡、小田浦79地点2号窯など須恵器とともに瓦を焼成した「瓦陶兼業窯」が存在する点が挙

げられ、その供給先の一つとされる福岡市那珂遺跡（那津官家推定地）は、当遺跡の北東約8.5kmに所在する。

また、当該期の集落は、上園遺跡、塚原遺跡、日ノ浦遺跡、春日平田遺跡、春日平田西遺跡、惣利西遺跡などで確認されている。その立地や粘土塊の出土などから、多くは須恵器工人の集落あるいは工房跡と考えられている。古墳については、当遺跡内に所在する後田古墳群のほか、小田浦古墳群、向谷古墳群、西浦古墳群、観音山古墳群、カクチガ浦遺跡群など、多くの後期古墳が存在し、窯跡群で焼成された須恵器の一部はこれらの古墳に供献されたと推測される。またこれらの古墳群の中には、被葬者を須恵器工人と想定しうる例もあり、小田浦2号墳や後田3～6号墳などからは、須恵器窯掘削に使用したと考えられるU字型鋤先が出土している。さらに梅頭遺跡1次調査1号窯では、廃窯後に鉄刀・鉄鏃等を副葬し「墓」として転用した事例も確認されている。

続く奈良時代にも、牛頸窯跡群は盛んに操業を続け、牛頸ダム周辺（井手窯跡群、道ノ下窯跡群、足洗川窯跡群など）や、石坂窯跡群、小田浦窯跡群、ハセムシ窯跡群などで、特に群集して窯跡が発見されている。その分布を巨視的に見た場合、前代と比べ、やや牛頸山側に比重が移る傾向が認められ、その要因として、薪（燃料）の枯渇があったと想定されている。

このように牛頸窯跡群は、8世紀後半まで、盛んに操業を行なっているが、その一方、9世紀前半以降については、ほとんど確認されていない。現時点での最終末期の窯としては、窯跡群最奥部に位置する石坂窯跡群E地点3号窯が挙げられる。この窯は9世紀中頃に位置づけられ、年代観や窯構造、器種組成において、これまでの窯とは隔絶した感もあり、連続した系譜上にあるのか否か、重要な課題を提示している。

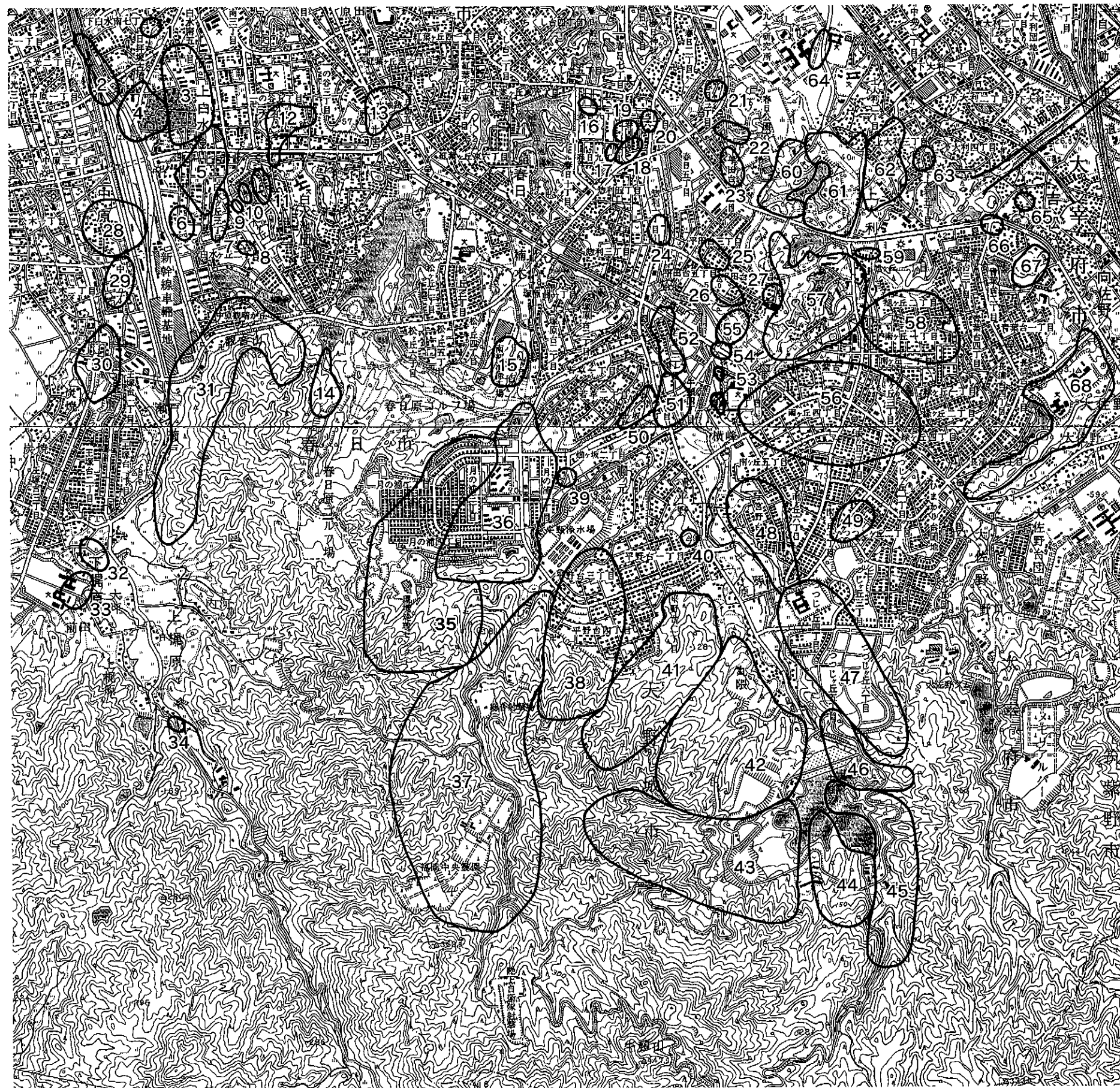
3. これまでの調査と調査地点名の設定について

後田遺跡群（窯跡群・古墳群）は、これまで牛頸土地区画整理事業や墓地造成などを契機に発掘調査が行われてきた。特に昭和58年度から61年度にかけて実施した区画整理事業の際には、計12地点で、11基の円墳と16基の須恵器窯跡を調査し、大きな成果を挙げている。

「後田窯跡群〇〇地点」という呼称は、この牛頸土地区画整理事業の地点名から連続したものである。区画整理事業は、100haにおよぶ広大な面積であったため、複数の遺跡の存在が予想された。このため、事業地内に1～67地点の試掘調査地点（第2図）を設定した上で、遺構が検出された地点の発掘調査を行ない、整理・報告時に後田窯跡群、小田浦窯跡群、塚原遺跡群、日ノ浦遺跡などに分離し、「〇〇遺跡〇〇地点」という呼称を採用した経緯がある。よって、「〇地点」という数値は、各遺跡での調査回数に対応するものではない。

さらにその後、区画整理事業地の周辺において、墓地造成などの要因で数度の発掘調査を実施しているが、この際の調査地点名も、区画整理事業地からの続き番号（68地点～）を用いるのが通例となっており、こうした経緯のもと、今回の調査地点名を「後田窯跡群77地点」と設定した。

これまでの後田窯跡群・古墳群の調査地点は第1表・第2図のとおりである。



[春日市]

1. 日拝塚古墳
2. 柏田遺跡
3. 中白水遺跡
4. 門田遺跡
5. 天神の木遺跡
6. 原遺跡
7. 百堂遺跡
8. ウトグチ遺跡A地点
9. ウトグチ遺跡B地点
10. ウトグチ遺跡C地点
11. 整理池遺跡
12. 天神山水城跡
13. 大土居水城跡
14. 西浦古墳
15. 浦ノ原窯跡群
16. 惣利窯跡
17. 惣利西遺跡
18. 惣利東遺跡
19. 惣利遺跡
20. 惣利北遺跡
21. 向谷北遺跡
22. 向谷古墳群
23. 平田北遺跡
24. 円入遺跡
25. 春日平田遺跡
26. 春日平田西遺跡
27. 春日平田東遺跡

49. 上平田遺跡
50. 畑坂遺跡
51. 塚原遺跡
52. 日ノ浦遺跡
53. 屏風田遺跡
54. 華無尾遺跡
55. 華無尾窯跡
56. 平田窯跡群
57. 野添遺跡群
58. 大浦窯跡群
59. 上大利小水城
60. 梅頭遺跡
61. 本堂遺跡
62. 上園遺跡
63. 出口遺跡
64. 池田・池の上遺跡

[太宰府市]

65. 島本遺跡
66. 神ノ前遺跡
67. 篠振遺跡
68. 宮ノ本遺跡

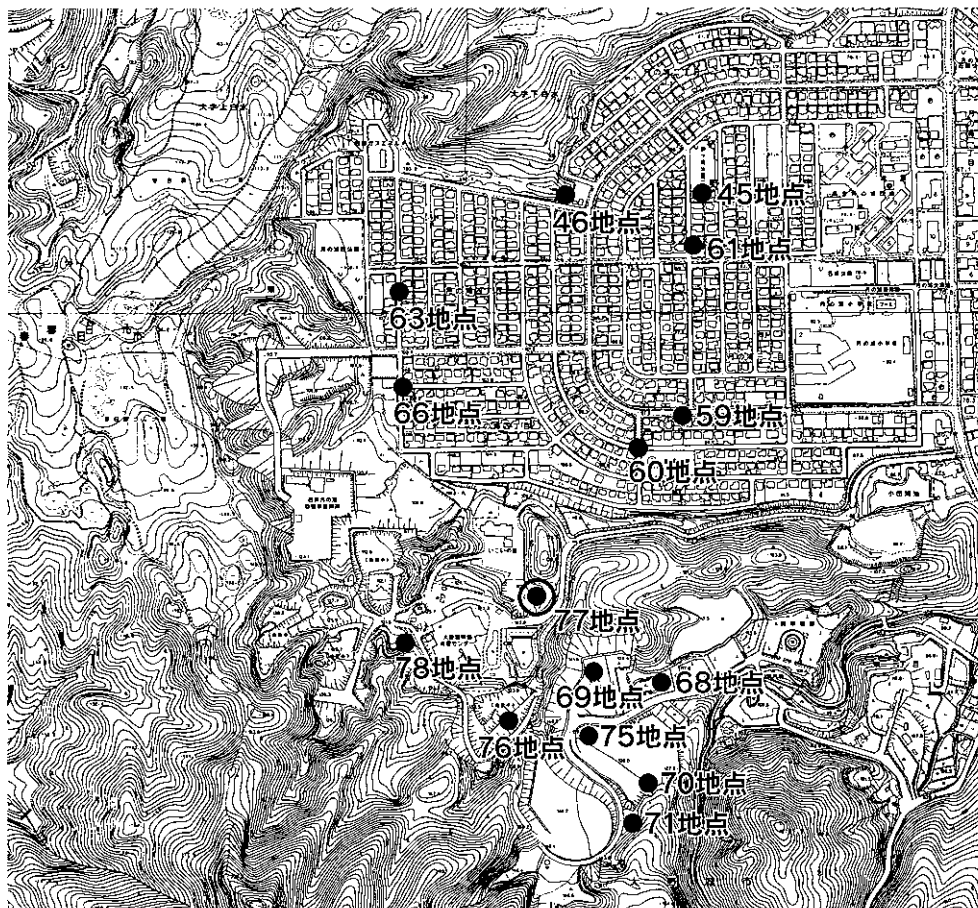
[那珂川町]

28. 中原塔ノ元遺跡
29. カイ子遺跡
30. カクチガ浦遺跡
32. 楠木遺跡群
33. 平蔵遺跡
34. 地別当遺跡

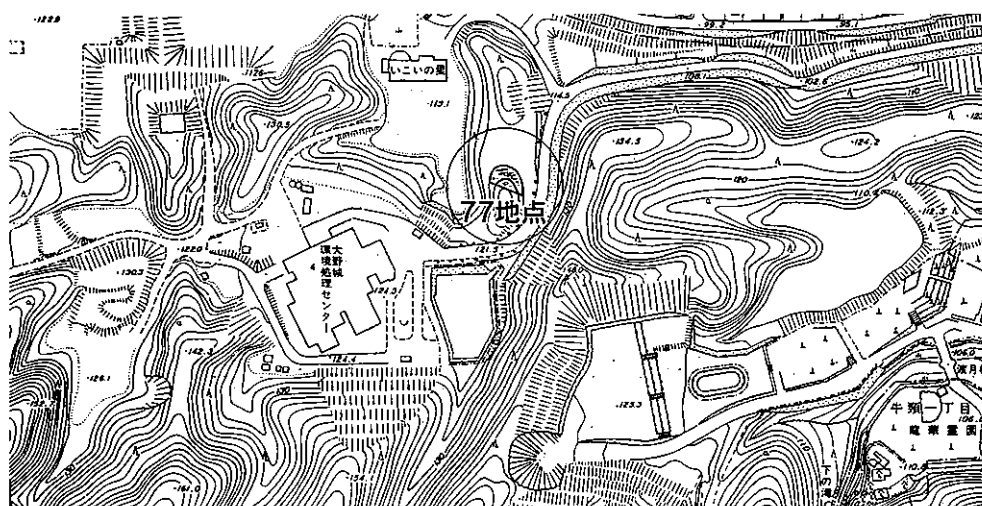
[大野城市]

35. 後田遺跡群 (窯跡群)
36. 小田浦遺跡群 (窯跡群)
37. 石坂窯跡群
38. 大谷窯跡群
39. 月ノ浦窯跡
40. 城山窯跡
41. 原浦窯跡群
42. 井手窯跡群
43. 足洗川窯跡群
44. 笹原窯跡群
45. 長者原窯跡群
46. 道ノ下窯跡群
47. ハセムシ窯跡群
48. 中通遺跡群 (窯跡群)

第1図 周辺遺跡分布図 (1/25,000)



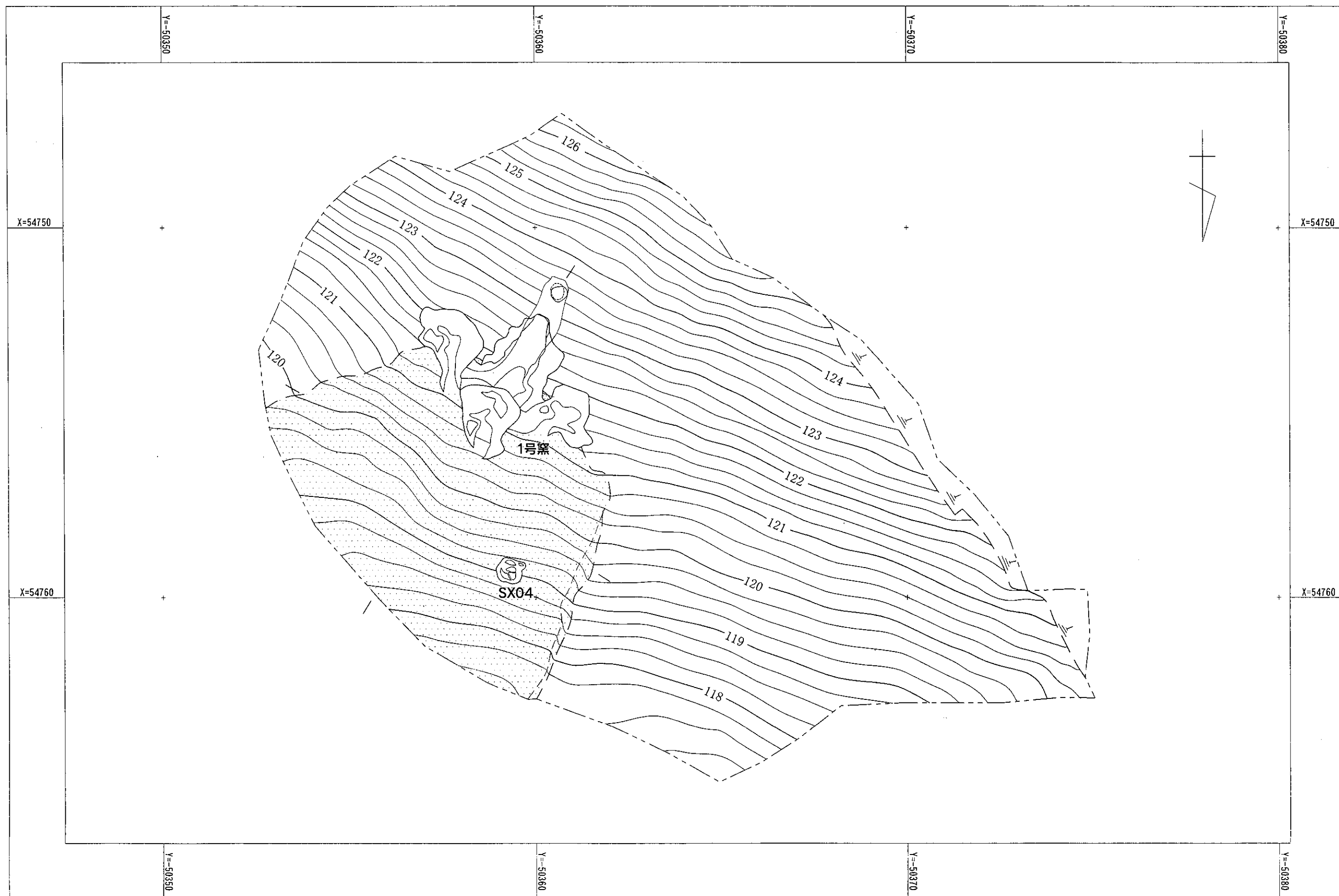
第2図 後田窯跡群のこれまでの調査地点 (1/10,000)



第3図 77地点位置図 (1/5,000)

調査地点名	調査年度	調査要因	内 容	報 告
後田古墳群 42 地点	1982	区画整理	円墳 10 基 (小田編年Ⅳ～Ⅵ期)	市報 36 集
後田古墳群 43 地点	1986	区画整理		市報 36 集
後田古墳群 44 地点	1986	区画整理		市報 36 集
後田窯跡群 45 地点	1986	区画整理	須恵器窯 2 基 (Ⅳ期、Ⅵ～Ⅶ期)	市報 33 集
後田窯跡群 46 地点	1986	区画整理	須恵器窯 (灰原のみ) 1 基 (Ⅳ期)	市報 33 集
後田古墳群 53 地点	1986	区画整理	円墳 1 基 (Ⅳ期)	市報 33 集
後田窯跡群 59 地点	1986	区画整理	須恵器窯 3 基 (Ⅶ期)	市報 33 集
後田窯跡群 60 地点	1986	区画整理	須恵器窯 1 基 (Ⅴ期)	市報 33 集
後田窯跡群 61 地点	1987	区画整理	須恵器窯 5 基 (Ⅵ～Ⅶ期)	市報 33 集
後田窯跡群 63 地点	1986	区画整理	須恵器窯 2 基 (Ⅳ期、Ⅵ～Ⅶ期)	市報 33 集
後田窯跡群 65 地点	1987	区画整理	須恵器窯 1 基 (Ⅳ期)	市報 33 集
後田窯跡群 66 地点	1987	区画整理	須恵器窯 1 基 (Ⅵ～Ⅶ期)	市報 33 集
後田窯跡群 68 地点	1996	墓地造成	須恵器窯 3 基 (Ⅵ期)	未報告
後田窯跡群 69 地点	1996	墓地造成	須恵器窯 1 基 (Ⅵ期)	未報告
後田窯跡群 70 地点	1998	墓地造成	須恵器窯 6 基 (Ⅶ期)	未報告
後田窯跡群 71 地点	1998	墓地造成	須恵器窯 1 基 (Ⅶ期)	未報告
後田窯跡群 72 地点	1998	墓地造成	炭窯 1 基 (時期不明)	未報告
後田窯跡群 74 地点	1998	墓地造成	土坑墓 1 基 (Ⅶ期)	未報告
後田窯跡群 75 地点	1999	墓地造成	須恵器窯 4 基 (Ⅶ期)	未報告
後田窯跡群 76 地点	2001	最終処分場 建設	須恵器窯 3 基 (うち 2 基は灰原のみ) (Ⅶ期)	未報告
後田窯跡群 77 地点	2003	最終処分場 建設	須恵器窯 1 基 (Ⅶ期)	本書
後田窯跡群 78 地点	2003	最終処分場 建設	須恵器窯 2 基 (Ⅶ期)	未報告

第 1 表 後田窯跡群・古墳群のこれまでの調査



第4図 後田窯跡群77地点遺構配置図 (1/100)

Ⅲ．調査の成果

1．調査の方法・成果の概要

後田窯跡群77地点は、大野城市大字牛頸2472-3、既設の大野城太宰府環境処理センター北東側の隣接地に位置し、調査面積は240㎡を測る。バックホーを用いた表土剥ぎの後、遺構検出を試みたが、検出された遺構は、試掘調査の際に確認した須恵器窯跡1基のみであった。

窯体検出後、窯体の縦位の中心軸に主軸を設定し、これに直交するように土層観察用の補助軸を灰原1ヶ所、窯体1ヶ所（D-D'）に設定した。灰原・窯本体とも縦横の土層を観察・記録しながら調査を進め、完掘後には窯壁の被熱状況、貼壁・貼床の有無を確認するために、窯体の断割調査を行なった。

調査の結果、窯跡は奈良時代の地下式直立煙道窯であり、一部天井部が遺存すること、燃烧部両側面に補修痕跡が観察できること、前庭部に大形の土坑を掘り込むこと、出土須恵器が杯身・杯蓋などの小形器種に特化すること等が確認された。窯構造、出土遺物ともに、当該期の牛頸窯跡群の特徴を顕著に示す好資料といえる。また灰原完掘後に、小形の土坑（SX04）を検出し、合わせて調査を行なった。遺物は、須恵器杯身・杯蓋・皿・高杯・瓶子・長頸壺・短頸壺・甕、土師器甕が出土し、その重量は約156kgであった。

2．遺構と遺物

（1）1号窯（第5図）

北側に伸びる丘陵の先端近く、北東斜面上部に立地する。標高121m～123.5mに位置し、等高線にはほぼ直交するように検出された。奥壁から燃烧部までの全長は3.4m、底面の最大幅は0.84mを測る。平面プランは、焚口部がやや狭く、焼成部中央がやや張る形態で、天井部の一部が遺存していた。排煙部の形状から地下式直立煙道窯であることが明らかとなった。

焚口・燃烧部 長さ1.8m、幅0.68m～0.75m、床面の傾斜角度は13°を測る。また、側壁には補修の痕跡が明確に観察され、受熱した当初の両側壁に黒褐色土を重ね、さらに左側壁には補強のためか礫（33cm×16cm）1点を嵌め込んでいる。この補修の結果、焼成部床面は若干幅狭化したこととなる。

焼成部 中央部に最大幅をとり、奥壁はやや丸くなっている。長さ1.6m、最大幅0.84m、床面の傾斜角度は30°を測り、傾斜はそれほどきつくない。貼り床は認められなかった。奥壁は床面付近のみ16cm程奥まで掘り進められており、窯構築時には、燃烧～焼成部掘削後に地表面から煙道を掘削していたことが想定される。燃烧部から50cm程奥壁側では、須恵器杯蓋（第7図1）が右側壁に立て掛けられたような状態で出土した。

排煙部 奥壁が垂直に立ち上がり、煙道口から排煙口にいたる。平面プランは円形で、煙道自体は細長い筒状を呈する。煙道口は径37cm、排煙口は42cm、煙道口から排煙口までの高さは82cmを測る。

前庭部 幅2.25m、長さ0.48mを測る。左右および下方には、それぞれ掘り込みを有し、これを含めれば幅5.73m、長さ2.4mとなる。左右および下方の掘り込みについては、調査時にSX01～

03という呼称で遺物の取上げを行ったが、いずれも埋土上層は灰原が厚く覆っており、遺物の大部分は同層中から出土した。このため前庭部から出土した遺物は灰原出土遺物として図示（遺物観察表ではSX01～03と表記）している。

灰原 斜面下方に向かって広がり、下端は調査区外に続く。現況で長さ7.5m、最大幅10.2mを測る。灰層の厚さは、最大35cmを測るが、大部分については10～20cm程度である。燃焼部の補修痕跡から複数回の焼成が想定されるが、土層観察の結果、これを裏付けることはできなかった。

出土遺物（第7～12図） 1は窯体内（焼成部）出土。2～137は灰原（前庭部含む）出土。1～44は杯蓋（杯B）。口縁端部は下方に折り曲げるが、その屈曲が緩慢な資料（20・28・39・42）も散見される。口径は12.6～24.3cmと幅広く、0.5cm刻みの分布では16.0～16.4cmの資料が最も多い。2はつまみを持たない資料。天井部はヘラ切り後一部ナデを施す。1・3～44はつまみを持つ一群。いずれも天井部に回転ヘラケズリを施す。口縁端部の屈曲が緩慢な資料についても、調整上その差異は認められない。つまみの形状は、やや高さのあるボタン状の資料が目立ち、径は1.5cm～3.3cm（平均2.45cm）、傾向として2.5cmを前後する資料が多い。35は天井に穿孔を持つ。ヘラ記号は、8・32・37（いずれも拓図下方）で確認される。32については内面に施されており牛頸窯跡群内では極めて稀な資料。

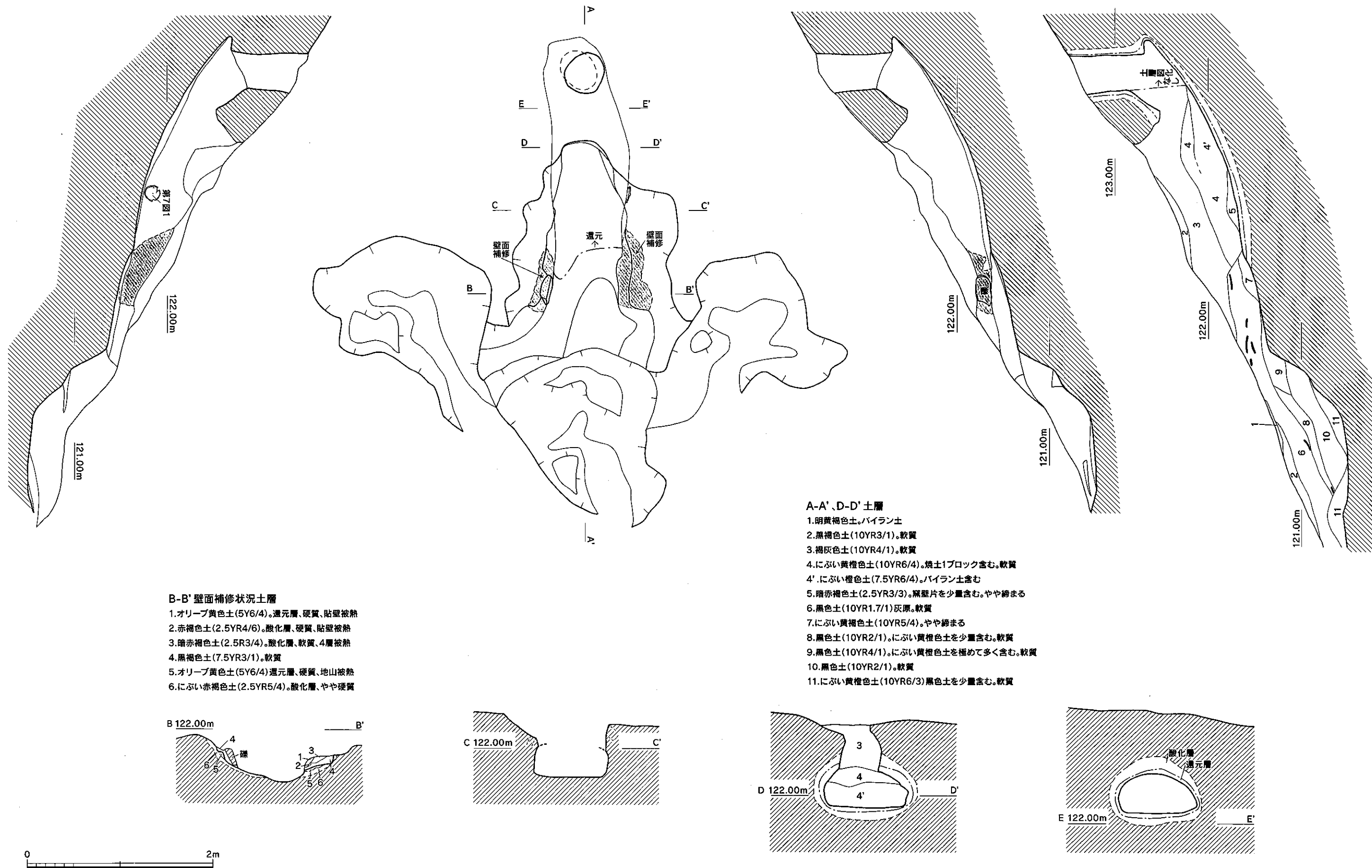
45～88は杯身。45～83は高台の付く一群（杯B）、84～88は高台の付かない一群（杯A）。体部～口縁部は直線的でやや外方に開き、高台は底端部よりやや内側に付く資料が主体をなす。口径は9.0cm～20.7cmと幅広く、0.5cm刻みの分布では14.0～14.4cmの資料が最も多い。83は底部中央に穿孔を持つ。82は口径20cmを超える大形品。ヘラ記号は、59・79・81で確認され、59は体部に、79・81は底部に施されている。

89～117は皿。89～114は高台の付かない一群（皿A）、115・116は高台の付く一群（皿B）。底部は概ね平坦で、体部～口縁部が直線的に外方に開く資料が主体をなすが、口縁部が外反する資料（89・91・98・102）や体部中位で緩やかに屈曲する資料（110・116）も認められる。口径は18.7cm～26.6cmを測り、0.5cm刻みの分布では20.5～20.9cmの資料が最も多い。他器種と比べ焼成不良（色調：黄～橙色系）の資料が圧倒的に多く、黒斑を持つ資料が目立つ。97・98は外底部に板状圧痕状の痕跡を残す。117は底部に穿孔を持つが、穿孔部が大形な点、正円に復元できない点で、一般的な穿孔杯とは様相が異なる。

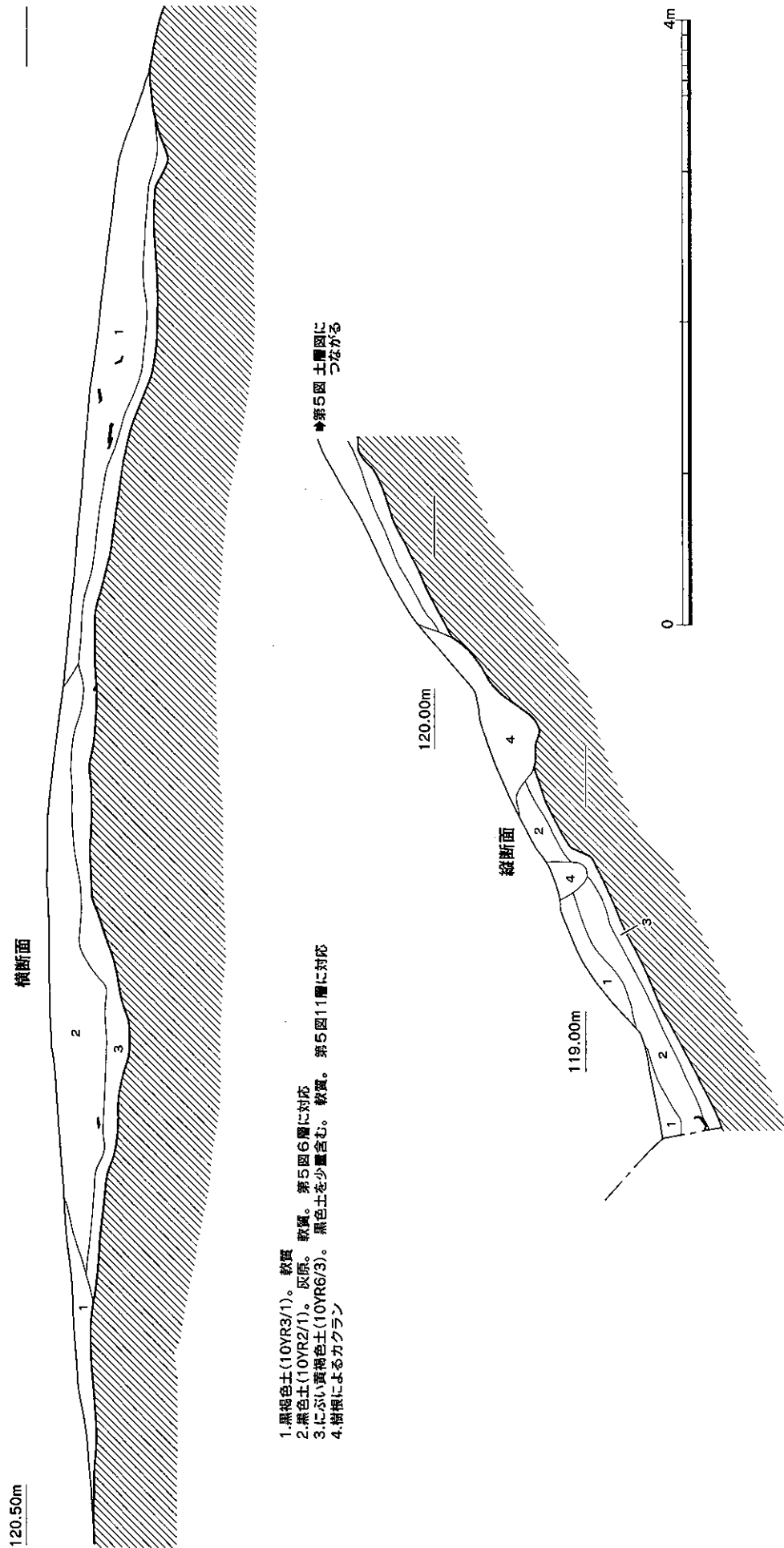
118～127は高杯。口径は13.3cm～25.1cmを測る。120は2点の高杯が接着した資料。降灰の状況等から、倒立した状態で脚端部の上に杯部内面を重ねて焼成していたことがうかがえる。

128は瓶子。129は長頸壺。口縁部を欠く以外はほぼ完存する。130～132は短頸壺。いずれも体部下半に回転ヘラケズリを施す。130は著しく焼け歪む。133は鉢。底端部から口縁部まではほぼ直線的に立ち上がる。焼成不良。134～136は甕。135と136は同一個体。

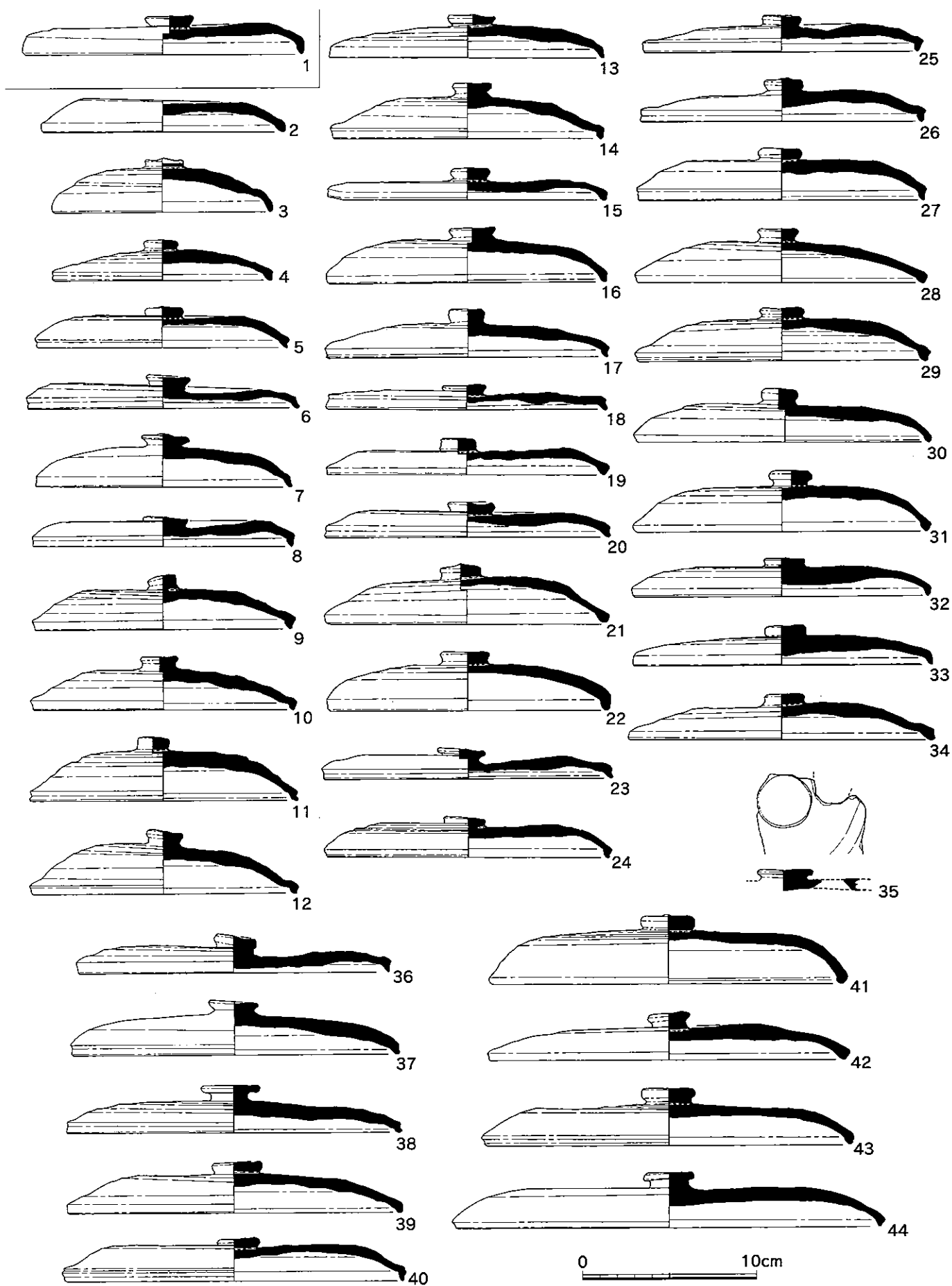
137は土師器甕。丸底に近い平底。底部付近に二次的な被熱が確認できる。



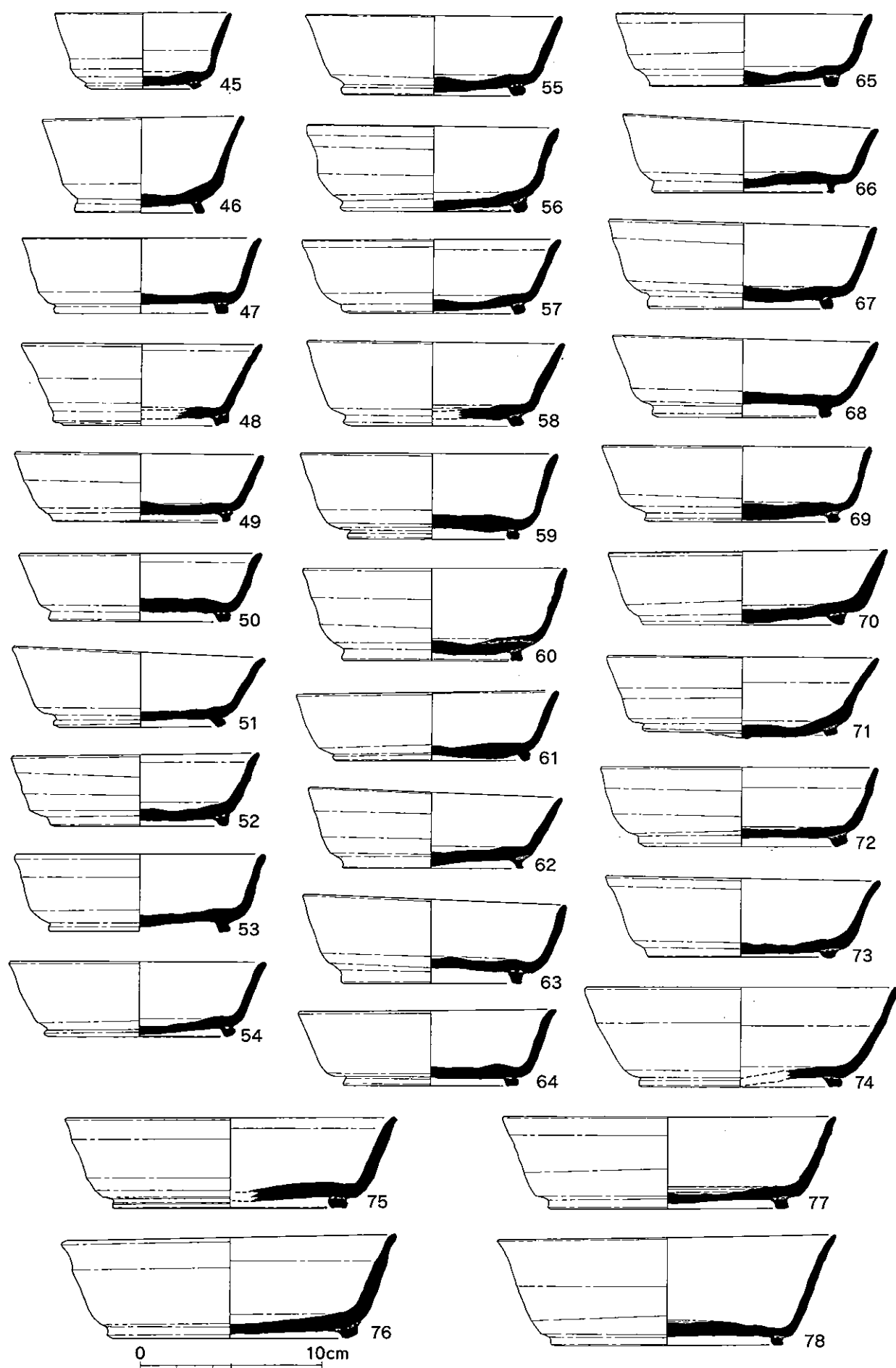
第5図 後田窯跡群77地点1号窯実測図 (1/40)



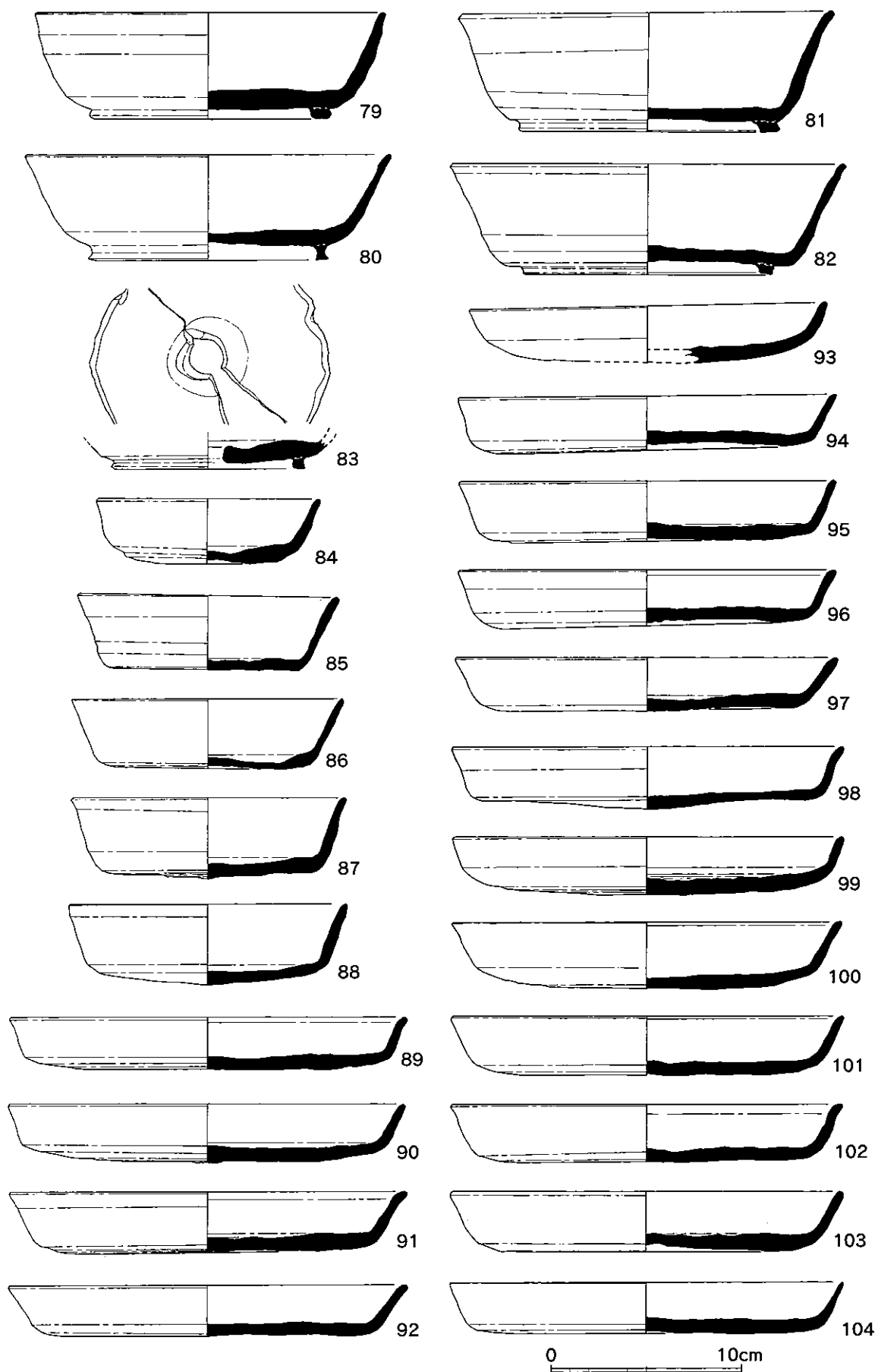
第6図 後田窯跡群77地点1号窯灰原土層図 (1/40)



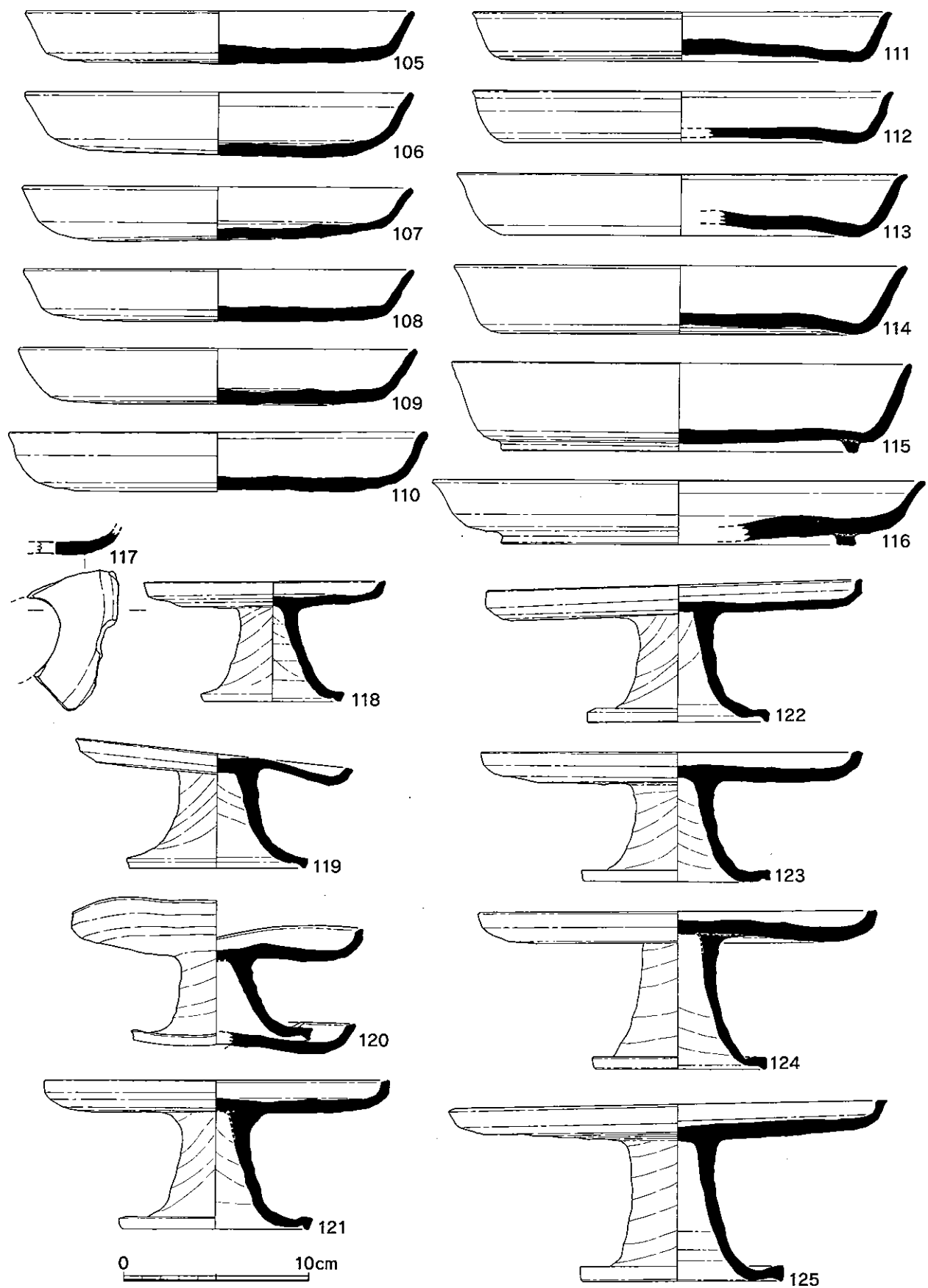
第7図 後田窯跡群77地点1号窯跡出土遺物実測図① (1/3)



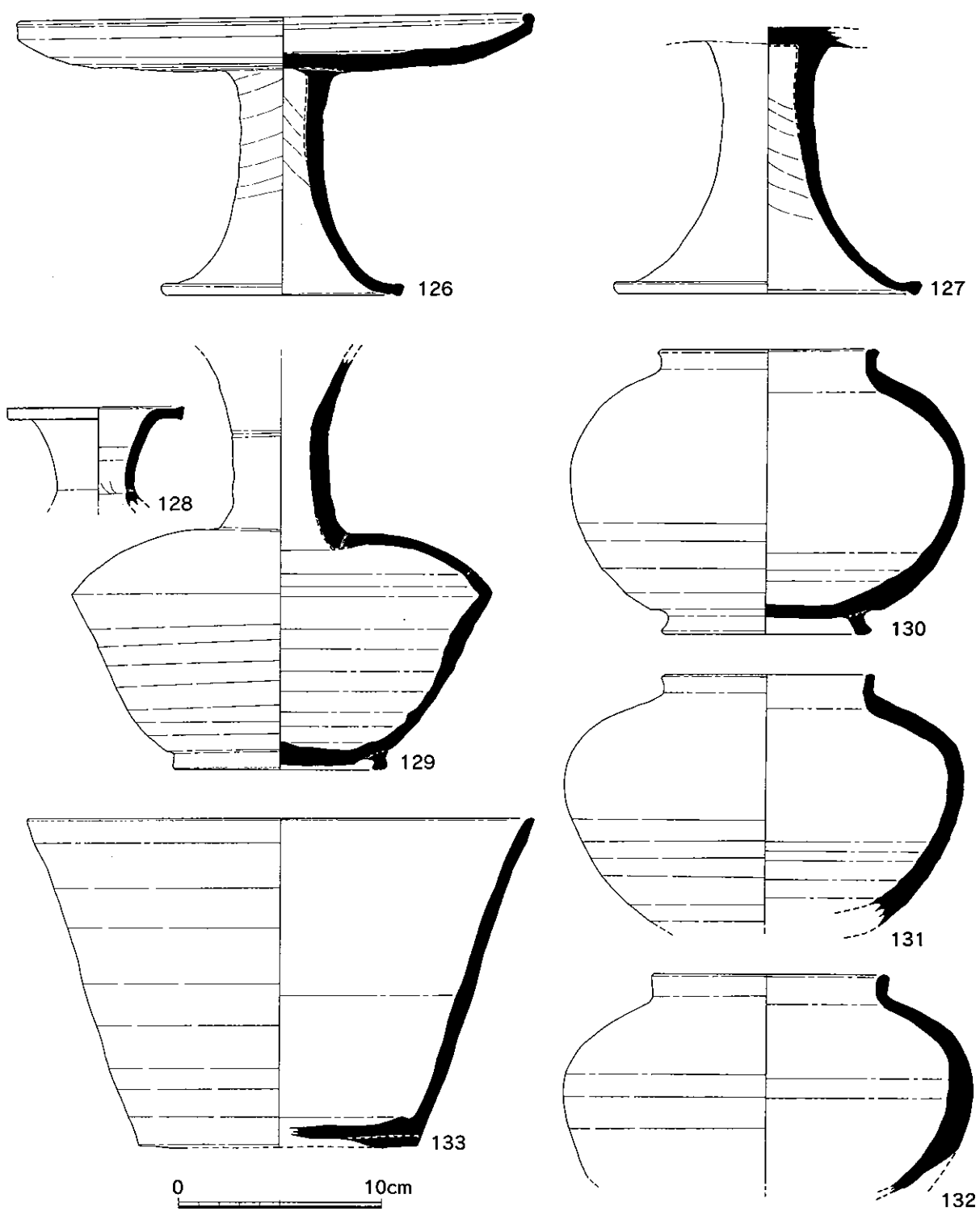
第8図 後田窯跡群77地点1号窯跡出土遺物実測図② (1/3)



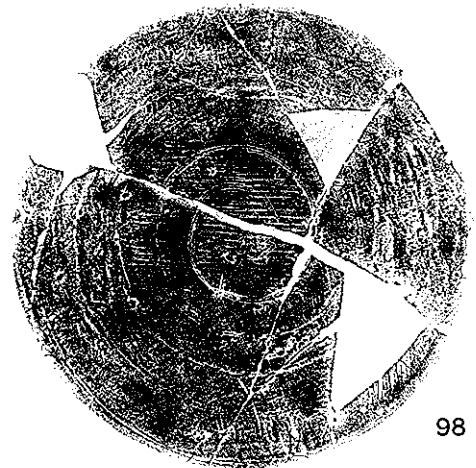
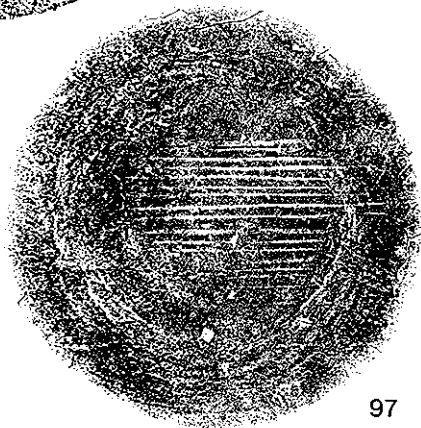
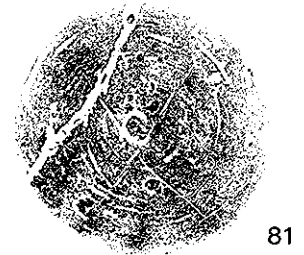
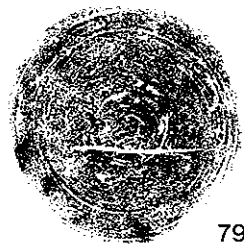
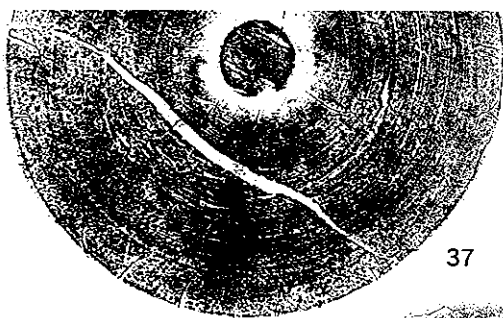
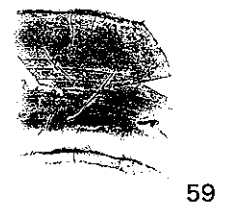
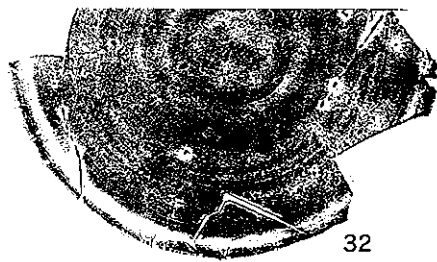
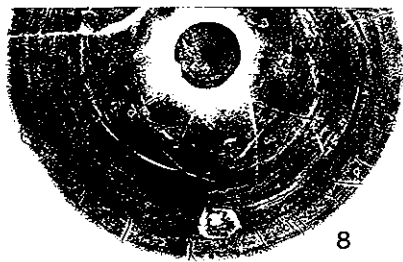
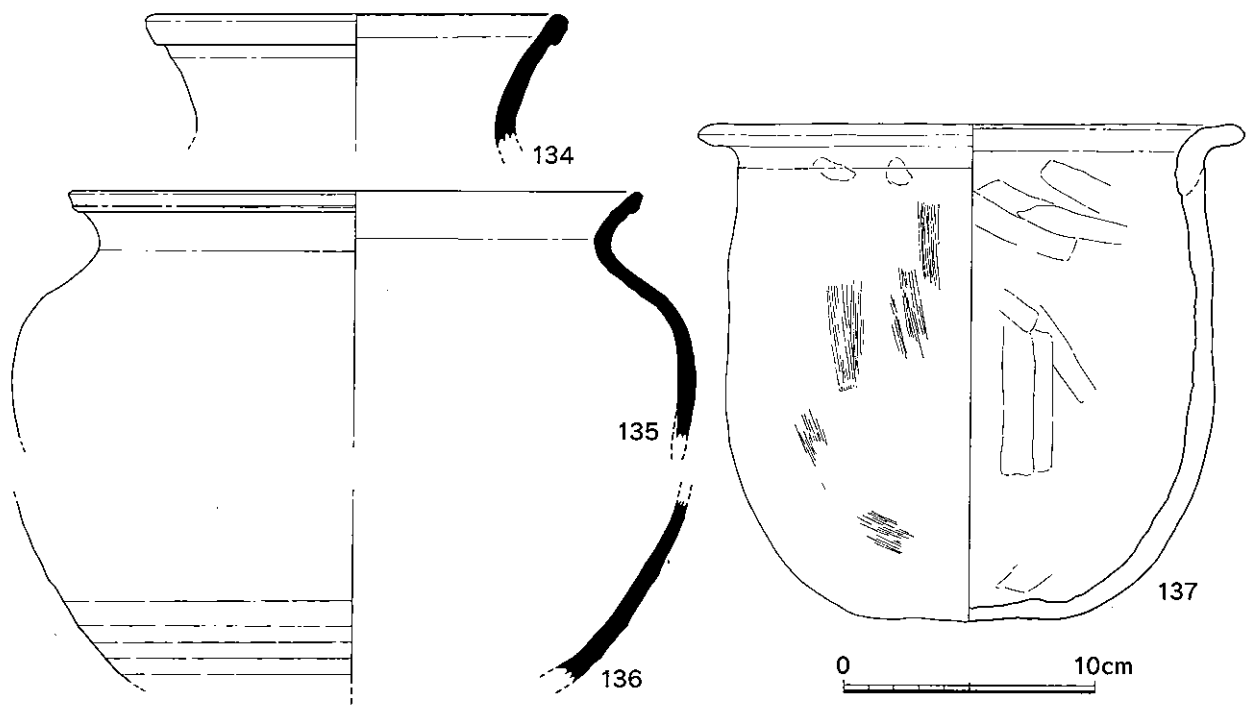
第9図 後田窯跡群77地点1号窯跡出土遺物実測図③ (1/3)



第10図 後田窯跡群77地点1号窯跡出土遺物実測図④ (1/3)



第11図 後田窯跡群77地点1号窯跡出土遺物実測図⑤ (1/3)

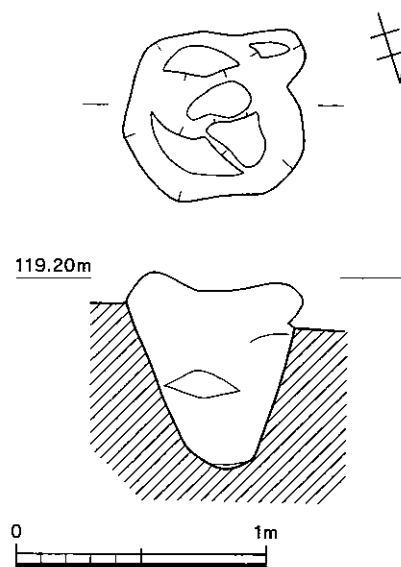


第12図 後田窯跡群77地点1号窯跡出土遺物実測図⑥ (1/3)

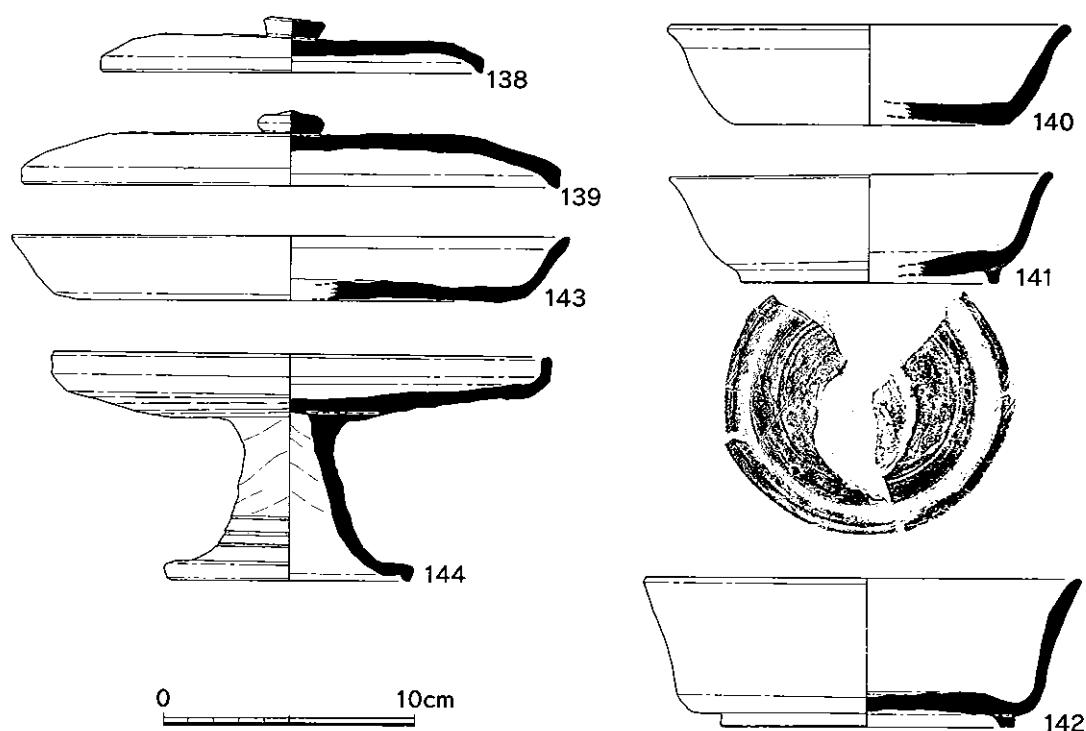
(2) 土坑 (第13図)

SX04 調査区やや北側に位置し、灰原掘削後に検出された。平面形はやや歪な円形を呈し、直径約70cm、深さは71cmを測る。埋土は、灰原と同様の黒色土の単層であり、比較的多くの須恵器が出土した。用途は不明であるが、1号窯とほぼ並存していた可能性が高い。

出土遺物 (第14図) 138・139は杯蓋。口径は15.1cm・21.4cm。いずれもつまみを持ち、口縁端部を下方に折り曲げる。140～142は杯身。140は高台を持たず(杯A)、141・142は高台を持つ(杯B)。141は外底面に3条1単位のヘラ記号状の痕跡が確認できるが、人為的な可能性は低い。143は皿。灰原出土資料と同様に焼成不良。144は高杯。口縁端部はややシャープさを欠く。



第13図 77地点SX04実測図 (1/30)

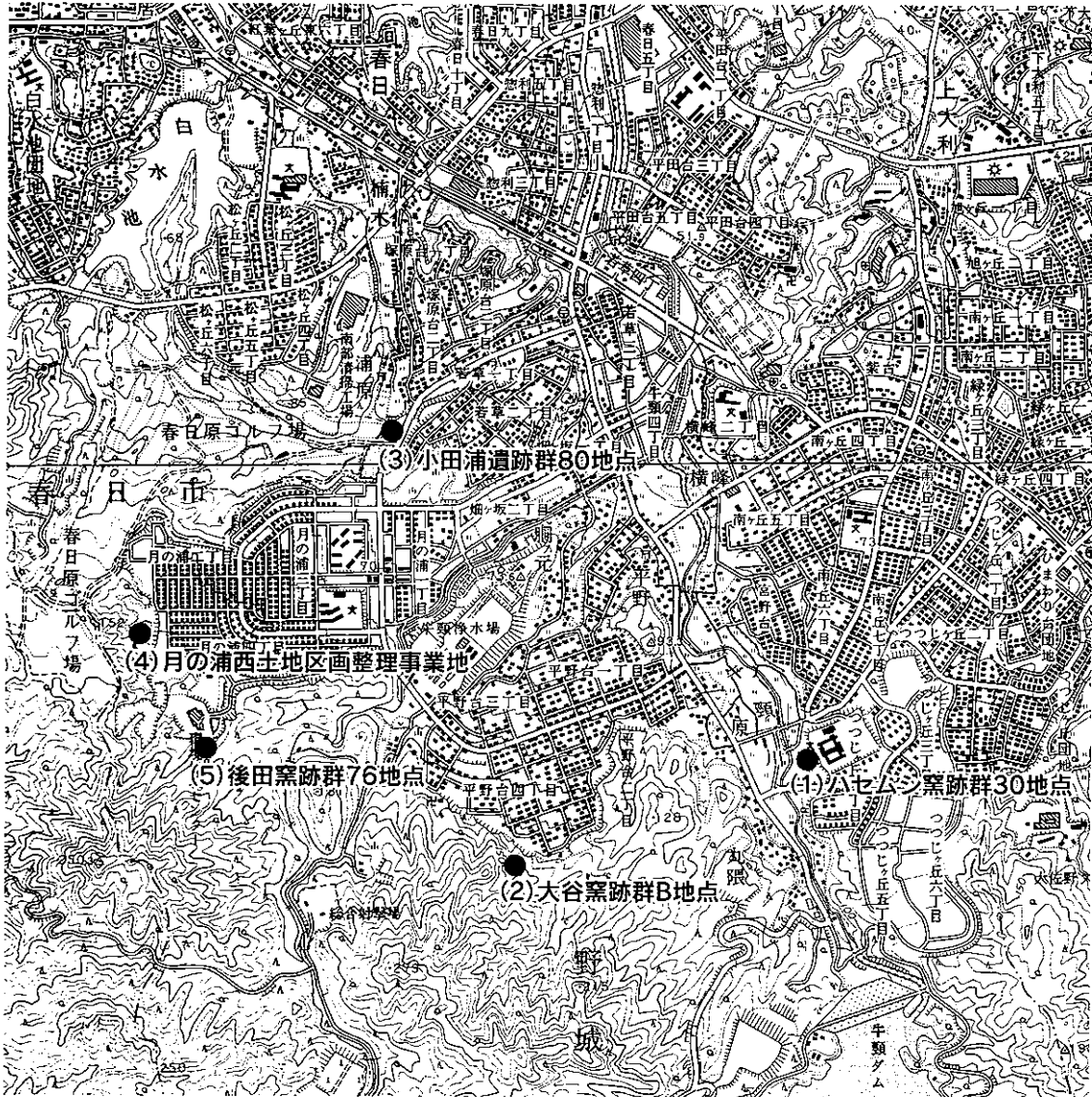


第14図 後田窯跡群77地点SX04出土遺物実測図 (1/3)

Ⅳ．牛頸地区における試掘・確認調査の結果

1．報告の経緯

本章では、牛頸地区で実施された試掘・確認調査のうち、遺構・遺物が検出されたものの本調査に至っていない事例、文化庁および福岡県の補助事業として調査を実施した事例などを、4遺跡5地点取り上げ、紹介したい。



第15図 試掘・確認調査地点位置図 (1/25,000)

2. 調査の結果

(1) ハセムシ窯跡群 30 地点確認調査

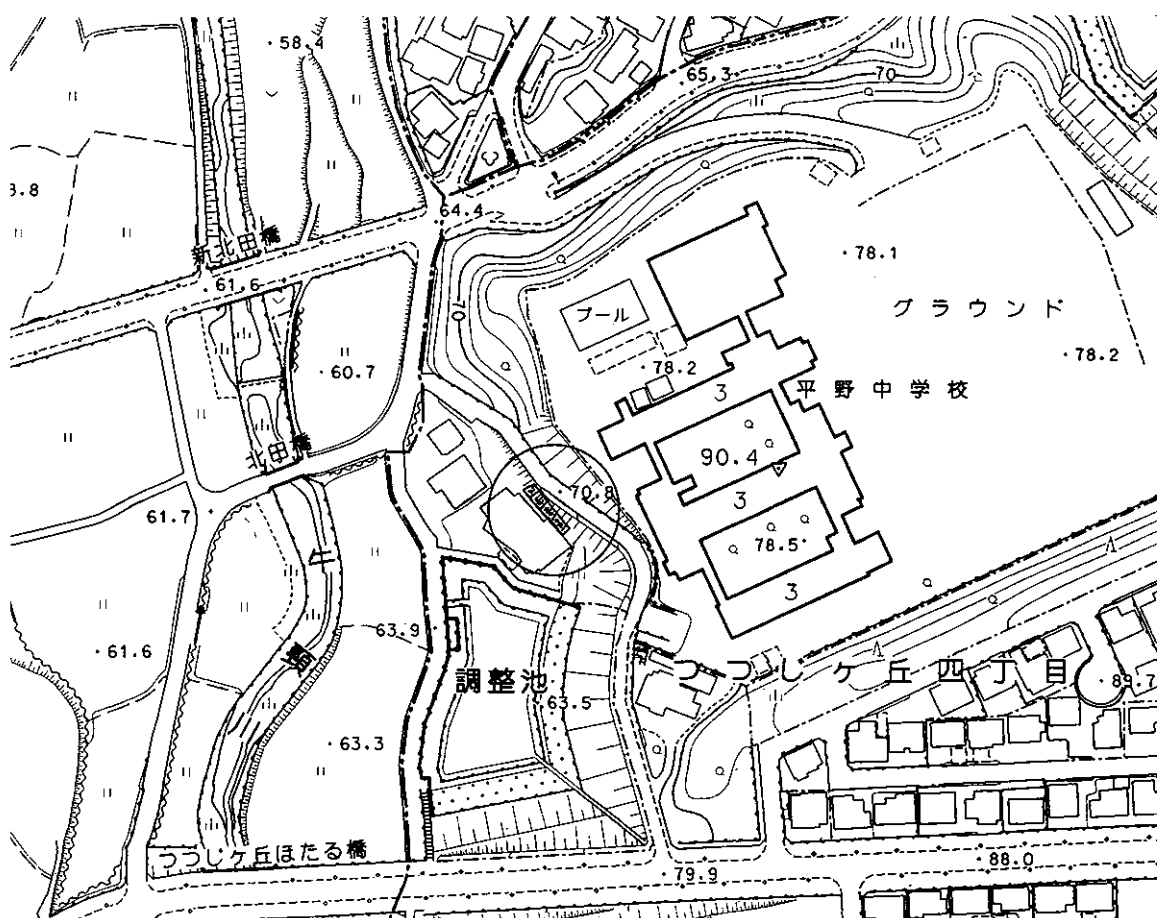
1. 対象地 大野城市つつじヶ丘4丁目 782-3 ほか
2. 開発内容 擁壁建設
3. 面積 258㎡
4. 調査日 平成 19 年 10 月 23 ～ 29 日
5. 調査の方法

当該地では、調査着手前から崖面において灰原の露出を確認することができた。工事は現況の崖面を約 1 m 幅で掘削し、擁壁を築造するものであり、影響を受ける部分のみ確認調査を実施した。調査の方法は、事前に崖面の精査を行い土層の堆積状況を記録した上で、バックホーを用いて灰原上の堆積土を除去した。さらに、作業員の安全確保（崖面での作業の軽減）のため、灰原土もバックホーで掻き落とし、その後遺物を採集した。

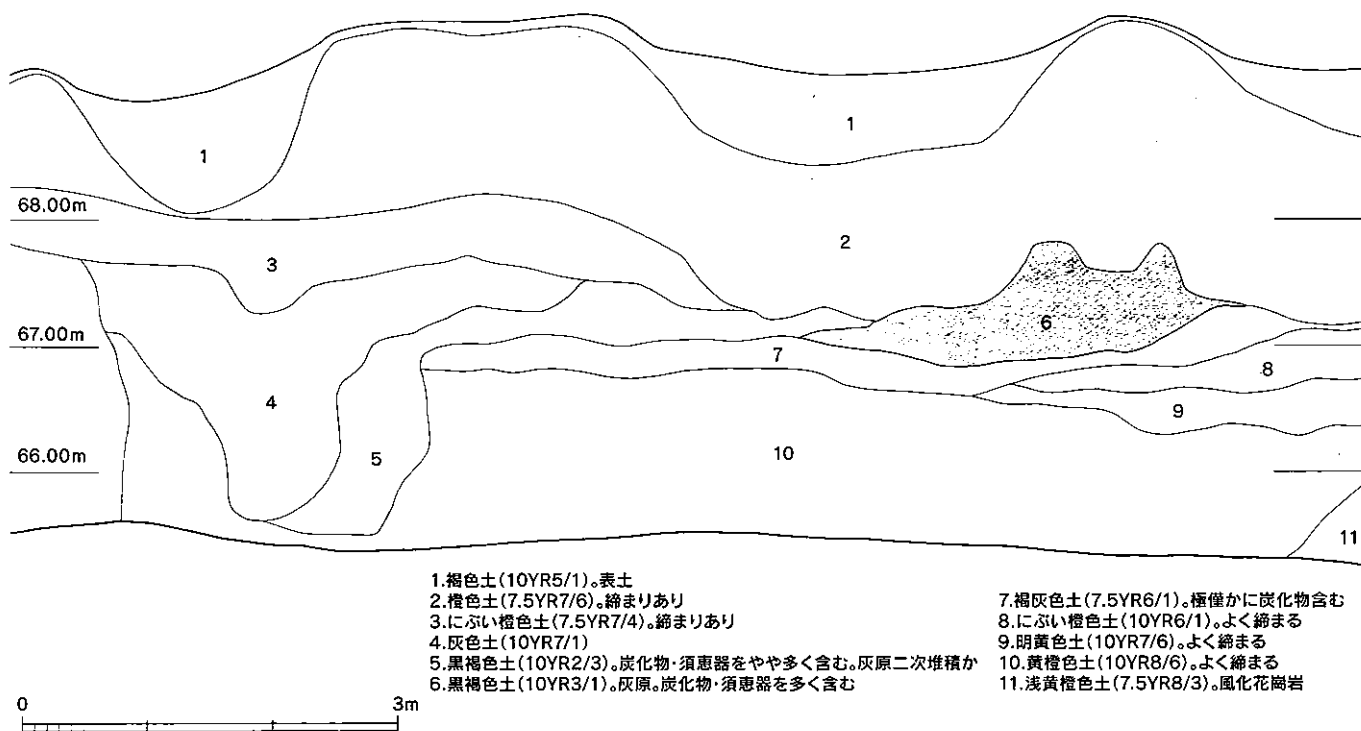
6. 調査の結果

窯体を検出することはできなかったが、幅 3.6 m の灰原を確認し、84kg 分の須恵器のほか、焼台、炭化材が出土した。

遺物（第 18 ～ 20 図） 須恵器杯身・杯蓋・高杯・鉢・長頸壺・甕が出土し、76 点を図化した。甕については底部から胴部の破片のため図化していない。



第16図 ハセムシ窯跡群30地点位置図 (1/2,500)



第17図 ハセムシ窯跡群30地点灰原土層図 (1/60)

145～190は杯蓋。145～178はつまみとかえりを持つ一群。天井部外面には回転ヘラケズリを施す。口径は12.0～13.0cmに集中する。つまみの形態は、145・146がやや扁平なボタン状、169・173・177はやや高さのある擬宝珠状、これ以外は扁平な擬宝珠状をなしている。ヘラ記号は145・146・149・152・159・162・169・189・190で確認され、いずれも外面、天井部付近に施される。ヘラ記号の種類は、145・146・149では1条の直線、162では2条の、169では3条の平行した直線、152は「×」状、182は2条の弧線を交差させた紡錘状の記号が2ヶ所施されている。なお、145の外面天井部には、放射状に刻み状の痕跡が微かに確認できる。

191～213は杯身。191～210は高台を持つ一群(杯B)。高台は高く外側に踏ん張り、体部は底部から丸みを持って立ち上がり、中位で緩やかに屈曲する資料が主体を占める。体部下半に回転ヘラケズリを施す資料(195・201・204)も散見される。口径は、13.0cm～14.8cmにすべて収まる。

ヘラ記号は196・202・208・209で確認される。196・208は2条の直線を1単位として、これを2単位重ねている。209は短沈線を右回りに連続させ半円を描く。

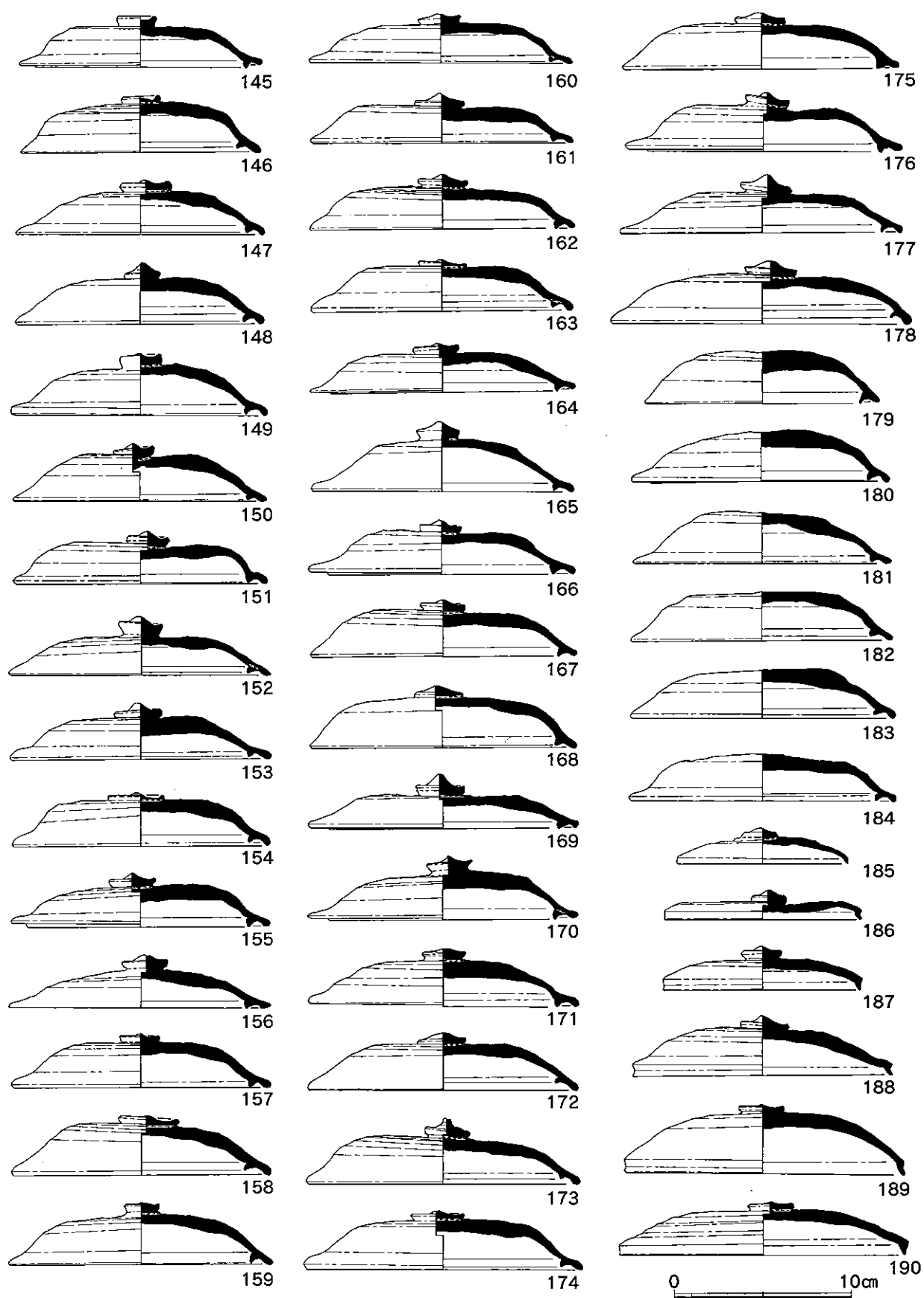
211～213は高台を持たない一群(杯A)。杯Bとは異なり、形態・法量とも多様である。213は一見、杯Hの蓋のようにも見えるが、口縁端部の形状等から判断した。穿孔が認められる。

214～217は高杯。216は杯部外面下側にヘラ記号を施す。218は一応鉢と報告するが、類例を知らない。外底部以外は比較的丁寧に回転ナデを施す。219は鉢。口縁端部が外反する。220は長頸壺か。5単位の櫛状工具を用いて肩部に波状文を施す。

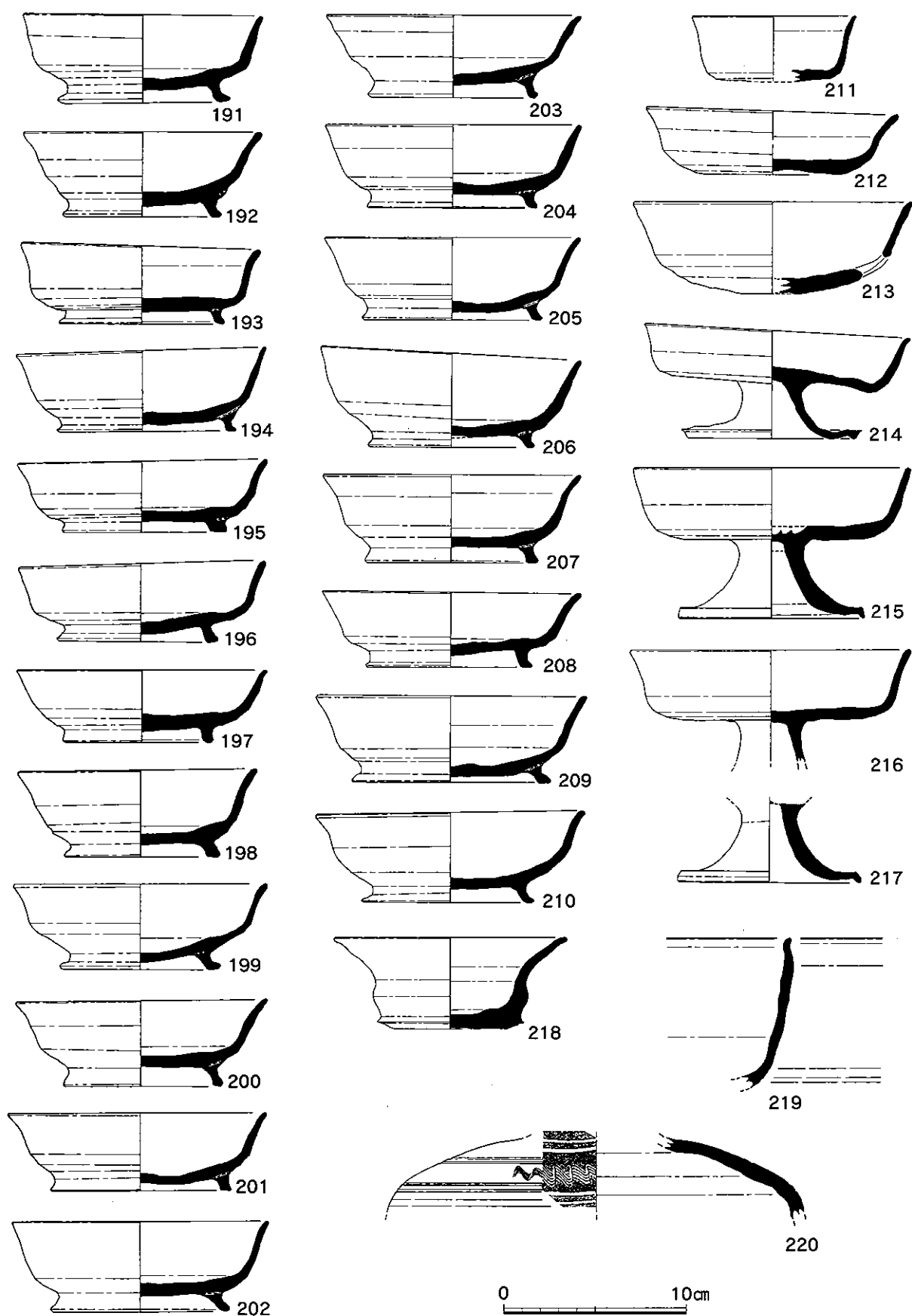
また図化していないが甕も出土している。大部分の破片は同一個体と考えられる。

7. 処置等

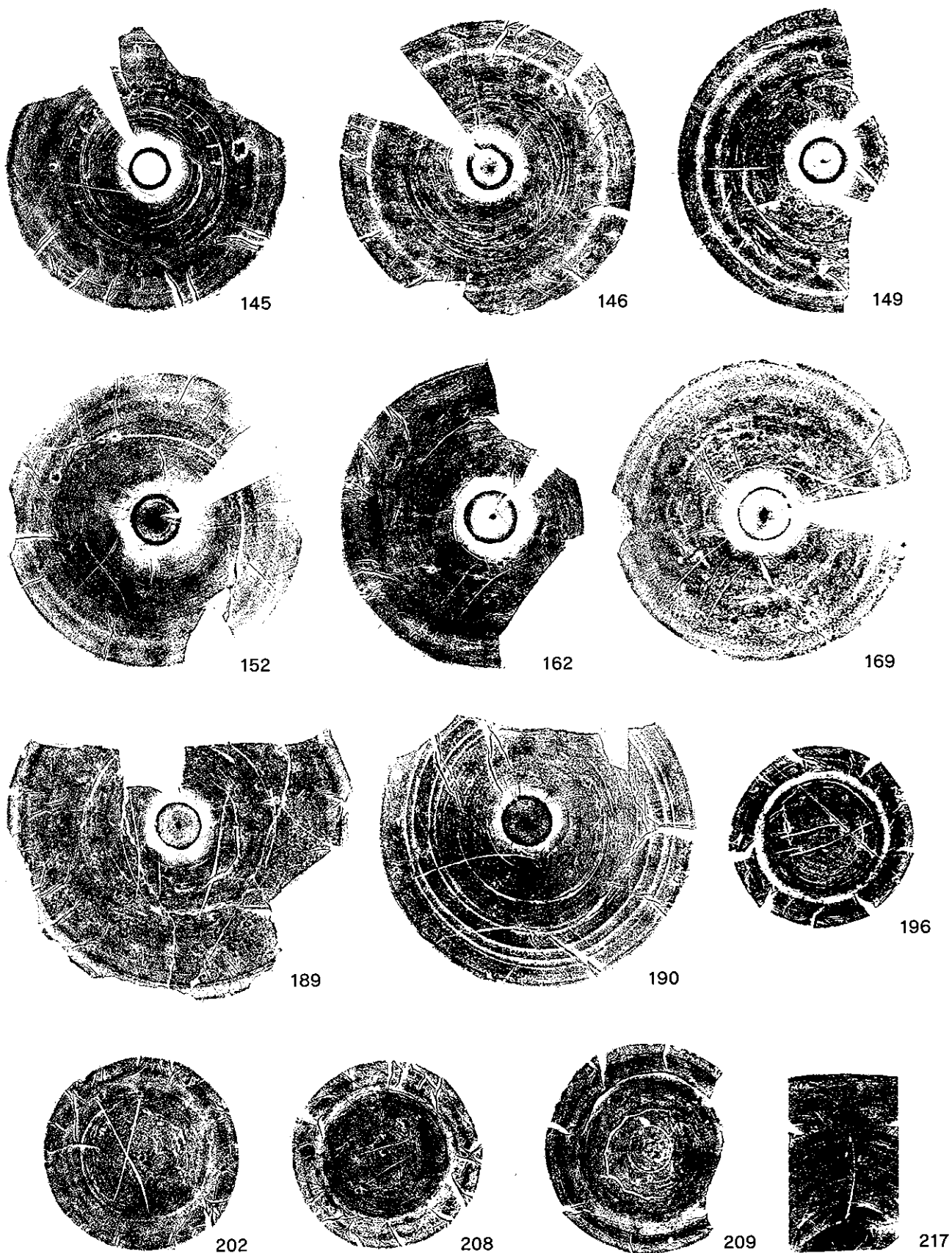
文化財保護法94条提出。確認調査後に工事立会に対応。



第18図 ハセムシ窯跡群30地点出土遺物実測図① (1/3)



第19図 ハセムシ窯跡群30地点出土遺物実測図② (1/3)



第20図 ハセムシ窯跡群30地点出土遺物実測図③ (1/3)

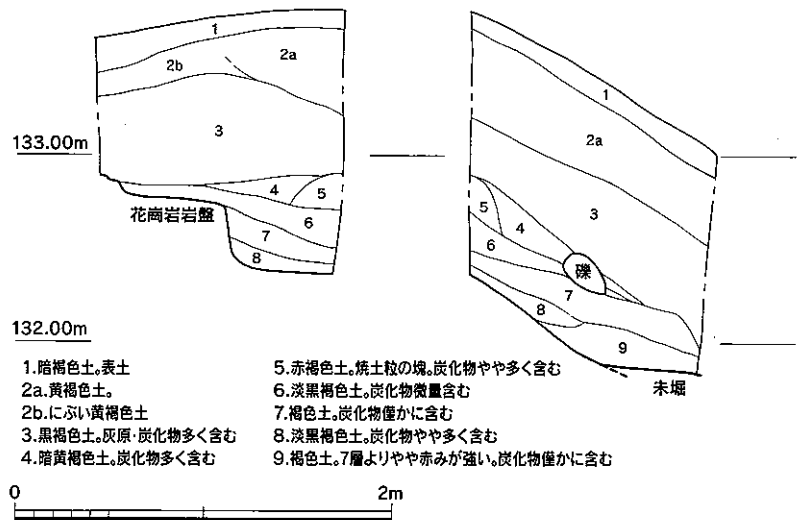
(2) 大谷窯跡群 B 地点試掘調査

1. 対象地 大野城市大字牛頸 2181-27 ほか
2. 開発内容 治山ダム建設
3. 面積 1200㎡
4. 調査日 平成 19 年 5 月 28 日～6 月 1 日、9 月 20 日
5. 調査の方法

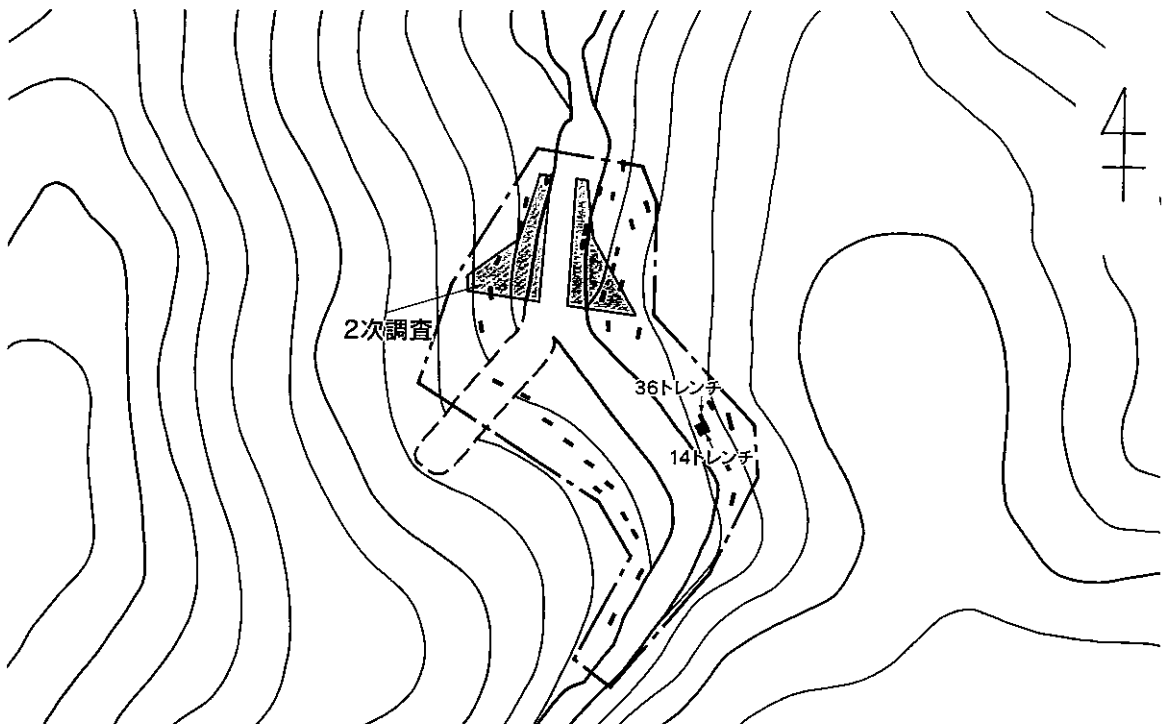
試掘調査は 2 度に分け実施した。1 次調査は、立竹木が残る段階で対象地全域にわたり人力によるトレンチ調査 (38 ヶ所) を行った。2 次調査は、立竹木の伐採後、工事の掘削範囲において、バックホーを用いて表土を全面除去し遺構検出を試みた。

6. 調査の結果

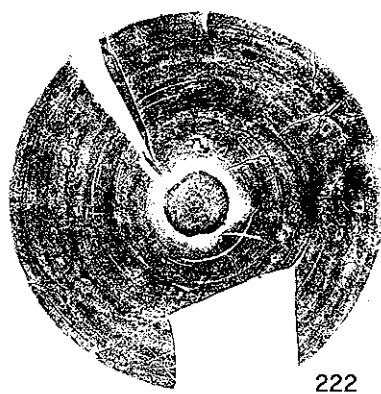
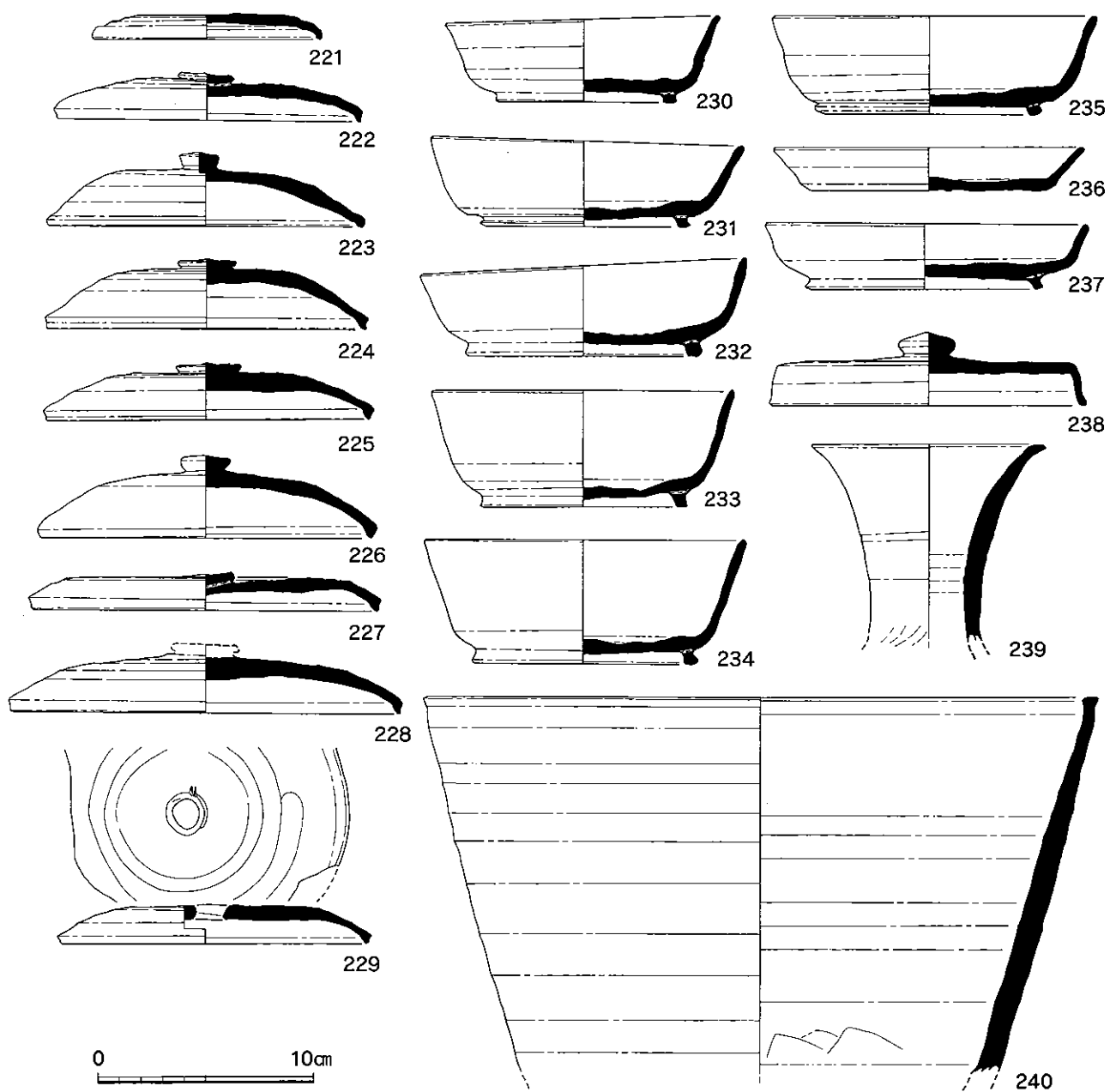
14 トレンチおよび 36 トレンチ南側において、須恵器窯跡の灰原を確認し、ここからパンコンテナ 1 箱分の須恵器が出土した。このことから付近に窯本体が存在するものと予測したが、窯体の確認には至らなかった。これ以外のトレンチからも散発的に須恵器片が出土したが、いずれも直近に窯体を想定することはできなかった。2 次調査では、遺構・遺物とも確認されなかった。



第21図 大谷窯跡群B地点トレンチ土層断面図 (1/40)



第22図 大谷窯跡群B地点トレンチ配置図 (1/1,000)



222



232

第23図 大谷窯跡群B地点出土遺物実測図 (1/3)

遺物(第23図) 須恵器杯身・杯蓋・高杯・鉢・長頸壺・短頸壺、土師器細片等が出土し、20点を図化した。

221～229は杯蓋。221はつまみを持たず、天井部外面には回転ヘラケズリを施していない。222～228はつまみを持ち、天井部外面には223(ナデ調整)・226(摩滅により調整不明)を除いて回転ヘラケズリを施す。222は外面口縁部付近にヘラ記号が確認できる。223は口縁部の屈曲が緩慢で内面に沈線を廻らせる。229は天井部中央に穿孔を持つ。つまみ除去(あるいは剥落)後に穿孔したようにも見える。230～235は杯身。232は底部外面にヘラ記号が確認できる。236・237は皿。236は高台を持たず、237は高台を持つ。238は短頸壺蓋。239は長頸壺。頸部に浅く沈線が廻る。240は鉢。口縁端部が若干肥厚する。

7. 処置等

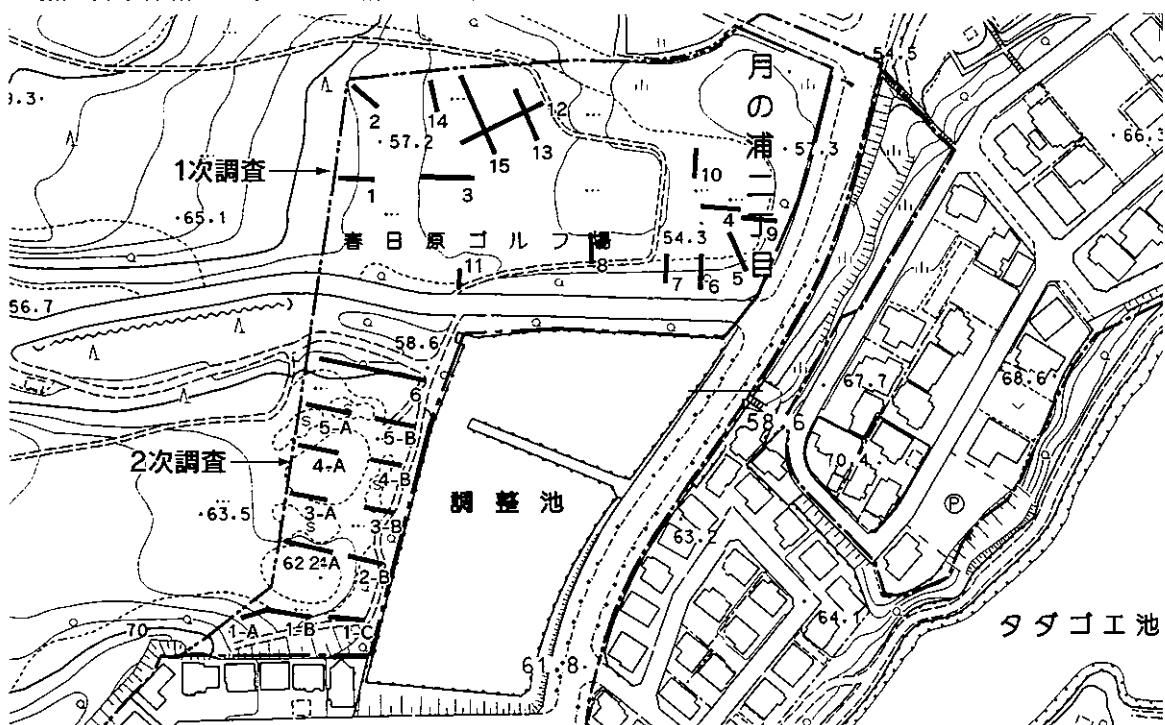
灰原が確認された部分は、治山ダムの掘削範囲ではなく、土砂の堆積後もその影響は軽微なものと考えられる。文化財保護法94条提出。慎重工事に対応。

(3) 小田浦遺跡群80 地点試掘調査

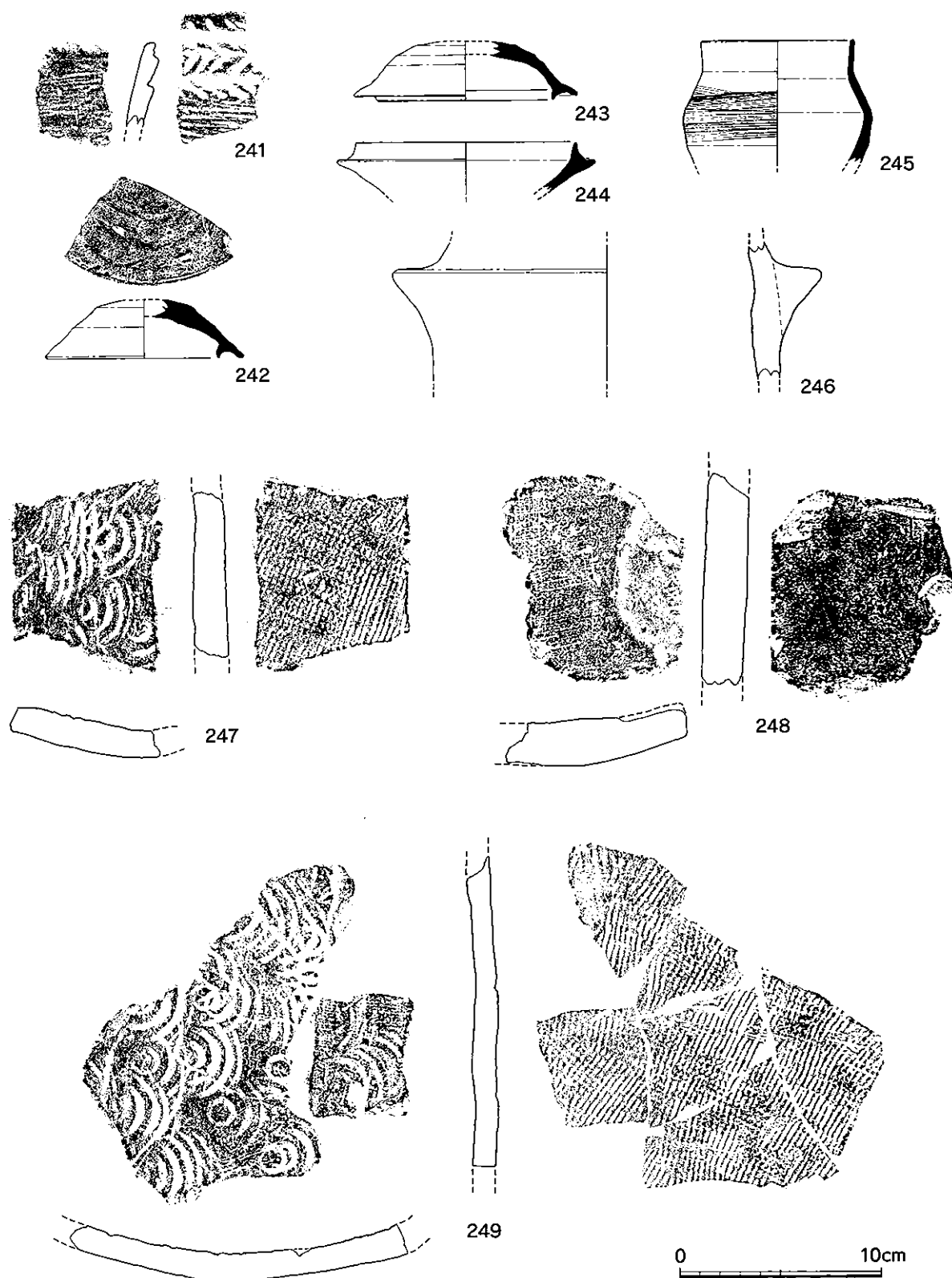
1. 対象地 大野城市月の浦2丁目8ほか
2. 開発内容 宅地造成
3. 面積 20,822㎡
4. 調査日 平成17年11月30日、12月2・9日(1次調査)
平成20年5月7・8日(2次調査)

5. 調査の方法

総開発面積429,819㎡(うち本市分20,822㎡)におよぶ開発であったため、平成16年5月に協定書を締結したうえで、試掘調査を実施した。樹木の伐採等の問題から、北側を平成17年度(1



第24図 小田浦遺跡群80地点トレンチ配置図(1/2,000)



第25図 小田浦遺跡群80地点出土遺物実測図 (1/3)

次調査)、南側を平成 20 年度(2 次調査)に分け調査を進めた。調査はバックホーを用いたトレンチ調査(1 次調査:15 ヶ所、2 次調査:12 ヶ所)を行い、遺構・遺物の検出、土層堆積状況の観察に努めた。なお、当該調査は文化庁および福岡県の補助事業として実施した。

6. 調査の結果

1 次調査:12・13・15 トレンチでは、現地表下 1.4～1.85 m において褐色土に至り、ここから古墳時代後期から飛鳥時代の須恵器・土師器・瓦が出土した。この包含層を除去すると、淡褐色～淡橙褐色土(ローム層)に至り、上面を精査したところ、いくつかの土坑・ピットを検出することができた。検出作業中、この土坑上面において縄文土器片(第 25 図 241)が出土した。

これ以外のトレンチに関しては、遺物・遺構は全く検出することができなかった。5～7 トレンチでは、北・西側に向かい急激に落ち込む状況が確認され、1～4・8～11 トレンチでは粘質土・砂質土が厚く堆積していた。

2 次調査:1-A、2-A トレンチの一部で明確な地山(花崗岩バイラン土)を確認したが、これ以外のトレンチは、約 4 m の盛土下に砂質土等が堆積し、安定した面を確認することができなかった。対象地の大部分は本来谷部にあたると考えられ、遺構・遺物とも検出することはできなかった。

遺物(第 25 図) 241 は縄文土器。口縁部をやや肥厚させ、羽状文状の短沈線を施す。縄文時代後期の北久根山式。242・243 は須恵器杯蓋。242 にはヘラ記号が確認できる。244 は須恵器杯身。245 は須恵器壺。胴部上半にカキメを廻らす。246 は円筒状土製品。口縁部を欠くが、口縁直下の可能性が高い。土師質に焼成されている。247～249 は平瓦。247・249 は凸面に平行タタキ痕、凹面に布目痕、同心円当て具痕が、248 は凸面にナデ、凹面に布目痕が確認できる。なお、249 の凸面にはタタキ痕を切るように横位の縄状の圧痕が微かに観察できる。

7. 処置等

1 次調査地点については現在協議中。

(4) 月の浦西土地区画整理事業地内確認調査

1. 対象地 大野城市大字牛頸 2474-1 外
2. 開発内容 宅地造成
3. 面積 70,032㎡
4. 調査日 平成 20 年 8 月 20 日、9 月 3 日
5. 調査の方法

当該事業は総開発面積 70,000㎡におよぶ開発であるが、昭和 57 年から平成 3 年にかけて試掘・発掘調査を実施した牛頸土地区画整理事業地に一部重複ほか、平成 4 年度にもバス営業所建設に伴い試掘調査を実施している。なお、対象地の一部は周知の埋蔵文化財包蔵地「後田遺跡」に該当し、平成 20 年 8 月に協定書を締結した上で、かつての調査部分と、緑地保全部分を除いた範囲について確認調査を実施した。

対象地は、旧地形が推定可能な斜面部と、旧地形が全く不明な平坦部に分けられるが、原則として前者は斜面下方を鉢巻状に表土を剥ぎ、後者については通常のトレンチ調査を行なうことに



第26図 月の浦西土地区画整理事業地内トレンチ配置図 (1/1,000)

よって遺構・遺物の検出に努めた。

6. 調査の結果

斜面部に設定した調査区 (1～4・23～29 トレンチ) では、現地表下 10～100cm で地山 (3・4 トレンチはローム層、それ以外は花崗岩パイラン土) に達したが、遺構・遺物とも確認することはできなかった。平坦部の調査区 (5～22 トレンチ) では、7・11 トレンチと 8・10 トレンチの間に小さな谷部が存在し、また 5 トレンチより北側は大きく急激に落ち込む状況が明らかとなった。これ以外のほとんどの部分では、削平された後に盛土されており、やはり遺構・遺物とも確認することができなかった。

7. 処置等

文化財保護法 93 条提出。慎重工事に対応。

(5) 後田窯跡群 76 地点確認調査

1. 対象地 大野城市大字牛頸 2472-70 外
2. 開発内容 環境処理センター整備
3. 面積 149,510㎡
4. 調査日 平成 12 年 3 月 1 日～10 日、平成 13 年 9 月 10 日～17 日



第27図 後田窯跡群76地点確認調査範囲図 (1/5,000)

5. 調査の方法

調査対象面積が約 150,000㎡と広いため、まず平成 11 年度に全域を山林の状態のまま人力にてテストピットもしくはトレンチを設定し、調査した。平成 13 年度には、この結果を受けて、発掘調査が必要な範囲を確定するため、より詳細な調査を実施した。その際は、立木を伐採し、その後バックホーを用いて表土を掻き落とす方法を採用した。

6. 調査の結果

調査地は谷で、西向き斜面と東向き斜面がある。平成11年度の調査では、4ヶ所で須恵器が表採され、5ヶ所のテストピットもしくはトレンチで須恵器が出土し、2m×2m程度の灰原が1ヶ所確認されたが、これらはすべて東向き斜面においてであった。このような結果を受けて、平成13年度には西向き斜面から掘削を開始したが、全体的に表土下20cm～40cm程度で花崗岩の岩盤に至り、遺構・遺物とも全く出土しなかった。ついで東向き斜面の掘削を行った。こちらでは表土下40cm～70cm程度で花崗岩パイラン土に達し、2ヶ所で灰原を確認することができた。うち1ヶ所は、基数や遺存状態は不明ながら窯跡が存在することが明らかになった。これらの灰原からは、8世紀半ばから後半に当たる須恵器が出土した。

7. 処置等

発掘調査が必要と判断された範囲については、平成13年11月より発掘調査を実施した。

V. 自然化学分析の成果

1. 後田窯跡群 77 地点およびハセムシ窯跡群 30 地点出土炭化材の樹種

バリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

今回の分析調査では、牛頸窯跡群の支群である、後田窯跡群 77 地点およびハセムシ窯跡群 30 地点における燃料材の利用状況に関する情報を得ることを目的として、灰原等から出土した炭化材について、樹種同定を実施する。

牛頸窯跡群における燃料材の検討は、窯跡群北東部の平野に隣接する低丘陵に位置する 6 世紀の開窯期以降の支群を中心に調査成果が蓄積されてきている。今回調査を行う後田窯跡群・ハセムシ窯跡群は、丘陵奥部に位置する支群であり、山間部での燃料材の利用状況を把握する上で重要である。以下に窯跡群ごとの成果について述べる。

1 後田窯跡群 77 地点

1 試料

炭化材試料は、8 世紀前半～中頃の灰原および前庭部 (SX02) から出土した炭化材 6 点 (試料番号 1～6) である。

2 分析方法

試料を自然乾燥させた後、木口 (横断面)・柁目 (放射断面)・板目 (接線断面) の 3 断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類を同定する。なお、木材組織の名称や特徴については、島地・伊東 (1982) および Wheeler 他 (1998) に従う。また、各分類群の組織配列については、林 (1991) や伊東 (1995, 1996, 1997, 1998, 1999) を参考にする。

3 結果

樹種同定結果を第 2 表に示す。炭化材は、広葉樹 3 分類群 (コナラ属アカガシ亜属・シキミ・イスノキ) に同定された。各樹種 (分類群) の解剖学的特徴等を以下に記す。

第 2 表 後田窯跡群 77 地点の樹種同定結果

番号	遺構・採取位置	時期	樹種
1	灰原左下	8 世紀前半～中頃	コナラ属アカガシ亜属
2	灰原右下	8 世紀前半～中頃	イスノキ
3	灰原右下	8 世紀前半～中頃	シキミ
4	灰原タテベルト	8 世紀前半～中頃	イスノキ
5	前庭部 (SX02)	8 世紀前半～中頃	イスノキ
6	前庭部 (SX02)	8 世紀前半～中頃	イスノキ

・コナラ属アカガシ亜属 (*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*) ブナ科

放射孔材で、管壁厚は中庸～厚く、横断面では楕円形、単独で放射方向に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1～15 細胞高のものと複合放射

組織とがある。

・シキミ (*Illicium anisatum* L.) シキミ科シキミ属

散孔材で、管壁厚は中庸～薄く、横断面では多角形、単独または2～4個が複合する。道管の分布密度は高い。道管は階段穿孔を有し、壁孔は階段状～対列状に配列、道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、1～2細胞幅、1～20細胞高で、構成する個々の細胞が大きい。

・イスノキ (*Distylium racemosum* Sieb. et Zucc.) マンサク科イスノキ属

散孔材で、道管は横断面で多角形、ほとんど単独で散在する。道管の分布密度は比較的高い。道管は階段穿孔を有する。道管内壁には充填物が顕著に認められる。放射組織は異性、1～3細胞幅、1～20細胞高。柔組織は、独立帯状または短接線状で、放射方向にほぼ等間隔に配列する。

4 考察

後田窯跡群 77 地点の8世紀前半～中頃の灰原および前庭部 (SX02) から出土した、燃料材と考えられる炭化材6点は、アカガシ亜属、イスノキ、シキミの3樹種に同定された。いずれの樹種も常緑広葉樹であり、アカガシ亜属・イスノキは高木となる暖温帯常緑広葉樹林 (いわゆる照葉樹林) の主要構成種、シキミはモミ林などの林床に認められる小高木である。これらのことから、後田窯跡群 77 地点操業時の8世紀前半～中頃には、窯跡群周辺に常緑広葉樹を主とした林分が存在し、そこから燃料材を獲得していたことが示唆される。なお、各樹種の木材の材質は類似し、比較的重硬・緻密で、強度の高い材質を有している。

牛頸窯跡群における8世紀前半～中頃の燃料材の樹種は、牛頸窯跡群北東部に位置する本堂遺跡5次の窯跡からアカガシ亜属1点、梅頭遺跡3次の窯跡からヤマモモ・ガマズミ属各1点が確認されている (パリノ・サーヴェイ, 2008)。これらの調査成果は常緑広葉樹を含む点では、今回の結果と同調的であるものの、資料数が少なく、支群間での比較検討は今後の課題とされる。なお、梅頭遺跡や本堂遺跡における、6世紀前半～中頃、6世紀末～7世紀初頭、7世紀前半～中頃、8世紀前半～中頃、8世紀中頃～後半の各時期の燃料材の樹種構成をみると、各時期を通じてアカガシ亜属・スダジイ・ツブラジイを中心に複数の樹種が利用されている傾向が窺える。今回の結果も同様の傾向を示しており、常緑広葉樹からなる複数の樹種を燃料材として利用していることが、牛頸窯跡群における燃料材利用の一つの特徴として認識される。

なお、今回の窯跡が操業していた8世紀前半～中頃は、牛頸窯跡群の操業期間中で最も多くの窯が造られる時期であり (舟山, 2008)、燃料材獲得に伴う森林資源の様相も変化していることが予測される。牛頸窯跡群が位置する地域は西九州内陸性気候区に位置し、本地域では常緑広葉樹林の植生破壊の進行に伴い、シイ・カシ類の萌芽林が成立し、さらに過度の植生破壊が及ぶと夏緑樹林要素や内陸高所を中心にマツ林が増加するとされる (宮脇 編, 1981)。今回の結果のみでは当時の植生を推定することは難しく、今後、調査地域の当該期の古植生変遷について古植物学的調査方法により検討し、発掘調査成果との複合的解析から、窯業地域における人為的植生攪乱の実態を明らかにしていくことが課題と考えられる。

II ハセムシ窯跡群 30 地点

1 試料

炭化材試料は、7世紀後半～末の灰原から出土した炭化材 12 点（試料番号 7～18）である。

2 分析方法

試料を自然乾燥させた後、木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の 3 断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類を同定する。なお、木材組織の名称や特徴については、島地・伊東 (1982) および Wheeler 他 (1998) に従う。また、各分類群の組織配列については、林 (1991) や伊東 (1995, 1996, 1997, 1998, 1999) を参考にする。

3 結果

第 3 表 ハセムシ窯跡群 30 地点の樹種同定結果

樹種同定結果を第 3 表に示す。炭化材は、広葉樹 6 分類群（コナラ属アカガシ亜属・ツブラジイ・スダジイ・タブノキ属・シャリンバイ・ハイノキ属ハイノキ節）に同定された。各分類群の解剖学的特徴等を以下に記す。

・コナラ属アカガシ亜属 (*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*) ブナ科

放射孔材で、管壁厚は中庸～厚く、横断面では楕円形、単独で放射方向に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔

は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1～15 細胞高のものと複合放射組織とがある。

・ツブラジイ (*Castanopsis cuspidata* (Thunberg) Schottky) ブナ科シイ属

環孔性放射孔材で、道管は接線方向に 1～2 個幅で放射方向に配列する。孔圏部は 3～4 列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1～20 細胞高のものと集合～複合放射組織とがある。

・スダジイ (*Castanopsis cuspidata* var. *sieboldii* (Makino) Nakai) ブナ科シイ属

環孔性放射孔材で、道管は接線方向に 1～2 個幅で放射方向に配列する。孔圏部は 2～4 列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1～20 細胞高。

ツブラジイとスダジイは、集合～複合放射組織の有無で区別されるが、現生標本の観察では集合～複合放射組織の出現頻度は個体によって大きく異なり、出現頻度が著しく低い固体もある。そのため、今回スダジイとした試料についても、実際にはツブラジイの可能性があるが、本報告では炭化材試料を一通り確認して集合～複合放射組織が全く確認できなかった場合にはスダジイ

番号	遺構	時期	樹種
7	灰原	7世紀後半～末	タブノキ属
8	灰原	7世紀後半～末	コナラ属アカガシ亜属
9	灰原	7世紀後半～末	コナラ属アカガシ亜属
10	灰原	7世紀後半～末	ハイノキ属ハイノキ節
11	灰原	7世紀後半～末	ツブラジイ
12	灰原	7世紀後半～末	シャリンバイ属
13	灰原	7世紀後半～末	コナラ属アカガシ亜属
14	灰原	7世紀後半～末	ハイノキ属ハイノキ節
15	灰原	7世紀後半～末	コナラ属アカガシ亜属
16	灰原	7世紀後半～末	スダジイ
17	灰原	7世紀後半～末	スダジイ
18	灰原	7世紀後半～末	タブノキ属

とした。

・タブノキ属 (*Persea*) クスノキ科

散孔材で、管壁は厚く、横断面では楕円形、単独および2～3個が放射方向に複合して散在し、年輪界に向かって径を減少させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性、1～3細胞幅、1～20細胞高。柔組織は周囲状、翼状および散在状。柔細胞はしばしば大型の油細胞となる。

・シャリンバイ属 (*Raphiolepis*) バラ科シャリンバイ属

散孔材で、管壁は中庸、ほぼ単独で散在する。道管の分布密度は比較的高い。道管は単穿孔を有する。壁孔は保存が悪く観察できない。放射組織は異性、1～3細胞幅、1～20細胞高。

・ハイノキ属ハイノキ節 (*Symplocos sect. Lodhra*) ハイノキ科

散孔材で、管壁は薄く、横断面では多角形～角張った楕円形、単独および2～4個が複合して散在する。道管は階段穿孔を有し、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、1～2細胞幅、1～20細胞高。

4 考察

ハセムシ窯跡群 30 地点の7世紀後半～末の灰原から出土した炭化材 12 点は、コナラ属アカガシ亜属・ツブラジイ・スダジイ・タブノキ属・シャリンバイ・ハイノキ属ハイノキ節の6樹種に同定された。調査点数に比して樹種構成が豊富であり、燃料材として、特定の樹種を利用するのではなく、周辺より入手可能な複数の樹種を利用していたことが推定される。

確認された樹種は、いずれも常緑広葉樹である。ツブラジイ・スダジイ・タブノキ属・アカガシ亜属は高木となり、暖温帯常緑広葉樹林の主要な構成種となる種が多い。このうち、スダジイやアカガシ亜属は萌芽能力が高い樹種であり、人為的植生攪乱が及んだ暖温帯常緑広葉樹林において二次林を形成している。ハイノキ節の種は小高木～高木からなり、暖温帯常緑広葉樹林に分布するものが多い。シャリンバイ属は低木～小高木からなり、現在の分布は暖地の海岸部とされる。これらの各樹種の分布から、7世紀後半～末の本窯跡周辺にはツブラジイ・スダジイやアカガシ亜属を中心とした常緑広葉樹からなる林分が存在し、そこから燃料材となる木材を獲得していたことが推定される。なお、これらの樹種の木材の材質は、比較的重硬な材質を有する種類が多い。

牛頸窯跡群では、7世紀後半～末の燃料材に関する調査成果がほとんど存在しない。そのため、牛頸窯跡群の支群間での比較検討はできないが、窯跡群開窯期の支群が分布する北東部の低丘陵に位置する本堂遺跡・梅頭遺跡・野添遺跡では、6世紀前半～中頃、6世紀末～7世紀初頭、7世紀前半～中頃、8世紀前半～中頃、8世紀中頃～後半の各時期の燃料材の利用状況が確認されている (パリノ・サーヴェイ, 2008; 古環境研究所, 2006・2007)。これらの調査成果をみると、各時期を通じて、燃料材にはアカガシ亜属・スダジイ・ツブラジイといった常緑広葉樹を中心に複数の樹種が燃料材として利用されている状況が窺える。今回のハセムシ窯跡群 30 地点の7世紀後半～末の燃料材は、上記したように多種類の常緑広葉樹を利用していることから同調的であり、山間部でも平野に隣接する丘陵縁辺域と同様な燃料材の利用状況にあったことが示唆される。

牛頸窯跡群では、発掘調査成果から、7世紀前半～中頃に操業開始する窯跡が減少し、7世紀後半にふたたび窯跡の数が増加することが確認されている（舟山,2008）。上記したようにスタジイなどは萌芽林を構成する樹種でもあることから、7世紀後半～末のハセムシ窯跡群30地点の周辺植生が人為的植生攪乱が及んだ二次林のような林分であった可能性もある。今後、本時期およびその前・後期の調査地点周辺の古植生変遷について検討し、発掘調査成果を含めた複合的な評価検討により、本地域における森林資源の利用状況が明らかにされていくものと考ええる。

引用文献

- 舟山良一,2008,Ⅳ.窯跡の分布.牛頸窯跡群—総括報告書Ⅰ— 大野城市文化財調査報告書 第77集,大野城市教育委員会,31-39.
- 株式会社古環境研究所,2006,野添遺跡6・7次調査における樹種同定.大野城市文化財調査報告書 第70集 上 大和土地区画整理事業地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅳ 牛頸野添遺跡群Ⅳ ～第7次調査～,大野城市教育委員会,95-99.
- 株式会社古環境研究所,2007,梅頭遺跡第1次調査における樹種同定.大野城市文化財調査報告書 第70集 上 大和土地区画整理事業地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ 牛頸梅頭遺跡群Ⅰ～第1次調査～,大野城市教育委員会,72-75.
- 三村 昌史・高橋 敦,2005,第6次調査出土材の樹種からみた木材利用.「福岡市埋蔵文化財調査報告書第839集 下月隈C遺跡Ⅴ —福岡空港周辺整備工事に伴う下月隈C遺跡第6次調査報告— 本文編」,福岡市教育委員会,221-230.
- 宮脇 昭 編著,1981,日本植生誌 九州.至文堂,484p.
- 林 昭三,1991,日本産木材 顕微鏡写真集.京都大学木質科学研究所.
- 伊東 隆夫,1995,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ.木材研究・資料,31,京都大学木質科学研究所,81-181.
- 伊東 隆夫,1996,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ.木材研究・資料,32,京都大学木質科学研究所,66-176.
- 伊東 隆夫,1997,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ.木材研究・資料,33,京都大学木質科学研究所,83-201.
- 伊東 隆夫,1998,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ.木材研究・資料,34,京都大学木質科学研究所,30-166.
- 伊東 隆夫,1999,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ.木材研究・資料,35,京都大学木質科学研究所,47-216.
- パリーノ・サーヴェイ株式会社,2008,本堂遺跡・梅頭遺跡における古植生および木材資源の利用状況.大野城市文化財調査報告書 第87集 上 大和土地区画整理事業地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅳ 牛頸梅頭・本堂遺跡群～自然科学分析編～,大野城市教育委員会,58-114.
- 島地 謙・伊東 隆夫,1982,図説木材組織.地球社,176p.
- Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E. (編),1998,広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡の特徴リスト.伊東 隆夫・藤井 智之・佐伯 浩(日本語版監修),海青社,122p. [Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.(1989)*IWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification*].

VI. まとめ

1. 各調査地点の概要と時間的位置づけ

(1) 後田窯跡群 77 地点発掘調査

須恵器窯 1 基、土坑 1 基を調査した。須恵器窯は、全長 3.4 m の地下式直立煙道窯であり、その規模および形態的な特徴は、奈良時代の牛頸窯跡群の特徴をよく示している。出土須恵器を見ると、杯蓋では、口縁部を下方に屈曲させ、天井部にヘラケズリを施し、やや扁平な擬宝珠状・ボタン状のつまみが主体を占める。杯身では、器高・高台とも比較的扁平で、底部と体部の境は丸みを帯びる資料が多いという特徴が指摘できる。こうした土器群は、牛頸編年（舟山 2008）のⅦB 期古段階に概ね相当しよう。ただし当該期の標識資料である石坂 C-1 号窯跡よりも、総体的に古い様相が強く、8 世紀中頃の年代観が想定できよう。

(2) ハセムシ窯跡群 30 地点確認調査

須恵器窯の灰原を一部調査した。擁壁工事の影響を受ける部分のみの調査であったため、窯体を確認することはできなかった。出土須恵器を見ると、杯蓋では、身受けのかえりがある資料（かえり端部は口縁端部より上位）が主体をなし、つまみはシャープさに欠ける擬宝珠状が多い。杯身では、高台は高く外側に踏ん張り、体部に丸みを持つという特徴が指摘できる。こうした土器群は、牛頸編年のⅥ期（7 世紀後半）に該当し、かえりの形状等を勘案するとⅥ期の中でも比較的新しい様相が強いといえよう。このほか牛頸編年ⅦA 期古段階に相当する、杯蓋の口縁端部が下方に折り曲げられた一群（第 18 図 185～190）も少量（約 10%）ながら確認されている。この出土状況が、Ⅵ～ⅦA 期の移行期の様相なのか、長期間の使用の結果なのか、複数窯の遺物が出土した結果なのか、今回の調査で解明することはできなかった。

(3) 大谷窯跡群 B 地点試掘調査

トレンチ調査により、須恵器窯の灰原の一部を調査した。窯体を確認することができなかったが、灰原の広がり方が限定的であることから、窯体が極端に群集する状況は想定できない。出土須恵器を見ると、杯蓋では、口縁端部を下方に折り曲げ、天井部に回転ヘラケズリを施し、つまみは扁平で径が大きな資料が多い。こうした土器群は、牛頸編年のⅦA 期新段階に概ね相当しよう。ただし第 23 図 223 に関しては、口縁部端部の屈曲が緩慢で、回転ヘラケズリを施さず、つまみは比較的高く径は小さい、という特徴が指摘でき、他の土器群と比べて明らかに新相（牛頸編年Ⅷ期）である。この 2 種の杯蓋の時間差は明確であり、付近に 2 時期の須恵器窯が存在する可能性が指摘できる。

(4) 小田浦遺跡群 80 地点試掘調査

対象地の一部で、遺構（土坑・ピット）と遺物包含層を確認し、土坑上面から縄文土器、包含層から須恵器、瓦、円筒形土製品が出土した。縄文土器は、後期中葉の北久根山式である。当該期の集落遺跡は、春日市柏田遺跡、那珂川町山田西遺跡などで確認されており、こうした遺跡との関連や広がりを知る上で興味深い資料といえる。須恵器は、少量ながら牛頸編年ⅣB～Ⅴ期に相当する資料が出土している。これに伴って平瓦も確認されており、図化した 3 点中 2 点は凹面に同心円当具が明瞭に観察できる。初期瓦の生産は、牛頸窯跡群の特色の一つであるが、特に当

該地周辺は、月ノ浦Ⅰ号窯跡、小田浦79地点2号窯跡、浦ノ原遺跡A地区竪穴状遺構など出土例が多く、瓦生産の拠点であった可能性が高い。円筒状土製品については、小田浦窯跡群28地点や惣利西遺跡、塚原遺跡で出土例があり、当該資料を含めると5遺跡8例目となった。須恵器の年代観から7世紀前半～中頃の資料と考えられる点、初期瓦と伴出する点については、他遺跡の事例と共通しており、遺物の性格・生産背景を考える上で極めて興味深い。

(5) 月の浦西土地区画整理事業に伴う確認調査

遺構・遺物とも出土しなかった。

(6) 後田窯跡群76地点確認調査

8世紀代の須恵器窯1基、灰原2ヶ所を検出し、平成13年11月から発掘調査を実施した。発掘調査の成果については、機会を改め報告したい。

2. 焼成器種について

ここでは、ハセムシ窯跡群30地点（以下、ハセムシ30地点）と後田窯跡群77地点（以下、後田77地点）の器種構成についてみてみたい。

器種については、Ⅲ・Ⅳ章で報告したとおりであり、ハセムシ30地点では、杯身・杯蓋、高杯、鉢、長頸壺、甕（小形甕）が出土し、後田77地点では、杯身・杯蓋、皿、高杯、鉢、長頸壺、短頸壺、甕（小形甕）が出土している。器種ごとの重量は第4・5表のとおりである。またこれと比較するため、梅頭4次調査1号窯（ⅢB期～ⅣA期、6世紀後半～7世紀初頭）のデータ（石木2008を改変）を合わせて示した（第6表）。

なお、灰原に残された資料は、当該窯で焼成された須恵器の一部であることは言うまでもなく、またハセムシ30地点については、灰原の一部を調査したのみであり、あくまでも「傾向」を知るための資料と考えたい。

器種ごとの出土量比較の手法については、破片数による比較と重量による比較という2種があるが、今回は後者の手法を用いた。この利点については、石木秀啓（石木2008）の指摘がある。この3遺跡のデータを比較して、まず顕著なのはハセムシ30地点と後田77地点における小形器種（杯身・杯蓋・皿など）の多量出土であり、両窯ともその比率は94%を占める。逆に梅頭4次では、小形器種の比率は18%に過ぎず、甕類だけで70%、中・大形器種全体で73%となる。

牛頸窯跡群では、①7世紀中頃以前：大形器種と小形器種双方を焼成する大形窯（5m以上）のみ→②7世紀後半～8世紀前半：小形器種を主に焼成する小形窯（全長5m以下）の出現・盛行、少数の大形窯との並存、→③8世紀中頃～末：小形窯のみ という流れと、この変化に連動して7世紀後半以降（特に8世紀中頃以降）に小形器種が集中的に生産されることが指摘（石木2004・2007、舟山2008）されている。今回のハセムシ30地点と後田77地点の出土須恵器の組成は、こうした7世紀後半、8世紀中頃の状況を顕著に示した資料群といえよう。

次に、後田77地点における皿の焼成に着目したい。第5表では、杯身と皿を同類として分類しているため、皿の出土量は判然としないが、杯蓋と杯身の重量比を1:1.2と仮定すると、杯身・皿の合計75.6kgのうち、50.54kgが杯身（杯蓋42.12kg×1.2）、残り約25kg（約16%）が

	杯身	杯蓋	高杯	不明小形器種	甕類	壺類	鉢	不明中形器種	土師器ほか
合計 1	44.72 (53%)	30.47 (36%)	2.04 (2%)	2.43 (3%)	3.15 (4%)	0.48 (1%)		0.82 (1%)	
合計 2	75.19 (89%)		2.04	2.43	3.15	0.48		0.82	
合計 3	79.66 (94%)				4.75 (6%)				

第 4 表 ハセムシ窯跡群 30 地点器種別重量

(単位 kg)

	杯身・皿	杯蓋	高杯	不明小形器種	甕類	壺類	鉢	不明中形器種	土師器ほか
合計 1	75.6 (48%)	42.12 (27%)	7.68 (5%)	21.67 (14%)	2.32 (1%)	5.08 (3%)	0.54 (1%)		1.01 (1%)
合計 2	117.72 (75%)		7.68	21.67	2.32	5.08	0.54		
合計 3	147.07 (94%)				7.94 (5%)				1.01 (1%)

第 5 表 後田窯跡群 77 地点器種別重量

(単位 kg)

	杯身	杯蓋	高杯	碗	盤	鉢	壺類	ハソウ	瓶類	甕類	不明	その他
合計 1	83.09 (7%)	83.68 (7%)	38.04 (3%)	5.38 (1%)	0.18	1.27	16.43 (1%)	2.93	29.88 (2%)	848.16 (70%)	107.89 (9%)	1.78
合計 2	166.77 (14%)		38.04	5.38	0.18	1.27	16.43	2.93	29.88	848.16	107.89	1.78
合計 3	211.64 (18%)					898.67 (73%)					107.89 (9%)	1.78

第 6 表 梅頭 4 次 1 号窯跡器種別重量

(単位 kg)

皿という計算となる。

ここで注目したいのは、巻頭図版を見てわかるとおり、この皿の大部分が焼成不良な点である。その他の器種に焼成不良の資料が無い訳ではないが、その比率は明らかに異なる。また焼成不良の皿の法量が類似している点も興味深い。つまり、何度か繰り返されたであろう焼成のうち、1回は皿を主体とした窯詰めが行なわれ、その窯焚きの際に何らかの事情で焼成が失敗に終わった可能性が指摘できよう。

3. 法量分化について

法量分化の要因については、「大量の官人層の出現とその特殊な生活形態」(西 1986) が想定されており、律令社会の進捗を推し量る「ものさし」の 1 つと考えられている。

第 28 図は、ハセムシ 30 地点と後田 77 地点出土の杯 B の口径・器高を示したものである。主に口径を見ていくと、ハセムシ 30 地点では 14cm 台のみに集中し、後田 77 地点では 14cm 台にピークがありながら、18cm 前後に一群、さらに 10cm 前後、20cm を越える資料も確認できる。この差異が牛頸窯跡群内で一般的なもののなのか、V 期～Ⅶ期の様相 (第 29 図) を通史的にみてみたい。

まず V 期では明確な法量分化は認められず、Ⅵ期のある段階で発現した可能性が高い。ただし

Ⅵ期～ⅦA期にかけては、15cm前後に一群のほか、原則的にこれより小形の口径に限定される傾向があり、18cm前後あるいはそれ以上の資料は稀である。この状況が大きく変化するのは、ⅦB期といえる。この段階には14～15cm前後の一群を中心として、12cm前後、18cm前後の一群を安定的に、さらに10cm以下、20cm以上にも分布が確認でき、3種ないしは5種に法量分化している。続くⅦ期は資料が少なく判然としないが、当該期から増加する杯Aについては13cm前後という比較的小形の口径に集中することから、杯Aと杯Bで法量の分担傾向がうかがえよう。よって、Ⅶ期で法量分化が開始し、ⅦB期古段階にはピークを迎え、Ⅶ期には前代と類似しながらも杯Aと杯Bで法量差が顕在化するという変遷を想定することができよう。こうした流れについては、すでに指摘（舟山ほか1996）があり、これを追認できたといえる。ただし、現段階では資料母数が少ない（当該期の単純期資料が少ないため）うえに、同時期でも窯ごとの差異も想定できることから、再度資料の蓄積を行った上で、不明な点が多いⅦA期の様相などを検討する必要があるだろう。

なお都城域の研究（西1986）では、飛鳥Ⅳ期（牛頸Ⅵ期に概ね並行）には法量分化はほぼ完成しており、その後、奈良時代を通じて明瞭に確認できることが知られている。消費遺跡と生産遺跡の相違を問題とせず、牛頸窯跡群をこの状況と比較すると、7世紀後半～8世紀前半（Ⅵ期～ⅦA期）は明らかに未発達で、8世紀中頃（ⅦB期）は概ね類似しているといえよう。

では、他の地方窯との比較はどうであろうか。北九州市のトギバ窯跡・洗子窯跡出土須恵器の分析（下原2007）によれば、杯Bは口径12～13cm前後、15cm前後の2ヶ所にピークが認められ、18cmを超える資料も僅かに確認できるようである。牛頸窯跡の法量分化最盛期に比較すると、大形の口径が少なく、比較的単純な様相といえよう。

今後、陶邑窯跡群や他の地方窯、さらに消費地遺跡との比較検討が重要となるが、都城域との類似点、トギバ窯跡・洗子窯跡との相違点を重視すれば、「大宰府」官窯としての牛頸窯跡群の位置づけが、よりクローズアップされよう。

石木秀啓 2007「牛頸窯跡群と九州の須恵器生産体制」『国立歴史民俗博物館研究報告』第134集

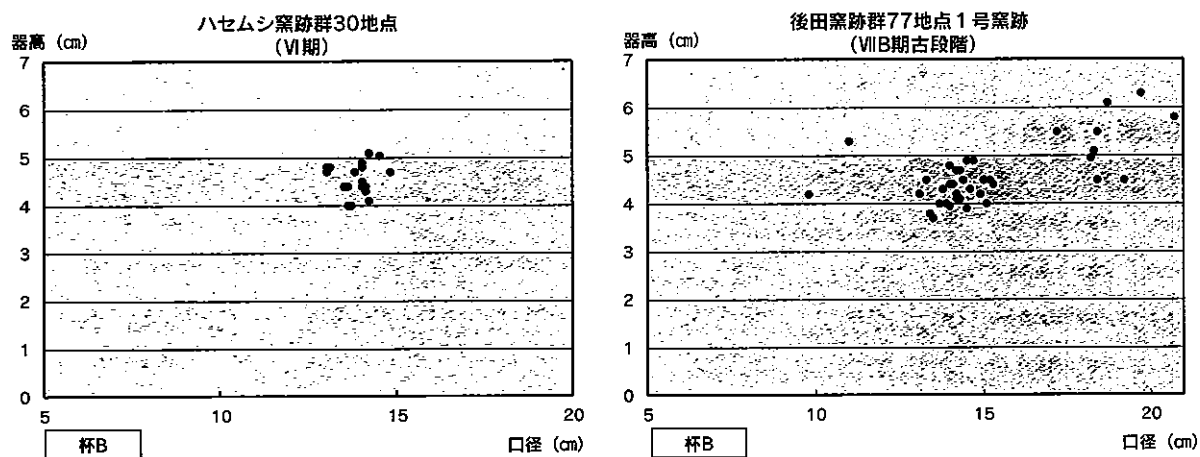
石木秀啓 2008「Ⅲ．まとめ」『牛頸梅頭遺跡群Ⅳ』大野城市教育委員会（第86集）

下原幸裕 2007「出土須恵器の分析」『豊前・トギバ窯跡の調査』福岡大学考古学研究室

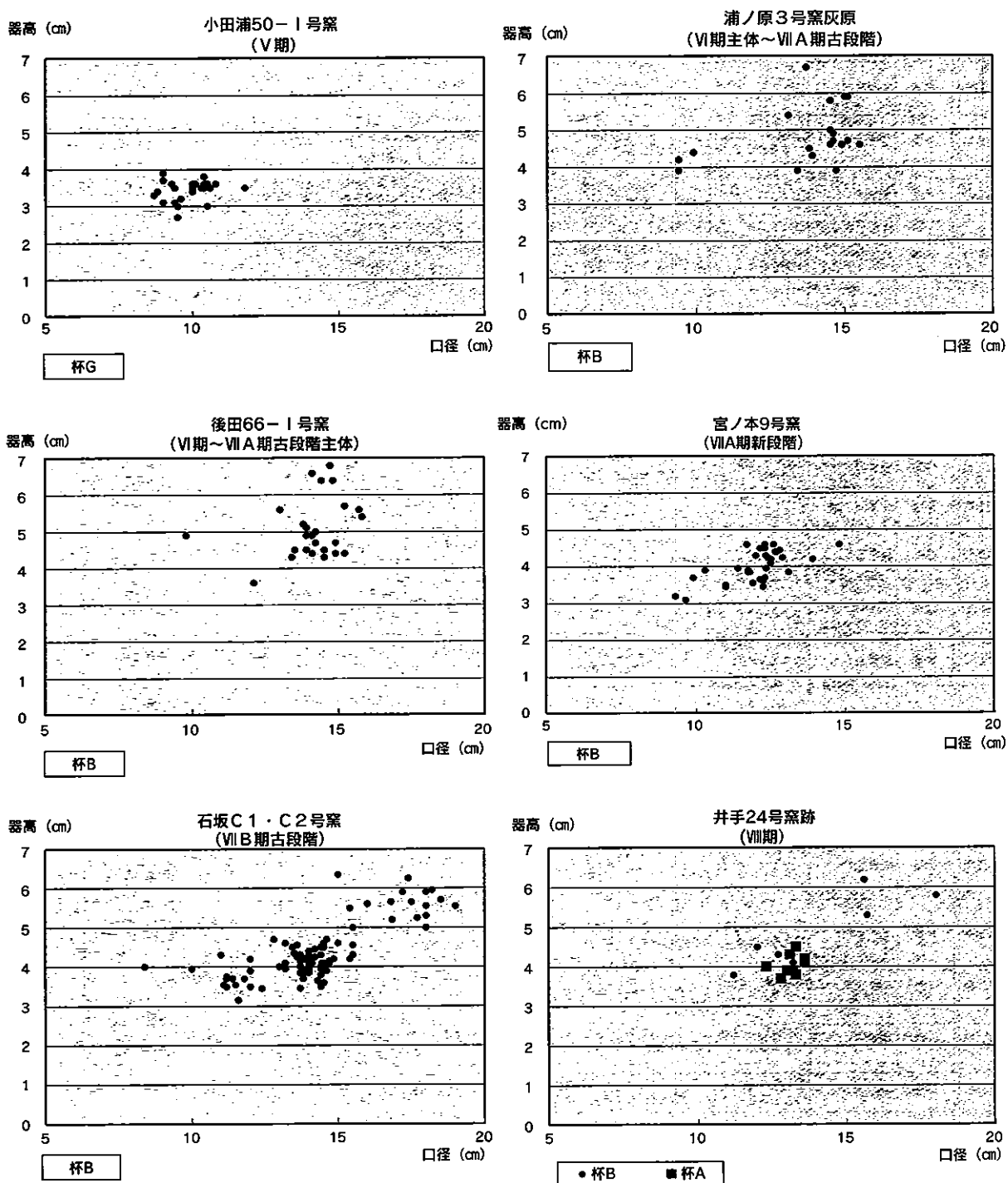
西 弘海 1986「土器様式の成立とその背景」『土器様式の成立とその背景』真陽社

舟山良一ほか編 1996『須恵器集成図録 西日本編』雄山閣出版

舟山良一編 2008『牛頸窯跡群－総括報告書Ⅰ－』大野城市教育委員会（第77集）



第28図 ハセムシ窯跡群30地点・後田窯跡群77地点出土須恵器法量分布図



第29図 周辺窯跡出土須恵器法量分布図

後田窯跡群77地点

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量cm①口径②器高③底径④最大径 ※①は復元	形態・技法の特徴	A胎土 B焼成 C色調	備考
1	須恵器	杯蓋	窯体内No1	①16.2 ②2.2 つまみ径2.7 つまみ高0.7	外面2/3回転ヘラケズリ、他回転ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ	Aやや密。1mm大の白色砂粒を多量含む B良好 C内外：灰白N4/	焼け歪む。 クロロ右回転。
2	須恵器	杯蓋	灰原左下	①14.0 ②1.95	外面1/2ヘラ切り、他回転ナデ、内面回転ナデ後一定方向ナデ	Aやや粗。微細な白色砂粒を微量含む Bやや不良 C内外：灰白10Y7/2	
3	須恵器	杯蓋	灰原左下	①12.6 ②3.1 つまみ径2.2 つまみ高0.6	外面1/2回転ヘラケズリ、他回転ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ	Aやや粗。微細な雲母片、1～4mm大の白色砂粒を少量含む Bやや不良 C内外：にぶい黄緑10Y7/2	クロロ右回転。
4	須恵器	杯蓋	灰原左下	①12.6 ②2.3 つまみ径1.9 つまみ高0.6	外面1/2回転ヘラケズリ後回転ナデ、内面回転ナデ後一定方向ナデ、他は回転ナデ	Aやや粗。微細な雲母片、1～4mm大の白色砂粒を微量含む B良好 C内外：灰10Y6/1	クロロ右回転。
5	須恵器	杯蓋	灰原左下	①14.6 ②2.4 つまみ径2.2 つまみ高0.7	外面1/2回転ヘラケズリ、他は回転ナデ	A密。微細な雲母片、1mm大の白色砂粒を含む B良 C内外：にぶい黄緑10YR5/4	クロロ右回転。
6	須恵器	杯蓋	灰原左下	①15.4 ②2.1 つまみ径2.0 つまみ高1.0	外面1/2回転ヘラケズリ、他回転ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ	A密。微細な長石、3mm以下の石英を少量含む B良好 C内：灰白7.5Y7/1～N7/ 浅黄5Y7/4～灰オリーブ5Y6/2 暗青灰5PB3/1 外：暗青灰5PB4/1 灰白10Y8/1 灰7.5Y6/1～N6/	焼け歪む。 クロロ右回転。
7	須恵器	杯蓋	灰原左下	①14.6 ②3.1 つまみ径2.7 つまみ高0.7	外面1/2回転ヘラケズリ、他回転ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ	A粗。微細な長石、角閃石少量、1mm以下の石英を多量含む B良好 C内外：黄灰2.5Y4/1 灰5Y6/1～灰白5Y7/1 灰N5/～6/	クロロ右回転。
8	須恵器	杯蓋	灰原右下	①14.8 ②1.8 つまみ径2.5 つまみ高0.6	外面2/3回転ヘラケズリ、他回転ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ	A密。微細な長石を微量含む B良好 C内：灰N5/～N4/ 外：灰白N6/ 灰N5/～暗青灰5PB4/1	外面にヘラ記号あり。 クロロ右回転。
9	須恵器	杯蓋	灰原左下	①14.6 ②3.2 つまみ径1.5 つまみ高0.9	外面3/4回転ヘラケズリ後ナデ、他回転ナデ、内面回転ナデ後一定方向ナデ	A密。長石、2mm以下の石英を多量含む B良好 C内：灰N6/ 灰黄2.5Y6/2 外：灰10Y6/1～N6/、N4/ 灰白N7/、2.5Y7/1	クロロ右回転。
10	須恵器	杯蓋	灰原左下	①14.95 ②3.1 つまみ径2.1 つまみ高0.8	外面1/2回転ヘラケズリ、他回転ナデ、内面回転ナデ後一定方向ナデ	A密。微細な長石を多量、1mm以下の砂粒を微量含む B良好 C内：灰5Y6/1 暗灰N3/ 外：灰白2.5Y7/1 暗灰N3/	クロロ右回転。
11	須恵器	杯蓋	灰原左下	①(15.2) ②3.75 つまみ径1.8 つまみ高0.7	外面1/2回転ヘラケズリ、他回転ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ	A粗。微細な黒色粒を少量、0.5mm以下の石英を多量含む B不良 C内：灰黄10YR6/2～5/2 灰白2.5Y8/1～8/2 外：灰黄2.5Y7/2～6/2 灰白5Y8/1	クロロ右回転。
12	須恵器	杯蓋	灰原左下	①15.0 ②3.75 つまみ径2.1 つまみ高1.1	外面1/2回転ヘラケズリ、他回転ナデ、内面回転ナデ後一部ヨコナデ	A密。微細な長石を多量、1mm以下の石英を少量含む B良好 C内：褐灰10YR6/1 灰7.5Y6/1～灰白N7/ 暗青灰5PB3/1 外：黄灰2.5Y6/2 灰2.5Y6/1～灰白7.5Y8/1 灰N6/～5PB3/1	焼け歪む。 クロロ右回転。
13	須恵器	杯蓋	灰原右上	①15.7 ②2.5 つまみ径2.6 つまみ高0.7	外面3/4回転ヘラケズリ、他回転ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ	Aやや粗。2mm以下の石英粒を少量、長石等多量含む B不良 C内：にぶい黄2.5Y6/3 灰白2.5Y8/2 7.5Y7/2～10Y7/1 外：にぶい黄7.5Y7/4～粗7.5Y7/6 灰白5Y7/2 灰10Y6/1～N6/～N7/、10Y4/1	クロロ右回転。
14	須恵器	杯蓋	灰原左下	①14.35 ②3.2 つまみ径2.25 つまみ高0.9	外面1/2回転ヘラケズリ、他は回転ナデ	A密。長石を多量、0.5mm以下の石英を微量含む B良好 C内：7.5Y5/1 黄灰2.5Y5/1 外：灰白N7/ 暗灰N3/ 灰黄2.5Y6/2	やや焼け歪む。 クロロ右回転。
15	須恵器	杯蓋	灰原左上	①16.0 ②1.85 つまみ径2.3 つまみ高0.8	外面3/4回転ヘラケズリ、他回転ナデ、内面回転ナデ後一定方向ナデ	Aやや密。微細な雲母片、1mm大の白色砂粒を多量含む B良 C内：灰白7.5Y7/2 外：灰白10Y7/1	クロロ右回転。
16	須恵器	杯蓋	灰原右上	①15.8 ②3.2 つまみ径2.7 つまみ高0.6	外面2/3回転ヘラケズリ、他回転ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ	A密。微細な長石を少量、1mm以下の石英を微量含む B不良 C内外：灰白5Y8/1、7.5Y8/1～7/1 浅黄2.5Y7/3	クロロ右回転。
17	須恵器	杯蓋	SX01上層	①16.1 ②2.8 つまみ径2.8 つまみ高0.8	外面1/2回転ヘラケズリ、他回転ナデ、内面回転ナデ後一部ナデ	A粗。0.5mm以下の長石多量、石英少量含む B不良 C内外：灰白5Y8/1～7/1 にぶい黄2.5Y6/3	クロロ右回転。
18	須恵器	杯蓋	灰原左下	①16.2 ②1.5 つまみ径2.5 つまみ高0.7	外面1/2回転ヘラケズリ、他回転ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ	A密。微細な雲母片、白色砂粒を微量含む Bやや良 C内外：灰白10Y6/1	焼け歪む。 外面に降灰。 クロロ右回転？
19	須恵器	杯蓋	灰原タテベルト	①16.0 ②2.1 つまみ径2.0 つまみ高0.8	外面2/3回転ヘラケズリ、他回転ナデ、内面回転ナデ後一定方向ナデ	Aやや粗。微細な雲母片、1～5mm以下の白色砂粒、小礫を多量含む B不良 C内外：にぶい黄緑10YR7/2～灰黄褐10YR6/2	クロロ右回転。
20	須恵器	杯蓋	灰原左下	①16.4 ②2.0 つまみ径2.7 つまみ高0.75	外面3/4回転ヘラケズリ、他回転ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ	A密。微細な雲母片、1mm大の白色砂粒を多量含む Bやや良 C内：灰白2.5Y7/1 外：黄灰2.5Y6/1	クロロ右回転。
21	須恵器	杯蓋	灰原左下	①16.4 ②3.45 つまみ径2.4 つまみ高0.9	外面1/2回転ヘラケズリ、他回転ナデ、内面回転ナデ後一定方向ナデ	A粗。微細な雲母片、1mm大の白色粗砂を少量含む Bやや不良 C内：灰白10Y7/2～灰黄褐10YR6/2 外：オリーブ灰10Y6/2	クロロ右回転。
22	須恵器	杯蓋	SX02	①16.1 ②3.4 つまみ径2.8 つまみ高0.8	外面2/3回転ヘラケズリ、他回転ナデ、内面摩擦のため調整不明	Aやや密。微細な雲母片を多量、1mm大の白色砂粒を少量含む B不良 C内外：浅黄2.5Y8/3～浅黄2.5Y7/3	クロロ右回転。
23	須恵器	杯蓋	灰原左下	①16.4 ②2.2 つまみ径2.7 つまみ高1.0	外面回転ヘラケズリ後回転ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ	A密。微細な長石を多量含む B良好 C内：灰白5Y8/2、7/1 灰N4/～N3/ 外：灰白5Y8/2～浅黄5Y8/3 灰白N7/～灰N4/～暗青灰5PB3/2	やや焼け歪む。 重ね焼痕あり。
24	須恵器	杯蓋	灰原左下	①16.1 ②2.4 つまみ径2.4 つまみ高0.6	外面3/4回転ヘラケズリ、他回転ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ	A密。1mm以下の長石、石英を少量含む B良好 C内：灰白5Y7/1 灰黄2.5Y6/2 黄灰2.5Y5/1～4/1 褐灰7.5YR5/2 外：灰5Y4/1～暗灰N3/ 灰白7.5Y7/2～N7/	焼け歪む。 クロロ右回転。
25	須恵器	杯蓋	灰原左下	①(15.8) ②3.8 つまみ径2.5 つまみ高0.5	外面1/2回転ヘラケズリ、他回転ナデ、内面回転ナデ	A密。3mm以下の長石を多量、石英を少量含む B良好 C内：灰N6/～N5/ 暗灰N3/ 外：暗灰N3/ 灰白7.5Y8/1 黄灰2.5Y6/2	焼け歪む。 天井部外面に格子目状圧痕あり。 クロロ右回転。
26	須恵器	杯蓋	灰原左下	①16.0 ②2.5 つまみ径2.2 つまみ高0.7	外面1/2回転ヘラケズリ、他回転ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ	A密。1mm以下の長石粒少量、石英微量含む B良 C内外：灰白N7/～7.5Y5/1～4/1	やや焼け歪む。 クロロ右回転。
27	須恵器	杯蓋	灰原左下	①16.3 ②3.0 つまみ径2.5 つまみ高0.8	外面1/2回転ヘラケズリ、他回転ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ	Aやや粗。微細な長石、0.5mm以下の石英を微量含む Bやや不良 C内：灰黄2.5Y6/2～にぶい黄2.5Y6/3 暗灰黄2.5Y5/2 灰白2.5Y8/2 外：灰黄褐10YR5/2～6/2 灰白2.5Y8/2	クロロ右回転。
28	須恵器	杯蓋	灰原左下	①16.8 ②3.1 つまみ径2.4 つまみ高0.8	外面1/2回転ヘラケズリ、他回転ナデ、内面回転ナデ後一定方向ナデ	A密。微細な雲母片、白色砂粒を含む Bやや不良 C内：灰白5Y7/1 外：灰白5Y7/1～灰5Y6/1	やや焼け歪む。 クロロ右回転。
29	須恵器	杯蓋	灰原左下	①16.7 ②3.1 つまみ径2.6 つまみ高0.7	外面1/2回転ヘラ切り後ナデ、他回転ナデ、内面回転ナデ後一定方向ナデ	Aやや粗。1mm大の白色砂粒、雲母片含む B不良 C内：灰オリーブ5Y6/2 外：灰白5Y7/2	クロロ右回転。

遺物 番号	種類	器種	出土地点	法量cm①口径②器高③底径 ④最大径 ※①は復元	形態・技法の特徴	A胎土 B焼成 C色調	備考
30	須恵器	杯蓋	灰原右上	①16.8 ②3.1 つまみ径2.1 つまみ高1.0	外面1/2回転ヘラケズリ、他回転ナデ、内面 回転ナデ後不定方向ナデ	A密。微細な長石を少量、1mm以下の石英粒を多量含 む Bやや不良 C内：にぶい黄褐10YR5/3 にぶい 黄褐10YR6/3 ～ 7/3 にぶい橙5YR6/3 ～ にぶい赤 褐5YR5/4 灰白2.5Y8/2 外：灰白2.5Y8/2 灰黄 2.5Y6/2 ～ にぶい暗灰黄2.5Y5/2	ロクロ右回転。
31	須恵器	杯蓋	灰原タテベルト	①17.2 ②3.5 つまみ径2.5 つまみ高0.9	外面1/2回転ヘラケズリ、他回転ナデ、内面 回転ナデ後一定方向ナデ	Aやや密。微細な雲母片、1～2mm大の白色砂粒を少量含 む Bやや不良 C内外：黄灰2.5Y6/2	焼け歪む。 ロクロ右回転。
32	須恵器	杯蓋	灰原左下	①(16.8) ②2.2 つまみ径2.3 つまみ高0.5	外面3/4回転ヘラケズリ、他回転ナデ、内面 回転ナデ後一定方向ナデ	A密。微細な長石を少量、0.5mm以下の石英を微量含む B良 C内外：灰黄2.5Y6/2 ～ 暗灰黄2.5Y5/2 灰白 5Y7/1 暗灰N3/	内面にヘラ記号？ ロクロ右回転。
33	須恵器	杯蓋	灰原右下	①(17.1) ②2.3 つまみ径2.4 つまみ高0.7	外面3/4回転ヘラケズリ、他回転ナデ、内面 回転ナデ後一定方向ナデ	A密。微細な長石、2mm以下の石英粒、粗砂微量含む B やや良 C内：灰白2.5Y8/1 ～ 5Y8/1 5Y7/1 ～ 7/2 外：灰白2.5Y 7/1 ～ N7/	ロクロ右回転。
34	須恵器	杯蓋	灰原左下	①17.6 ②2.7 つまみ径2.3 つまみ高0.7	外面2/3回転ヘラケズリ、他回転ナデ、内面 回転ナデ後一定方向ナデ	Aやや粗。1mm大の白色砂粒、雲母片を含む B不良 C 内外：灰白5Y7/2	ロクロ右回転。
35	須恵器	杯蓋 (穿孔)	灰原左下	②1.6 つまみ径3.3 つまみ高0.5	外面回転ヘラケズリ、内面回転ナデ後不定 方向ナデ	A密。微細な長石を多量、1mm以下の石英を少量含む Bやや不良 C内：灰黄2.5Y6/2 灰黄2.5Y7/2 灰白 5Y8/1 ～ 7/1 外：灰白10Y7/1	穿孔あり。 ロクロ右回転。
36	須恵器	杯蓋	灰原左下	①17.6 ②2.4 つまみ径2.4 つまみ高0.75	外面1/3回転ヘラケズリ、他回転ナデ、内面 回転ナデ	A密。微細な長石を多量、1mm以下の石英を少量含む Bやや良好 C内：暗灰黄2.5Y5/2 灰黄2.5Y7/2 灰 10Y6/1 ～ 暗灰N3/ 外：灰10YR6/1 ～ 5/1、5Y5/1 灰白7.5Y8/1	やや焼け歪む。 ロクロ右回転。
37	須恵器	杯蓋	灰原右上	①18.6 ～ 19.2 ②3.2 つまみ径2.8 つまみ高0.7	外面3/4回転ヘラケズリ、他回転ナデ、内面 回転ナデ後不定方向ナデ	Aやや粗。微細な長石、1mm以下の石英を多量、金雲母を 少量含む B良 C内：灰黄褐10Y5/2 ～ 暗灰黄2.5Y5/2 灰白5Y7/1 ～ 5/1 外：灰白5Y8/2 ～ 灰黄2.5Y6/2 灰 白7.5Y7/1 ～ 灰7.5Y6/1	ロクロ右回転。
38	須恵器	杯蓋	灰原左下	①19.0 ②3.0 つまみ径3.3 つまみ高0.9	外面2/3回転ヘラケズリ、他回転ナデ、内面 回転ナデ後不定方向ナデ	A密。2mm以下の長石、石英粒を少量含む B良 C内外： 暗灰黄2.5Y5/2 ～ 灰黄2.5Y6/2 灰白5Y7/1 ～ 灰5Y6/1 灰5Y4/1	やや焼け歪む。 ロクロ右回転。
39	須恵器	杯蓋	灰原右下	①18.0 ②2.9 つまみ径2.8 つまみ高0.7	外面2/3回転ヘラケズリ、他回転ナデ、内面 回転ナデ後一定方向ナデ	A粗。1mm以下の長石、2mm以下の石英を多量含む B不 良 C内外：にぶい橙7.5YR6/4 ～ 橙7.5YR6/6	ロクロ右回転。
40	須恵器	杯蓋	灰原左上	①19.5 ②2.5 つまみ径2.4 つまみ高0.6	外面3/4回転ヘラケズリ、他回転ナデ、内面 回転ナデ後不定方向ナデ	A密。1mm大の白色砂粒を微量含む B良好 C内外：灰 N5/ ～ 4/	やや焼け歪む。 ロクロ右回転。
41	須恵器	杯蓋	灰原左下	①20.6 ②3.9 つまみ径3.1 つまみ高1.0	外面3/4回転ヘラケズリ、他回転ナデ、内面 回転ナデ後不定方向ナデ	Aやや粗。微細な雲母片、1～3mm大の白色砂粒を少 量含む B良 C内外：にぶい橙7.5YR7/4 ～ にぶい橙 7.5YR5/4	ロクロ右回転。
42	須恵器	杯蓋	灰原左下	①20.3 ②2.8 つまみ径2.4 つまみ高0.9	外面1/2回転ヘラケズリ、他回転ナデ、内面 回転ナデ後一部ナデ	Aやや粗。微細な黒色・白色粗砂を多量含む B不良 C 内：灰白2.5Y8/2 ～ 7.5Y8/1 灰黄2.5Y6/2 灰N4/ 外：灰白2.5Y8/1 灰黄2.5Y6/2 灰N4/	やや焼け歪む。 ロクロ右回転。
43	須恵器	杯蓋	灰原左下	①21.8 ②3.3 つまみ径3.1 つまみ高0.9	外面3/4回転ヘラケズリ後回転ナデ、他回転 ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ	Aやや粗。微細な雲母片、1～3mm大の白色砂粒を微 量含む B良 C内：灰黄褐10YR5/2 外：にぶい橙 7.5YR7/4 ～ 7.5YR6/4	ロクロ右回転。
44	須恵器	杯蓋	灰原右上	①(24.3) ②3.1 つまみ径3.0 つまみ高1.0	外面4/5回転ヘラケズリ、他回転ナデ、内面 回転ナデ後不定方向ナデ	A粗。金雲母を少量、微細な長石、11mm以下の石英を微 量含む B不良 C内外：にぶい橙7.5Y6/3 ～ にぶい橙 7.5Y6/4 灰白2.5Y8/2 ～ 灰黄2.5Y8/3	ロクロ右回転。
45	須恵器	杯身	灰原左上	①(9.8) ②4.2 高台径6.1 ～ 6.4 高台高0.4	底部ヘラ切り後高台貼付の回転ナデ、外面 回転ナデ、内面回転ナデ後一定方向ナデ	A密。1mm大の白色砂粒を少量含む B良好 C内外：オ リーブ灰2.5GY5/1	やや焼け歪む。
46	須恵器	杯身	灰原左下	①11.0 ②5.3 高台径7.0 高台高0.5	底部ヘラ切り後高台貼付の回転ナデ、内外 面回転ナデ	A密。長石、0.5mm以下の石英を多量含む B良 C内： 灰白N7/ ～ 灰N6/ 灰黄2.5Y6/1 外：灰白N8/ 青灰 5PB6/1	ロクロ右回転。
47	須恵器	杯身	灰原左下	①13.1 ②4.2 高台径9.5 高台高0.6	底部ヘラ切り後高台貼付の回転ナデ、外面 回転ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ	A密。微細な長石、1mm以下の石英を微量含む B良好 C内：灰白N7/ ～ 5Y6/1 外：灰黄2.5Y6/1 ～ 灰5Y6/1 灰N4/ ～ 暗青灰5PB3/1	やや焼け歪む。
48	須恵器	杯身	灰原右上 灰原左上 灰原左下	①(13.3) ②4.5 高台径9.8 高台高0.7	底部ヘラケズリ後高台貼付の回転ナデ、外 面回転ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ	A密。1mm大の白色砂粒を微量含む B良好 C内外：オ リーブ灰2.5Y6/1	
49	須恵器	杯身	灰原上面 灰原左上(ベル ト)	①13.5 ②3.7 高台径9.7 高台高0.4	底部ヘラケズリ後高台貼付の回転ナデ、外 面回転ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ	A密。1mm以下の石英を多量、長石、微細な黒色粒子を 少量含む B良 C内：灰白5Y7/1 ～ N7/ 灰黄2.5Y7/2 ～ 6/2 外：灰白2.5Y7/1 ～ N7/ 灰N5/ ～ 4/	ロクロ右回転。
50	須恵器	杯身	灰原右下	①13.4 ②3.8 高台径10.0 高台高0.5	底部ヘラ切り後高台貼付の回転ナデ、外面 回転ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ	A密。1～2mm大の白色砂粒を微量含む B良好 C内： オリーブ灰2.5GY5/1 外：褐灰5Y6/1 灰N4/	
51	須恵器	杯身	灰原左下	①(13.7+α) ②4.1 高台径8.7 高台高0.4	底部ヘラ切り後高台貼付の回転ナデ、外面 回転ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ	A密。長石を少量、0.5mm以下の石英を微量含む Bやや 不良 C内：褐灰10YR4/1 灰白5Y7/1 ～ 7/2 灰白 N7/ 外：灰白5Y7/2 ～ N7/ 青灰5PB3/1	
52	須恵器	杯身	灰原右上(ベル ト) 灰原左上(ベル ト)	①13.7 ②4.0 高台径9.8 高台高0.5	底部ヘラ切り後高台貼付の回転ナデ、外面 回転ナデ、内面回転ナデ後一定方向ナデ	A密。1～2mm大の白色砂粒を少量含む B良好 C内： 灰黄褐10YR6/2 外：緑灰7.5GY6/1 灰N5/	やや焼け歪む。 ロクロ右回転。
53	須恵器	杯身	灰原左下	①(13.8) ②4.3 高台径10.0 高台高0.6	底部ヘラ切り後高台貼付の回転ナデ、外面 回転ナデ、内面回転ナデ後一定方向ナデ	A密。微細な長石多量含む B良好 C内：灰5Y6/1 灰 白N7/ 外：灰5Y6/1 灰白N7/ 暗青灰5PB4/1 ～ 3/1	
54	須恵器	杯身	灰原左下	①14.2 ②4.1 高台径9.5 高台高0.5	底部ヘラ切り後高台貼付の回転ナデ、外面 回転ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ	Aやや粗。長石を微量、微細な黒色粒子を含む Bやや 不良 C内：にぶい橙7.5YR7/3 にぶい黄褐10YR7/3 外：にぶい橙5YR7/4 ～ 6/4 灰白2.5Y8/2	
55	須恵器	杯身	灰原左下	①14.1 ②4.4 高台径10.05 高台高0.5	底部ヘラ切り後高台貼付の回転ナデ、内外 面回転ナデ	A密。微細な雲母片を多量含む B良好 C内外：黄灰 2.5Y5/1	焼け歪む。
56	須恵器	杯身	灰原タテベルト	①14.0 ②4.8 高台径10.3 高台高0.4	底部回転ヘラケズリ後高台貼付の回転ナデ、 内外面回転ナデ	Aやや密。長石、黒色砂粒を多量含む B不良 C内： 黄灰2.5Y6/1 暗青灰12.5Y5/2 灰白N7/ 外：灰白 5Y8/1 ～ N7/ 暗灰黄2.5Y5/1	
57	須恵器	杯身	灰原タテベルト	①(14.3) ②4.1 高台径10.2 高台高0.5	底部回転ヘラ切り後高台貼付の回転ナデ、 内外面回転ナデ	A密。長石多量、0.5mm大の石英を微量含む B良 C内： 灰白N7/ ～ 灰N5/暗黄灰2.5Y5/1 外：灰白N7/ ～ 灰 N5/ 暗灰N3/ ～ 暗青灰5PB3/1	
58	須恵器	杯身	灰原左上	①14.3 ②4.7 高台径9.9 高台高0.6	底部ヘラ切り後高台貼付の回転ナデ、外面 回転ナデ、内面回転ナデ	Aやや密。1mm大の白色砂粒を多量含む B不良 C内外： にぶい黄褐10YR7/3	

遺物 番号	種類	器種	出土地点	法量cm①口径②器高③底径 ④最大径 ※()は復元	形態・技法の特徴	A胎土 B焼成 C色調	備考
59	須恵器	杯身	灰原右下	①14.2 ②4.7 高台径9.5 高台高0.4	底部へラ切り後高台貼付の回転ナデ、外面 回転ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ	A密。1mm大の白色砂粒を多量含む B良好 C内外:褐 灰10YR6/1 暗緑灰10GY4/1 オリーブ灰5GY6/1	外部側面にへラ記号 あり。
60	須恵器	杯身	S X02	①14.4 ②4.5 高台径12.6 高台高0.7	底部回転へラ切り後高台貼付の回転ナデ、 外面回転ナデ、内面回転ナデ	A密。0.5mm大の白色砂粒を多量含む B良好 C内外: 灰白10Y8/2 ~ 灰10Y6/1	
61	須恵器	杯身	灰原左下	①14.5 ②3.9 高台径10.9 高台高0.4	底部へラ切り後高台貼付の回転ナデ、外面 回転ナデ、内面回転ナデ後一定方向ナデ	A密。長石を少量、微細な黒色砂粒を微量含む B良 C 内:灰黄2.5Y7/2 ~ 浅黄2.5Y7/3 外:灰白7.5Y7/1 ~ 10Y7/1 灰黄2.5Y6/1 ~ 暗灰黄2.5Y5/2	焼け歪む。
62	須恵器	杯身	灰原左下	①14.0 ②4.4+α 高台径9.8 高台高0.5	底部へラ切り後高台貼付の回転ナデ、外面 回転ナデ、内面回転ナデ後一定方向ナデ	A密。微細な長石を多量、0.5mm以下の石英を少量含む B良 C内:灰2.5Y6/1 灰黄2.5Y6/2 外:灰黄2.5Y 7/2 黄灰2.5Y6/1 ~ 灰白N7/ 灰7.5Y6/1	やや焼け歪む。 ロクロ右回転。
63	須恵器	杯身	灰原右下	①14.5 ②4.9 高台径9.9 高台高0.6	底部回転へラ切り後高台貼付の回転ナデ、 外面回転ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナ デ	A密。1 ~ 2mm大の白色砂粒を微量含む B良好 C内: 灰7.5Y6/1 外:灰7.5Y6/1 暗青灰10BG4/1	焼け歪む。
64	須恵器	杯身	S X01上層	①14.2 ②4.2 高台径9.6 高台高0.5	底部回転へラ切り後高台貼付の回転ナデ、 外面回転ナデ、内面回転ナデ後一定方向ナ デ	A密。1 ~ 2mm大の白色砂粒を微量含む B良好 C内: 黄灰2.5Y6/1 外:暗青灰10BG4/1 黄灰2.5Y6/1	焼け歪む。
65	須恵器	杯身	灰原左下	①13.9 ②4.0 高台径13.0 高台高0.6	底部へラ切り後高台貼付の回転ナデ、外面 回転ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ	A密。長石を多量、角閃石を少量含む B不良 C内:灰 白2.5Y8/2 ~ 7/1 浅黄2.5Y7/3 ~ 灰黄2.5Y6/2 外: 灰白5Y8/1 ~ 7/1 浅黄2.5Y8/3	
66	須恵器	杯身	灰原左下	①(14.0) ②4.1 高台径10.0 高台高0.5	底部へラ切り後高台貼付の回転ナデ、外面 回転ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ	A密。長石を少量、黒色砂粒を微量含む B良 C内:灰 白5Y7/2 ~ 6/1 外:灰白N7/ 5Y7/2 灰N4/ ~ 暗灰 N3/	やや焼け歪む。 ロクロ右回転。
67	須恵器	杯身	灰原左下	①14.7 ②4.9 高台径10.1 高台高0.5	底部へラ切り後高台貼付の回転ナデ、外面 回転ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ	A密。微細な細粒を微量含む B良好 C内外:灰白 7.5Y7/2	焼け歪む。
68	須恵器	杯身	灰原左下	①14.6 ②4.35 高台径8.8 高台高0.65	底部へラ切り後高台貼付の回転ナデ、外面 回転ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ	A密。長石を多量、1mm以下の石英を微量含む B良 C 内:浅黄5Y7/3 ~ 7/4 灰白5Y7/1 外:浅黄2.5Y7/3 ~ 灰黄2.5Y7/2	やや焼け歪む。
69	須恵器	杯身	灰原左下	①14.9 ②4.2 高台径10.85 高台高0.5	底部へラケズリ後高台貼付の回転ナデ、外面 回転ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ	Aやや密。微細な白色砂粒を微量含む B良好 C内外: 黄灰2.5Y7/2	底部内面に植物質圧 痕ないしはへラ記号。
70	須恵器	杯身	灰原右下	①(15.1) ②4.15 高台径10.8 高台高0.5	摩滅激しく不明。回転ナデか?	A密。微細な長石、石英を微量含む B不良 C内外:浅 黄橙7.5YR8/4 ~ 浅黄2.5Y8/4	
71	須恵器	杯身	灰原左下	①15.0 ②4.5 高台径10.8 高台高0.3	底部回転へラ切り後ナデ、外面回転ナデ、 内面回転ナデ後一定方向ナデ	Aやや密。微細な長石を多量含む Bやや良 C内外:灰 白2.5Y8/1 ~ 7.5Y7/1 灰10Y5/1 ~ 5Y4/1	
72	須恵器	杯身	灰原左下	①(15.3) ②4.4 高台径11.6 高台高0.8	摩滅激しい。底部へラ切り後高台貼付の回 転ナデ、外面回転ナデ、内面回転ナデ後一 定方向ナデ	Aやや密。1mm大の白色砂粒を微量含む B不良 C内外: 浅黄2.5Y7/5	
73	須恵器	杯身	灰原左下	①15.2 ②4.5 高台径10.2 高台高0.4	底部へラ切り後高台貼付の回転ナデ、外面 回転ナデ、内面回転ナデ	A密。長石を多量、0.5mm以下の石英を微量含む B良 C内外:灰白7.5Y7/1 ~ 6/1 灰黄2.5Y6/2	ロクロ右回転。
74	須恵器	杯身	灰原左上(ベル ト) 灰原右上	①(17.2) ②5.5 高台径11.2 高台高0.5	底部へラ切り後高台貼付の回転ナデ、外面 回転ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ	Aやや密。1 ~ 3mm大の白色砂粒を多量含む B良好 C 内外:オリーブ灰5GY5/1、6/1	ロクロ右回転。
75	須恵器	杯身	灰原右下	①(18.2) ②4.95 高台径12.8 高台高0.6	底部回転へラ切り後高台貼付の回転ナデ、 他回転ナデ	Aやや密。微細な長石、1mm以下の石英を多量含む B 良 C内外:にぶい橙10YR 7/4 ~ 浅黄橙10YR8/4 橙 7.5YR8/6	ロクロ右回転。
76	須恵器	杯身	灰原右上	①18.4 ②13.7 高台径13.7 高台高0.6	底部へラ切り後高台貼付の回転ナデ、外面 回転ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ	Aやや密。1 ~ 3mm以下の白色砂粒を多量含む B不良 C内外:浅黄2.5Y8/4	底部穿孔の可能性。 ロクロ右回転。
77	須恵器	杯身	灰原左下	①18.3 ②5.1 高台径13.3 高台高0.5	底部へラ切り後高台貼付の回転ナデ、外面 回転ナデ、内面回転ナデ後一定方向ナデ	Aやや密。1 ~ 2mm大の白色砂粒を微量含む B良好 C 内:灰5Y6/1 外:灰5Y5/1 オリーブ灰2.5GY5/1	底面に板状圧痕あり。
78	須恵器	杯身	灰原左上(ベル ト)	①18.7 ②6.1 高台径12.8 高台高0.5	底部へラ切り後高台貼付の回転ナデ、外面 上半回転ナデ、下半回転へラケズリ、内面 回転ナデ後不定方向ナデ	Aやや密。1 ~ 2mmの白色砂粒を微量含む Bやや不良 C内外:オリーブ灰5Y6/2	焼け歪む。 ロクロ右回転。
79	須恵器	杯身	S X03	①(18.4) ②4.5 高台径12.6 高台高0.6	底部回転へラ切り後高台貼付の回転ナデ、 外面回転ナデ、内面回転ナデ後一定方向ナ デ	A密。微細な雲母片、1 ~ 2mm大の白色砂粒を多量含む B不良 C内外:浅黄橙10YR8/3	底部外面にへラ記号 あり。 ロクロ右回転。
80	須恵器	杯身	S X02	①19.2 ②4.5 高台径12.6 高台高0.7	摩滅気味。底部回転へラ切り後高台貼付の 回転ナデ、他回転ナデ	A密。0.5mm以下の長石を少量含む B不良 C内外:灰 黄2.5Y7/2 ~ 浅黄2.5Y7/4 灰白2.5Y8/1 暗灰N3/ ~ 黒N2/	やや焼け歪む。
81	須恵器	杯身	灰原左上	①19.7 ②6.3 高台径13.5 高台高0.5	底部へラ切り後高台貼付の回転ナデ、外面 回転ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ	Aやや密。1 ~ 2mm大の白色砂粒を極多量含む Bやや不 良 C内外:灰オリーブ7.5Y6/2	底部外面にへラ記号 あり。 ロクロ右回転。
82	須恵器	杯身	灰原右上(ベル ト)	①(20.7) ②5.8 高台径13.0 高台高0.5	底部回転へラ切り後高台貼付の回転ナデ、 外面上半回転ナデ、下半へラケズリ、内面 回転ナデ後一定方向ナデ	A密。微細な雲母片、1mm大の白色砂粒を少量含む Bや や良 C内:灰白2.5Y7/1 にぶい橙7.5YR7/3 外: 黄灰2.5Y6/1	ロクロ右回転。
83	須恵器	杯身 (穿孔)	灰原タテベル ト	②1.2 高台径10.2 高台高0.55 穿孔径1.8	底部回転へラ切り後高台貼付の回転ナデ、 内外面回転ナデ	A密。微細な長石を多量、1mm以下の石英を微量含む B 良 C内外:浅黄2.5Y8/3 ~ 浅黄2.5Y8/4 にぶい黄橙 10YR7/4 オリーブ黒7.5Y3/1	底部中央に焼成前穿 孔。
84	須恵器	杯身	灰原右上	①11.7 ②3.4 ③8.2	底部へラ切り後ナデ、外面回転ナデ、内面 回転ナデ後不定方向ナデ	A密。1 ~ 2mm大の白色砂粒を多量含む B良好 C内: 灰白7.5Y7/2 外:灰白7.5Y7/1 灰オリーブ7.5Y6/2	やや焼け歪む。
85	須恵器	杯身	灰原右上 S X02	①13.8 ②3.2 ③4.05	底部へラ切り後ナデ、他回転ナデ	A密。微細な白色砂粒を微量含む B良好 C内外:オリ ーブ灰2.5GY6/1	やや焼け歪む。
86	須恵器	杯身	灰原左上(ベル ト)	①14.3 ②3.7 ③11.1	底部回転へラ切り後ナデ、外面回転ナデ、 内面回転ナデ後不定方向ナデ	Aやや密。微細な砂粒、雲母片を微量含む Bやや不良 C内:にぶい黄橙10YR7/2 外:灰白10YR8/1 オリ ーブ灰5GY6/1	
87	須恵器	杯身	灰原左下	①14.5 ②4.2 ③10.5	底部へラ切り後ナデ、外面回転ナデ、内面 回転ナデ後一定方向ナデ	A密。1mm大の白色砂粒を多量含む B不良 C内:に ぶい橙7.5YR7/3 外:明褐灰7.5YR7/1 にぶい橙 7.5YR7/4	体部内外面に黒斑あ り。
88	須恵器	杯身	灰原左下	①(14.6) ②4.2 ③(11.3)	摩滅気味。底部回転へラケズリ後ナデ、内 外面回転ナデ	Aやや密。微細な長石、0.5mm以下の石英を少量含む B 不良 C内:灰白10YR8/1 浅黄橙10YR8/4 ~ にぶい 黄橙10YR7/4 外:灰白10YR8/1 浅黄橙10YR8/4 暗灰N3/ ~ 黒N2/	
89	須恵器	皿	灰原左下	①20.8 ②2.75 ③(14.2)	底部回転へラ切り後ナデ、内外面回転ナデ	Aやや粗。微細白色粗砂を微量含む B不良 C内外: 灰白2.5Y8/1 ~ 8/2 にぶい黄橙10YR6/3 ~ 6/4 灰 5Y4/1 ~ 5/1	底部内外面に黒斑、 火押痕あり。

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量cm①口径②器高③底径④最大径 ※0は復元	形態・技法の特徴	A胎土 B焼成 C色調	備考
90	須恵器	皿	灰原左上	①20.4 ②3.1 ③17.5	底部ヘラ切り後ナデ、内外面回転ナデ	Aやや密。1～3mm大の白色砂粒を微量含む B不良 C内：灰黄2.5Y5/1 黄灰2.5Y7/3	底部内外面に黒斑あり。
91	須恵器	皿	灰原左下	①20.8 ②3.3 ③16.2	底部ヘラ切り後ナデ、内外面回転ナデ	A密。1～2mm大の白色砂粒を少量含む B不良 C内：にぶい黄7.5YR7/6 外：にぶい黄橙10YR7/4 褐灰10YR4/1	底部外面に黒斑あり。
92	須恵器	皿	灰原左下	①(20.5) ②2.7 ③(17.0)	底部回転ヘラ切り後ナデ、外面回転ナデ、内面回転ナデ後一定方向ナデ	A密。長石を多量、1.5mm以下の石英を微量含む B良好 C内：灰白N8/ 灰白N7/ 灰N4/ 外：灰白10Y8/1 灰5Y6/1 7.5Y6/1	
93	須恵器	皿	灰原左下	①18.7 ②3.0 ③10.5	底部回転ヘラ切り後ナデ、外面回転ナデ、内面回転ナデ後一定方向ナデ	Aやや密。1mm以下の石英を多量、微細な長石を少量含む B不良 C内：にぶい黄橙10YR7/3 浅黄2.5Y7/3 灰白10YR8/2 褐灰10YR5/1	焼け歪む。
94	須恵器	皿	灰原左上	①19.8 ②3.2 ③17.0	底部ヘラ切り後ナデ、内外面回転ナデ	Aやや密。1～3mm大の白色砂粒を微量含む B不良 C内：浅黄5YR8/4 褐灰5Y5/1	底部内外面に黒斑あり。
95	須恵器	皿	灰原左下	①19.8 ②3.2 ③17.5	底部回転ヘラ切り後ナデ、内外面回転ナデ	Aやや密。微細な雲母片、1～2mm大の白色砂粒を多量含む B不良 C内：黒褐7.5YR3/1 にぶい褐7.5YR6/3 浅黄橙7.5YR8/3 外：にぶい黄7.5YR7/3	内面に黒斑、火燂状の痕跡あり。
96	須恵器	皿	灰原左上(ベルト)	①19.8 ②3.1 ③16.2	底部回転ヘラ切り後ナデ、内外面回転ナデ	Aやや密。微細な雲母片、1mm大の白色砂粒を微量含む Bやや不良 C内外：灰黄2.5Y7/2	
97	須恵器	皿	灰原左下	①20.2 ②2.8 ③15.5	底部ヘラ切り後ナデ、板状圧痕、外面回転ナデ、内面回転ナデ後一定方向ナデ	A密。1mm大の白色砂粒を多量含む Bやや不良 C内外：灰オリーブ5Y6/2	
98	須恵器	皿	灰原左下	①20.6 ②3.3 ③17.5	底部ヘラ切り後ナデ、内外面回転ナデ	Aやや密。1～2mm大の白色砂粒を微量含む B良好 C内外：灰白7.5Y7/2	焼け歪む。底部外面に板状圧痕。
99	須恵器	皿	灰原左上(ベルト)	①20.5 ②3.1 ③16.6	底部回転ヘラ切り後ナデ、内外面回転ナデ	Aやや密。微細な雲母片を多量、1mm大の白色砂粒を微量含む B不良 C内外：にぶい黄橙10YR7/4 暗灰N3/	底部内外面に黒斑あり。
100	須恵器	皿	灰原左下	①20.3 ②3.6 ③13.6	底部回転ヘラ切り後ナデ、内外面回転ナデ	Aやや密。微細な長石、0.5mm以下の石英を多量、角閃石を微量含む B不良 C内外：灰白2.5Y8/1 8/2 にぶい黄橙10YR7/4 黒7.5YR2/1	底部内外面に黒斑あり。
101	須恵器	皿	灰原左下	①(20.6) ②3.1 ③16.0	底部回転ヘラ切り後ナデ、内外面回転ナデ	Aやや密。角閃石、1mm以下の石英を微量含む B不良 C内外：浅黄橙10YR8/3 にぶい黄橙10YR6/3 灰5Y4/1 オリーブ灰7.5Y3/1	底部内外面に黒斑、外面に火燂あり。
102	須恵器	皿	灰原左下	①20.6 ②3.1 ③16.0	底部回転ヘラ切り後ナデ、内外面回転ナデ	Aやや密。砂粒を少量含む B良好 C内外：にぶい黄橙10YR7/4 明黄褐10YR7/6 灰5Y8/2 灰7.5Y4/1 暗灰N3/	底部内外面に黒斑あり。
103	須恵器	皿	灰原左下	①(20.6) ②3.2 ③(15.1)	底部ヘラ切り後ナデ、内外面回転ナデ	A密。微細な雲母片を多量含む B不良 C内外：にぶい黄2.5Y6/3 黄灰2.5Y4/1	底部内外面に黒斑あり。
104	須恵器	皿	灰原左下	①(20.5) ②2.7 ③(17.1)	底部回転ヘラ切り後ナデ、内外面回転ナデ	Aやや密。長石、0.5mm以下の石英を多量、角閃石を少量含む B不良 C内外：灰白2.5Y8/1 灰黄2.5Y8/6 灰2.5Y4/1 黒褐2.5Y3/1	底部内外面に黒斑、内面に火燂あり。
105	須恵器	皿	灰原左上	①(21.0) ②2.8 ③16.6	底部ヘラ切り後ナデ、内外面回転ナデ	Aやや密。1～2mm大の白色砂粒を微量含む B不良 C内外：浅黄2.5Y7/3 黄灰2.5Y5/1	底部内外面に黒斑あり。一部火燂状を呈す。
106	須恵器	皿	灰原左下	①21.0 ②3.5 ③15.2	底部回転ヘラズリ後板状圧痕、内外面回転ナデ	Aやや密。1～3mm大の白色砂粒を多量含む B不良 C内外：にぶい黄橙10YR7/2	ロクロ右回転。
107	須恵器	皿	灰原左下	①21.1 ②3.0 ③17.8	底部回転ヘラズリ、内外面回転ナデ	Aやや密。微細な砂粒を微量含む B不良 C内：灰黄2.5Y7/2 外：黄灰2.5Y6/1	ロクロ右回転。
108	須恵器	皿	灰原左下	①21.0 ②2.8 ③17.0	摩滅激しい。底部ヘラ切り後ナデ、外面回転ナデ、内面回転ナデ後一定方向ナデ	A密。微細な雲母片・白色砂粒を含む B不良 C内外：浅黄橙7.5YR8/4 橙7.5YR7/6 褐灰7.5YR4/1	底部内外面に黒斑あり。一部火燂状を呈す。
109	須恵器	皿	灰原左上	①(21.5) ②3.0 ③16.5	底部ヘラ切り後ナデ、内外面回転ナデ	Aやや密。砂粒を微量含む B不良 C内：浅黄橙10YR8/3 外：浅黄橙10YR8/3 黒褐10YR3/1	底部内面に黒斑あり。
110	須恵器	皿	灰原左下	①(22.8) ②3.2 ③(15.6)	底部ヘラ切り後ナデ、内外面回転ナデ	Aやや密。長石・石英・角閃石を少量含む B不良 C内外：灰白10YR8/2 浅黄橙10YR8/4 黄灰2.5Y4/1 暗灰N3/	底部内外面に火燂痕あり。ロクロ右回転。
111	須恵器	皿	灰原左下	①22.6 ②2.8 ③18.6	底部外面回転ヘラズリ、外面回転ナデ、内面回転ナデ後一定方向ナデ	A密。0.5mm以下の長石を多量、2mm以下の石英を微量含む B良好 C内：灰N5/ 灰N6/ 灰5B6/1 5/1 暗灰N3/ 外：灰N5/ 10Y4/1 暗青灰5B3/1 5PB3/1 灰白10Y8/1 7/1	やや焼け歪む。ロクロ右回転。
112	須恵器	皿	灰原左下	①(22.6) ②2.8 ③(19.0)	底部回転ヘラズリ、外面回転ナデ、内面回転ナデ後一定方向ナデ	A密。微細な長石・黒色砂粒を微量含む B良好 C内：灰N6/ 灰N4/ 外：灰白N8/ 灰N5/ 4/	ロクロ右回転。
113	須恵器	皿	灰原右下	①(24.5) ②3.4 ③(19.6)	底部ヘラ切り後回転ヘラズリ、外面回転ナデ、内面回転ナデ後一定方向ナデ	A密。微細な長石・石英少量を含む B良好 C内外：灰白N7/ 灰N6/ 灰10Y5/1 暗灰N3/	内面に火燂痕あり。焼け歪む。ロクロ右回転。
114	須恵器	皿	灰原右上	①24.4 ②3.7 ③19.4	底部ヘラ切り後回転ヘラズリ、外面回転ナデ、内面回転ナデ後一定方向ナデ	A密。1mm大の白色砂粒を微量含む B良好 C内：緑灰7.5GY7/1 外：明緑灰10GY7/1	底部内外面に火燂痕あり。焼け歪む。ロクロ右回転。
115	須恵器	皿	灰原左下	①24.9 ②4.8 高台径19.2 高台高0.6	底部回転ヘラズリ後高台貼付の回転ナデ、外面回転ナデ、内面回転ナデ後一定方向ナデ	A密。微細な長石、1mm大の石英を極微量含む B良好 C内：灰白N7/ 灰N6/ 灰褐7.5YR6/2 外：灰白5Y7/1 7/1 灰7.5Y5/1 4/	ロクロ右回転。
116	須恵器	皿	SX03	①(26.6) ②3.5 高台径(19.2) 高台高0.6	底部回転ヘラズリ後高台貼付の回転ナデ、外面上半回転ナデ、下半ヘラズリ後ナデ、内面回転ナデ後ナデ	A密。長石、0.5mm以下の石英を多量含む B不良 C内外：灰白2.5Y8/1 浅黄2.5Y8/3 にぶい黄2.5Y6/3	ロクロ右回転。
117	須恵器	皿	灰原左上	②1.1+α	摩滅激しい。外面回転ヘラ切り？ 内面回転ナデ？	Aやや密。1mm大の白色砂粒を微量含む B不良 C内外：浅黄2.5Y8/3 黄灰2.5Y4/1	底部に焼成前穿孔。黒斑あり。
118	須恵器	高杯	灰原右下	①13.3 ②6.5 ③7.4	杯部外面回転ヘラズリ、回転ナデ、内面回転ナデ後一定方向ナデ、脚部シボリ成形後内外面回転ナデ	A密。1mm大の白色砂粒を微量含む B良好 C内外：暗オリーブ灰5GY4/1	ロクロ右回転。
119	須恵器	高杯	灰原左下	①(15.0) ②5.4～7.0 ③9.8	杯部外面回転ヘラズリ、回転ナデ、内面回転ナデ後一定方向ナデ、脚部シボリ成形後内外面回転ナデ	Aやや密。1mm以下の石英、長石を多量含む B良好 C内外：灰白N8/ 6/ 暗灰N3/	杯部外面に降灰。ロクロ右回転。
120	須恵器	高杯	灰原左下 灰原右下 灰原右上	①16.0 ②6.5～8.1 ③9.5	杯部外面回転ヘラズリ、回転ナデ、内面回転ナデ後一定方向ナデ、脚部シボリ成形後内外面回転ナデ、軸着杯部回転ナデ	A密。1mm大の白色砂粒を微量含む B良好 C内外：緑灰10GY5/1 灰N4/	底部に他の高杯粘着。外面に降灰し、逆位の重ね焼き。焼け歪む。ロクロ右回転。

遺物 番号	種類	器種	出土地点	法量cm①口径②器高③底径 ④最大径※①は釧元	形態・技法の特徴	A胎土 B焼成 C色調	備考
121	須恵器	高杯	灰原右下	①(18.6) ②8.0+α ③9.9	摩滅激しい。外面回転ナデ、回転ヘラケズリ 内面回転ナデ	A密。1～5mm以下の長石、石英を多量含む B良好 C内外：灰白N7/～灰N6/ 灰N4/～暗灰N3/	杯部外面に降灰。焼け歪む。ロクロ右回転。
122	須恵器	高杯	灰原上面	①20.3 ②7.1～7.75 ③9.85	杯部外面回転ヘラケズリ、回転ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ、脚部シボリ成形後内外面回転ナデ	A密。微細な長石、2mm以下の石英を多量含む Bやや良 C内外：灰白10YR7/1～N7/ 灰N4/～暗灰N3/	やや焼け歪む。重ね焼き痕あり。ロクロ右回転。
123	須恵器	高杯	灰原右下	①20.7 ②10.2 ③7.1	杯部外面底部1/2回転ヘラケズリ、他回転ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ、脚部シボリ成形後内外面回転ナデ	A密。1mm大の白色砂粒を多量含む B良好 C内外：灰5Y6/1～N4/	焼け歪む。ロクロ右回転。
124	須恵器	高杯	SX01 灰原右下	①(21.6) ②9.3 ③8.5	杯部外面底部回転ヘラケズリ、他回転ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ、脚部シボリ成形後内外面回転ナデ	A密。微細～1mm大の白色砂粒を微量含む B良好 C内外：灰10Y5/1	やや焼け歪む。ロクロ右回転。
125	須恵器	高杯	灰原右下 灰原右上 灰原左上 SX01上層	①23.6 ②9.7 ③10.9	杯部外面底部回転ヘラケズリ、他回転ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ、脚部シボリ成形後内外面回転ナデ	A密。1～3mm大の白色砂粒を多量含む B良好 C内：褐灰7.5YR6/1 浅黄褐7.5YR8/3 外：暗褐灰7.5YR7/1	やや焼け歪む。重ね焼き痕あり。ロクロ右回転。
126	須恵器	高杯	灰原左上(ベルト)	①25.1 ②13.8 ③12.0	杯部外面1/2回転ヘラケズリ、他回転ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ、脚部シボリ成形後内外面回転ナデ	A密。1～2mm大の白色砂粒を極多量含む B良好 C内外：灰5Y5/1 暗灰黄2.5Y5/2 灰黄2.5Y7/2 灰10Y6/1～暗灰N3/ 外：灰10YR6/1～5/1、5Y5/1 灰白7.5Y8/1	やや焼け歪む。ロクロ右回転。
127	須恵器	高杯	灰原右下 灰原右上 SX01上層	②13.1+α ③14.8	杯部内面一定方向ナデ、脚部シボリ成形後内外面回転ナデ	A密。1mm以下の白色砂粒を微量含む Bやや不良 C内：灰黄褐10YR6/1 外：灰褐10YR5/1	ロクロ右回転。
128	須恵器	瓶子 (頸部?)	灰原右下	①(8.7) ②4.8+α	内外面回転ナデ	Aやや密。長石を微量含む B良好 C内外：灰白2.5Y8/2～5Y8/2 にぶい黄橙10YR7/4	
129	須恵器	長頸壺	灰原左下	②20.2+α ④20.7 高台径10.6 高台高1.0	頸部内面回転ナデ、外面回転ナデ後1条沈線、胴部外面上半回転ナデ、下半回転ヘラケズリ、底部回転ヘラケズリ後高台貼付の回転ナデ、内面回転ナデ	A密。微細な白色砂粒を微量含む B良好 C内：灰10Y6/1 外：灰白10Y7/1 灰白10Y5/1	ロクロ右回転。
130	須恵器	短頸壺	灰原左下 灰原左上(ベルト)	①(10.8) ②14.0 高台径(10.4) 高台高0.8	底部回転ヘラケズリ後高台貼付の回転ナデ、外面上半回転ナデ、下半回転ヘラケズリ 内面回転ナデ	Aやや粗。1～3mm大の白色砂粒を多量に含む B良好 C内外：オリブ灰2.5GY6/1	ひどく焼け歪む。
131	須恵器	短頸壺	灰原左下 灰原左上 表層	①10.5 ②12.3+α ④19.6	外面上半回転ナデ、下半回転ヘラケズリ、内面回転ナデ	A密。1～2mm大の白色砂粒を多量含む B良好 C内外：オリブ灰2.5GY6/1～明オリブ灰2.5GY7/1	やや焼け歪む。ロクロ右回転。
132	須恵器	短頸壺	灰原右下	①(11.3) ②10.8+α ④20.2	底部ヘラ切り後高台貼付の回転ナデ、内外面回転ナデ	A粗。長石、3mm以下の石英を多量含む B不良 C内：浅黄橙2.5YR7/4～8/6 外：浅黄橙2.5YR7/4～8/6 灰白2.5Y8/2 浅黄2.5Y7/3	ロクロ右回転。
133	須恵器	鉢	灰原左下	①(25.0) ②16.2 ③13.8	摩滅激しく調整不明瞭。外面下半回転ヘラケズリ、内面ナデ	Aやや粗。3mm以下白色砂粒を多量、0.3mm以下の長石を少量含む B不良 C内：にぶい黄橙10YR7/2～浅黄2.5Y7/3 外：オリブ黒7.5Y3/1	ロクロ右回転。
134	須恵器	甕	灰原右下	①(15.4) ②5.2+α	内外面回転ナデ	A密。0.5mm以下の長石を多量、石英を微量含む B良好 C内外：灰白7.5Y8/1～N7/ 灰N6/～4/ 灰白5Y7/2	
135	須恵器	甕	灰原左下	①(22.8) ②9.9+α	内外面回転ナデ	A密。微細な雲母片を少量含む B良好 C内：灰黄褐10YR6/2 外：褐灰10YR6/1	やや焼け歪む。136と同一個体だが接合しない。
136	須恵器	甕	灰原左下	②7.2+α ④(26.6)	外面上半回転ナデ、下半回転ヘラケズリ、内面ナデ	A密。微細な雲母片を少量含む B良好 C内：灰黄褐10YR6/2 外：褐灰10YR6/2	135と同一個体だが接合しない。ロクロ右回転。
137	土師器	甕	灰原左下	①(21.8) ②7.0 ③19.8 胴部最大径19.5	口縁部ヨコナデ、外面ハケメ、内面ケズリ	A粗。0.5mm以下の石英・長石を多量含む B良 C内外：褐7.5YR6/6～5YR6/6	底部付近に被熱痕あり。
138	須恵器	杯蓋	SX04	①15.1 ②2.2 つまみ径2.4 つまみ高0.8	外面2/3回転ヘラケズリ、他回転ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ	A密。1～2mm以下の白色砂粒を微量含む B良好 C内外：灰N6/	焼け歪む。ロクロ右回転。
139	須恵器	杯蓋	SX04	①21.4 ②2.95 つまみ径2.2 つまみ高0.95	外面1/2回転ヘラケズリ、他回転ナデ	Aやや密。微細な雲母片、3mm大の砂粒を多量含む B不良 C内：浅黄5Y7/3 外：灰白5Y8/1～浅黄5Y7/3	ロクロ右回転。
140	須恵器	杯身	SX04	①(15.4) ②4.0 ③(11.2)	底部回転ヘラケズリ後回転ナデ、外面回転ナデ、内面回転ナデ後一定方向ナデ	A粗。微細な雲母片、1mm大の白色砂粒を微量含む Bやや不良 C内外：灰白5Y8/1	
141	須恵器	杯身	SX04	①15.3 ②4.4 高台径10.3 高台高0.5	底部回転ヘラケズリ後高台貼付の回転ナデ、内外面回転ナデ	A粗。1～2mm大の白色砂粒をやや多量含む B良好 C内：黄灰2.5Y6/1 外：暗青灰10BG4/1 黄灰2.5Y6/1	焼け歪む。底部外面にへら記号の痕跡。
142	須恵器	杯身	SX04	①17.4 ②5.9 高台径11.7 高台高0.5	底部回転ヘラ切り後高台貼付の回転ナデ、外面回転ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ	Aやや密。微細な雲母片、白色砂粒を微量含む Bやや良 C内外：灰白2.5GY8/1 緑灰7.5GY6/1	焼け歪む。
143	須恵器	皿	SX04	①(22.2) ②2.6 ③(16.4)	底部回転ヘラ切り後ナデ、外面回転ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ	A密。微細な雲母片、1mm大の白色砂粒を多量含む B不良 C内外：灰白5Y8/1～浅黄5Y8/3	
144	須恵器	高杯	SX04 灰原右下 灰原右上	①19.9 ②9.1 ③9.9	杯部外面回転ヘラケズリ、回転ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ、脚部シボリ成形後内外面回転ナデ	A密。1mm大の白色砂粒を微量含む B良 C内外：オリブ灰2.5GY6/1	やや焼け歪む。ロクロ右回転。

ハセムシ窯跡群30地点

遺物番号	種類	副産	出土地点	法量cm①口径②器高③底径 ④最大径 ※①は復元	形態・技法の特徴	A胎土 B焼成 C色調	備考
145	須恵器	杯蓋	立会灰原	①(11.8) ②2.9 受部径13.7 つまみ径2.2 つまみ高0.7	外面1/2回転ヘラケズリ、他回転ナデ、内面 回転ナデ後不定方向ナデ	A密。1mm以下の長石、石英粒を微量含む B良好 C内 外：灰白7.5Y 7/1 灰5Y6/1	外面にヘラ記号あり。
146	須恵器	杯蓋	確認灰原	①11.0 ②3.2 受部径13.5 つまみ径2.2 つまみ高0.4	外面1/2回転ヘラケズリ、他回転ナデ、内面 回転ナデ後不定方向ナデ	A密。1mm以下の白色粗砂を少量、白色砂粒を多量含む B良好 C内：灰5YR6/1～灰白5YR7/1 灰黄2.5Y7/2 外：灰N6/～灰白7.5Y7/1	外面にヘラ記号あり。 クロ右回転。
147	須恵器	杯蓋	確認灰原	①12.0 ②3.1 受部径13.9 つまみ径2.8 つまみ高0.7	外面1/2回転ヘラケズリ、他回転ナデ、内面 回転ナデ後一定方向ナデ	A密。2mm以下の白色粗砂を多量、2mm以上の白色砂粒を 微量含む B良好 C内：灰7.5Y6/1、N5/ 外：灰白 7.5Y7/1 灰7.5Y5/1	クロ右回転。
148	須恵器	杯蓋	確認灰原	①(11.8) ②3.5 受部径(14.0) つまみ径 2.0 つまみ高0.8	外面2/3回転ヘラケズリ、他回転ナデ、内面 回転ナデ後一定方向ナデ	A粗。1mm以下の白色粗砂、石英粒を多量含む B不良 C内：橙7.5YR7/6～にぶい黄橙10YR7/4 灰白5Y7/1 外：にぶい橙7.5YR7/4～橙7.5YR7/6 灰白10Y7/1 ～N7/	クロ右回転。
149	須恵器	杯蓋	確認灰原	①(11.8) ②3.5 受部径(14.4) つまみ径 2.3 つまみ高0.9	外面1/2回転ヘラケズリ、他回転ナデ、内面 回転ナデ後不定方向ナデ	A密。1mmほどの白色粗砂を多量、3mm大の石英粒を含 む B良好 C内：灰7.5Y6/1 外：灰5Y6/1～灰白 5Y7/1	外面にヘラ記号あり。 焼け歪む。 クロ右回転。
150	須恵器	杯蓋	確認灰原	①(12.0) ②3.3 受部径14.3 つまみ径2.3 つまみ高0.8	外面1/2回転ヘラケズリ、他回転ナデ、内面 回転ナデ後不定方向ナデ	Aやや粗。1mm以下の白色粗砂、砂粒を多量含む Bやや 不良 C内：灰白5Y7/1～灰7.5Y7/1 外：灰白7.5Y 7/1～10Y7/1 灰10Y5/1	クロ右回転。
151	須恵器	杯蓋	確認灰原	①12.0 ②3.0 受部径14.2 つまみ径2.4 つまみ高0.9	外面2/3回転ヘラケズリ、他回転ナデ、内面 回転ナデ後一定方向ナデ	A粗。1mm以下の白色粗砂を多量含む B良好 C内：灰 5Y5/1 外：灰7.5Y5/1	口縁部に工具の圧痕。 クロ右回転。
152	須恵器	杯蓋	確認灰原	①(12.0) ②3.3 受部径14.7 つまみ径2.5 つまみ高1.2	外面1/2回転ヘラケズリ、他回転ナデ、内面 回転ナデ後不定方向ナデ	A密。1mm以下の石英を微量、1mm以下の白色粗砂を 極微量含む B不良 C内：灰白2.5Y8/2 にぶい黄橙 10YR7/4 外：灰白7.5Y8/1～7.5Y7/1 淡黄橙 10YR8/3	外面にヘラ記号。 クロ右回転。
153	須恵器	杯蓋	確認灰原	①(12.0) ②3.3 受部径14.7 つまみ径2.6 つまみ高0.8	外面1/2回転ヘラケズリ、他回転ナデ、内面 回転ナデ後不定方向ナデ	A密。1mm以下の微細な白色粗粒を多量含む Bやや不良 C内：灰N5/～N4/、7.5Y6/1～7.5Y5/1 にぶい黄橙 10YR6/3 外：灰7.5Y5/1～4/1 灰黄2.5Y6/2～に ぶい黄2.5Y6/3	クロ右回転。
154	須恵器	杯蓋	確認灰原	①(14.3) ②3.0 受部径(15.8) つまみ径 3.2 つまみ高0.6	外面1/2回転ヘラケズリ、他回転ナデ、内面 回転ナデ後不定方向ナデ	A密。1mm程度の白色粗砂を微量含む B良好 C内：灰 5Y6/1、N6/ 外：灰N6/～灰白N7/	クロ右回転。
155	須恵器	杯蓋	立会灰原	①12.4 ②3.1 受部径14.6 つまみ径2.6 つまみ高0.7	外面1/2回転ヘラケズリ、他回転ナデ、内面 回転ナデ後不定方向ナデ	A密。1mm以下の長石、石英粒を少量含む B良好 C内 外：灰白5Y7/1～7.5Y7/1	やや焼け歪む。 クロ右回転。
156	須恵器	杯蓋	確認灰原	①(12.0) ②3.0 受部径14.7 つまみ径2.6 つまみ高0.9	外面1/2回転ヘラケズリ、他回転ナデ、内面 回転ナデ後一定方向ナデ	A粗。1mm以下の白色粗砂、2mm以上の石英粒を多量含 む Bやや不良 C内：にぶい橙5YR6/3～にぶい橙 7.5YR6/3 灰白5Y7/1 外：にぶい橙7.5YR6/4～6/3 灰白N7/ 灰5Y4/1	クロ右回転。
157	須恵器	杯蓋	確認灰原	①(12.2) ②3.0 受部径14.5 つまみ径2.3 つまみ高0.5	外面1/2回転ヘラケズリ、他回転ナデ	A粗。1mm以下の白色粗砂、2mm以下の石英粒を多量含む B良好 C内外：灰7.5Y7/1～7.5Y6/1	クロ右回転。
158	須恵器	杯蓋	確認灰原	①11.4 ②3.4 受部径14.6 つまみ径3.4 つまみ高0.7	外面2/3回転ヘラケズリ、他回転ナデ、内面 回転ナデ後不定方向ナデ	A密。1mm以下の白色粗砂を少量、2mm以下の白色砂粒を 極微量含む Bやや不良 C内外：灰黄2.5Y7/2～灰白 2.5Y7/1 すず：黒N2/	やや焼け歪む。 クロ右回転。
159	須恵器	杯蓋	立会灰原	①12.4 ②3.5 受部径14.9 つまみ径2.0 つまみ高0.7	外面1/2回転ヘラケズリ、他回転ナデ、内面 回転ナデ後不定方向ナデ	Aやや粗。1mm以下の長石を多量、2mm以下の石英を少量 含む Bやや不良 C内：灰白10Y7/1～灰10Y6/1 灰 白5Y7/2 外：灰5Y4/1～6/1 にぶい橙7.5Y6/3～灰 褐7.5YR5/2	外面にヘラ記号あり。 クロ右回転。
160	須恵器	杯蓋	確認灰原	①(12.2) ②2.8 受部径14.8 つまみ径2.4 つまみ高0.6	外面2/3回転ヘラケズリ、他回転ナデ	Aやや粗。1mm以下の白色粗砂、2mm以下の石英粒を多量 含む Bやや不良 C内：灰白5Y7/1 灰黄2.5Y7/2 外：灰7.5Y6/1～灰白5Y7/1	クロ右回転。
161	須恵器	杯蓋	確認灰原	①(12.4) ②2.8 受部径14.7 つまみ径2.8 つまみ高0.8	外面回転ヘラケズリ後回転ナデ、内面回転 ナデ	A密。微細な長石少量、2mm以下の石英粒を微量含む B良好 C内：灰白N7/ 灰N6/～5/ 外：灰5Y6/1～ N6/	やや焼け歪む。
162	須恵器	杯蓋	確認灰原	①(12.6) ②3.1 受部径14.8 つまみ径2.8 つまみ高0.8	外面2/3回転ヘラケズリ、他回転ナデ、内面 回転ナデ後不定方向ナデ	A密。1mm以下の白色粗砂、1mm程度の白色粗砂を多量含む B良好 C内：灰黄褐10YR5/2 灰7.5Y5/1 外：暗 灰N3/～N4/ 灰白10YR 7/1	外面にヘラ記号あり。
163	須恵器	杯蓋	確認灰原	①12.6 ②3.2 受部径15.2 つまみ径2.8 つまみ高0.6	外面1/2回転ヘラケズリ、他回転ナデ、内面 回転ナデ後一定方向ナデ	A密。1mm以下の白色粗砂を微量含む B不良 C内：灰 白5Y7/1 灰黄2.5Y7/1 外：灰白2.5Y8/1～7.5Y8/1 灰7.5Y6/1 灰黄2.5Y7/2	
164	須恵器	杯蓋	確認灰原	①(14.5) ②2.9 受部径14.8 つまみ径2.7 つまみ高0.4	外面1/2回転ヘラケズリ、他回転ナデ	Aやや粗。1mm以下の白色粗砂、3mm以下の白色砂粒を多 量含む B良好 C内：灰10Y6/1 外：灰白7.5Y7/1～灰 7.5Y5/1 灰黄2.5Y7/2	クロ右回転。
165	須恵器	杯蓋	確認灰原	①(12.4) ②2.6 受部径(14.8) つまみ径 2.4 つまみ高0.7	外面1/2回転ヘラケズリ、他回転ナデ	A密。1mmほどの白色粗砂を多量、1mm以上の石英粒を少 量含む B良好 C内：灰7.5Y6/1 外：灰白10Y7/1～ 灰7.5Y5/1	クロ右回転。
166	須恵器	杯蓋	確認灰原	①12.8 ②3.9 受部径(14.7) つまみ径 2.4 つまみ高1.0	外面1/2回転ヘラ切り後ナデ、他回転ナデ、 内面回転ナデ後不定方向ナデ	A細かい。1mm以下の長石を微量含む B不良 C内：橙 2.5Y7/2 灰白2.5Y7/1～5Y7/1 外：灰白5Y7/1～ 7/2	
167	須恵器	杯蓋	確認灰原	①(12.4) ②3.0 受部径14.9 つまみ径2.3 つまみ高0.7	外面2/3回転ヘラケズリ、他回転ナデ、内面 回転ナデ後一定方向ナデ	A密。1mm以下の白色粗砂を少量含む Bやや不良 C内： 灰白5Y8/1～灰N6/ 灰白2.5Y8/2～灰黄2.5Y7/2 外：灰白N7/ 灰白5Y8/1 灰N5/	内面に工具痕。 クロ右回転。
168	須恵器	杯蓋	確認灰原	①(13.0) ②3.1 受部径15.1 つまみ径2.5 つまみ高0.7	外面1/2回転ヘラケズリ、他回転ナデ	A密。1mm以下の白色粗砂を少量含む Bやや不良 C 内：灰白10YR8/2～2.5Y8/2 淡黄2.5Y8/3～灰黄 2.5Y7/2 外：灰白2.5Y8/1～8/2 灰褐7.5YR 6/2～ にぶい橙5YR6/3	クロ右回転。
169	須恵器	杯蓋	確認灰原	①12.9 ②3.1 受部径15.2 つまみ径2.7 つまみ高1.2	外面1/2回転ヘラケズリ後ナデ、他回転ナデ、 内面回転ナデ後一定方向ナデ	Aやや粗。1mm以下の白色粗砂を多量、1mm以上の白色 粗砂を少量含む B良好 C内：灰白5Y7/1 外：灰白 7.5Y7/1、5Y7/2 灰5Y5/1	外面にヘラ記号あり。
170	須恵器	杯蓋	確認灰原	①12.6 ②3.5 受部径15.0 つまみ径2.8 つまみ高0.7	外面摩滅のため不明瞭だが回転ヘラケズリ、 回転ナデか、内面回転ナデ後一定方向ナデ	Aやや粗。3mm以下の白色粗砂を多量含む Bやや不良 C内：灰 白2.5Y7/1～2.5Y8/1 外：灰 白2.5Y7/1、 2.5Y8/2～淡黄2.5Y8/2	クロ右回転。

遺物 番号	種類	器種	出土地点	法量cm①口径②器高③底径 ④最大径※⑤は設元	形態・技法の特徴	A胎土 B焼成 C色調	備考
171	須恵器	杯蓋	確認灰原	①(13.0) ②3.6 受部径15.3 つまみ径2.5 つまみ高0.9	外面1/2回転ヘラケズリ、他回転ナデ、内面 回転ナデ後不定方向ナデ	A粗。1mm以下の白色粗砂を多量、2mm以下の石英粒を微 量含む B良好 C内：灰7.5Y5/1～N4/ 外：灰N4/ 灰5Y6/1～5/2	ロクロ右回転。
172	須恵器	杯蓋	確認灰原	①12.8 ②3.3 受部径15.1 つまみ径2.5 つまみ高0.7	外面1/2回転ヘラケズリ、他回転ナデ	A密。1mm以下の白色粗砂を微量含む Bやや不良 C内 外：灰白5Y7/1～5Y8/2～淡黄2.5Y8/3	やや焼け歪む。 ロクロ右回転。
173	須恵器	杯蓋	確認灰原	①(14.0) ②3.9 受部径15.4 つまみ径2.5 つまみ高1.1	外面1/2回転ヘラケズリ、他回転ナデ、内面 回転ナデ後一定方向ナデ	A粗。3mm程度の白色粗砂を多量含む B良好 C内：灰 N4/、N6/、7.5Y5/1 外：灰N6/、7.5Y5/1	ロクロ右回転。
174	須恵器	杯蓋	確認灰原	①15.6 ②3.2 受部径15.6 つまみ径2.9 つまみ高0.5	外面1/3回転ヘラケズリ、他回転ナデ、内面 回転ナデ後不定方向ナデ	A密。2mm以下の白色・黒色粗砂を多量含む B良好 C 内：灰5YR6/1～灰白7.5Y7/2 外：灰7.5YR6/1～灰 10YR6/1	
175	須恵器	杯蓋	確認灰原	①(13.0) ②3.1 受部径15.5 つまみ径2.8 つまみ高0.7	外面1/2回転ヘラケズリ、他回転ナデ、内面 回転ナデ後不定方向ナデ	A密。2mm以下の白色粗砂を多量含む B不良 C内外： 灰白2.5Y8/1～5Y7/1 灰黄2.5YR7/2	
176	須恵器	杯蓋	確認灰原	①13.1 ②3.3 受部径15.6 つまみ径2.5 つまみ高0.8	外面1/2回転ヘラケズリ、他回転ナデ、内面 回転ナデ後不定方向ナデ	A密。3mm程度の白色粗砂を多量含む B良 C内：灰黄 2.5Y7/2 灰2.5Y6/1 外：灰黄2.5Y7/2 灰白5Y7/1 灰5Y5/1	焼け歪む。 ロクロ右回転。
177	須恵器	杯蓋	確認灰原	①(13.4) ②3.3 受部径15.7 つまみ径2.9 つまみ高1.2	外面1/2回転ヘラケズリ、他回転ナデ、内面 回転ナデ後不定方向ナデ	A粗。2mm以下の白色粗砂を多量含む Bやや不良 C内： 灰白2.5Y7/1 灰黄2.5Y7/2 外：灰白7/1～8/2	ロクロ右回転。
178	須恵器	杯蓋	確認灰原	①14.5 ②3.5 受部径16.9 つまみ径2.9 つまみ高0.9	外面1/2回転ヘラケズリ、他回転ナデ、内面 回転ナデ後不定方向ナデ	A密。1mm以下の白色粗砂を多量、白色粗砂を少量含む B良 C内：にぶい黄7.5YR7/4～黄7.5YR7/6 褐灰 10YR5/1～にぶい黄橙10YR7/2 外：にぶい黄7.5YR7/4 ～6/4 赤褐5YR4/6	ロクロ右回転。
179	須恵器	杯蓋	確認灰原	①(11.0) ②3.0 受部径(13.2)	外面1/2回転ヘラ切り、他回転ナデ、内面回 転ナデ後一定方向ナデ	A密。1mm以下の白色粗砂を多量、2mm以下の石英粒を 微量含む B良好 C内：にぶい黄5Y6/4～にぶい黄 7.5YR6/3 外：灰5Y6/1～にぶい黄橙10YR6/3	焼け歪む。
180	須恵器	杯蓋	確認灰原	①12.5 ②5.0 受部径14.5	外面1/2回転ヘラ切り後ナデ、他回転ナデ、内面 回転ナデ後不定方向ナデ	A密。1mm以下の白色粗砂を多量含む Bやや良 C内外： 灰7.5Y6/1～灰白7.5Y7/1	
181	須恵器	杯蓋	確認灰原	①12.4 ②3.0 受部径14.5	天井部外面ヘラ切り後ナデ、他回転ナデ	A密。1mm以下の白色粗砂を多量含む Bやや不良 C内 外：灰黄2.5Y7/2～灰白5Y7/1	
182	須恵器	杯蓋	確認灰原	①(12.2) ②2.8 受部径14.7	摩滅激しい。外面回転ヘラ切り、他回転ナ デ	A細かい。1mm以下の白色粗砂を微量含む B不良 C内 外：灰白2.5Y8/2～5Y8/2 にぶい黄7.5YR6/4	
183	須恵器	杯蓋	確認灰原	①(12.6) ②2.8 受部径14.9	天井部外面ヘラ切り後ナデ、他回転ナデ	Aやや粗。2mm以下の白色粗砂を多量、3mm以下の石英粒 少量含む B不良 C内：灰白7.5Y7/1～7/2 外：灰 白2.5Y7/1～5Y7/1 暗灰黄2.5Y5/2	
184	須恵器	杯蓋	確認灰原	①12.8 ②2.7 受部径(14.9)	外面1/2回転ヘラ切り後ナデ、他回転ナデ、内面 回転ナデ後不定方向ナデ	A密。1mm以下の白色粗砂を微量含む Bやや不良 C内： 灰5Y6/1 明黄褐10YR7/6～浅黄褐10YR8/4 外：灰 7.5Y6/1～10YR6/1 明黄褐10YR7/6～にぶい黄橙 10YR6/4	
185	須恵器	杯蓋	確認灰原	①(9.65) ②2.0 つまみ径1.9 つまみ高0.5～0.7	つまみ回転ナデ?、外面1/2回転ヘラケズリ、 他回転ナデ	A密。1mm以下の微細長石を少量含む B良好 C内：灰 5Y6/1～7.5Y6/1 外：灰5Y6/1～5Y5/1	ロクロ右回転。
186	須恵器	杯蓋	確認灰原	①(11.0) ②1.6 つまみ径1.9 つまみ高0.8	外面1/3回転ヘラケズリ、他回転ナデ、内面 回転ナデ	A密。1mm以下の白色粗砂やや多量含む B良好 C内： 灰白N7/ 外：灰N6/～N4/	やや焼け歪む。 ロクロ右回転。
187	須恵器	杯蓋	確認灰原	①11.1 ②2.4 つまみ径2.2 つまみ高0.65	外面2/3回転ヘラケズリ、1/3回転ナデ、内 面回転ナデ後一定方向ナデ	A密。1mm以下の白色粗砂多量含む B良 C内：灰 白2.5Y8/2、5Y7/1～7.5Y7/1 外：灰白5Y8/1～ 10Y7/1 灰7.5Y6/1～5/1	
188	須恵器	杯蓋	確認灰原	①(14.6) ②3.3 つまみ径2.7 つまみ高0.7	外面回転ヘラケズリ後回転ナデ、内面回 転ナデ	Aやや粗。1mm以下の長石、2mm以下の石英粒多量含 む B良 C内：褐灰10YR5/1～灰褐7.5YR5/2 灰 7.5YR6/1、7.5Y4/1 外：にぶい黄7.5YR5/3～5/4 にぶい赤褐5YR5/3 黒N2/	ロクロ右回転。
189	須恵器	杯蓋	確認灰原	①(15.8) ②3.8 つまみ径2.5 つまみ高0.5	外面回転ヘラケズリ後回転ナデ?、内面回 転ナデ	Aやや粗。1mm以下の長石、2mm以下の石英粒を多量含む Bやや不良 C内外：灰黄褐10YR6/2 灰2.5Y6/1～ 5Y6/1	外面にヘラ記号あり。 ロクロ右回転。
190	須恵器	杯蓋	確認灰原	①(16.1) ②3.0 つまみ径2.6 つまみ高0.5	外面1/2回転ヘラケズリ、他回転ナデ、内面 回転ナデ後不定方向ナデ	Aやや粗。1mm以下の長石を多量、3mm以下の石英を少量 含む Bやや不良 C内：灰黄2.5Y7/2～灰白5Y7/2 灰5Y6/1 外：灰2.5Y6/1～灰白5Y7/1 浅黄2.5Y7/3	外面にヘラ記号あり。 ロクロ右回転。
191	須恵器	杯身	確認灰原	①(13.1) ②4.8 高台径9.4 高台高1.0	底部回転ヘラ切り後ナデ、外面上半回転ナ デ、下半ヘラケズリ後ナデ、内面回転ナデ 後一定方向ナデ	A細かい。1mm以下の長石を少量、石英を微量含む Bや や不良 C内外：灰白2.5Y8/1、7.5Y7/1	
192	須恵器	杯身	確認灰原	①13.0 ②4.7 高台径8.7 高台高0.9	底部回転ヘラケズリ後高台貼付の回転ナデ、 内外面回転ナデ	A粗。1mm以下の白色粗砂、3mm以下の石英を多量含む Bやや不良 C内：オリブ灰2.5GY5/2～青灰5B5/1 外：灰5Y5/1～4/1 灰N4/	
193	須恵器	杯身	確認灰原	①(14.1) ②4.4 高台径9.0 高台高0.8	底部回転ヘラケズリ後高台貼付の回転ナデ、 ヨコナデ、外面回転ナデ、内面回転ナデ後 不定方向ナデ	A密。微細な長石を少量含む B良好 C内：灰N6/～ 5/ 外：灰7.5Y6/1～5/1 灰N6/～4/	焼け歪む。
194	須恵器	杯身	確認灰原	①(13.6) ②4.2～4.7 高台径9.8 高台高0.7	底部回転ヘラ切り後高台貼付の回転ナデ、 外面上半回転ナデ、他回転ヘラケズリ、内 面回転ナデ後一定方向ナデ	A密。微細な長石を少量、1mm以下の石英を微量を含む Bやや良 C内：灰白5Y7/1 灰黄2.5Y7/2～6/2 外： 黄灰2.5Y5/1 灰白5Y7/1 灰黄褐10YR8/2	
195	須恵器	杯身	確認灰原	①13.6 ②4.0 高台径8.9 高台高0.6	底部回転ヘラケズリ後高台貼付の回転ナデ、 外面回転ヘラケズリ、回転ナデ、内面回 転ナデ	A粗。1mm以下の長石、2mm以下の石英、粗砂を多量含む B良好 C内：灰白7.5Y7/1 灰7.5Y6/1 灰白N7/～ 灰N5/ 外：灰白7.5Y7/1～灰N6/	ロクロ右回転。
196	須恵器	杯身	確認灰原	①(13.5) ②4.4 高台径8.9 高台高0.9	底部回転ヘラケズリ後高台貼付の回転ナデ、 外面回転ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナ デ	A粗。1mm以下の長石を少量、2mm以下の石英粒を微量含 む Bやや不良 C内：灰10Y6/1 灰N6/～5/ 外：灰 白10Y7/1～N7/ 灰10Y5/1～4/1	底部外面にヘラ記号 あり。
197	須恵器	杯身	確認灰原	①13.7 ②4.0 高台径8.2 高台高0.9	底部回転ヘラケズリ後高台貼付の回転ナデ、 外面上半回転ナデ、他回転ヘラケズリ、内 面回転ナデ後一定方向ナデ	A密。微細な長石・石英を少量含む B良 C内：灰 10Y6/1～N6/ 灰10Y5/1 外：灰白10Y7/1～N7/ 灰N4/	焼け歪む。 ロクロ右回転。
198	須恵器	杯身	確認灰原	①13.0 ②4.8 高台径8.5 高台高0.7	底部回転ヘラケズリ後高台貼付の回転ナデ、 他回転ナデ	A粗。1mm以下の砂粒、長石を多量含む Bやや良 C内： 灰白10Y7/1～灰10Y6/1 灰白N7/ 外：灰白N7/～灰 N6/ 灰10Y4/1～N4/	ケズリの際の粘土層 が付着。ロクロ右回転。

遺物 番号	種類	器種	出土地点	法量cm①口径②器高③底径 ④最大径 ※①は復元	形態・技法の特徴	A胎土 B焼成 C色割	備考
199	須恵器	杯身	確認灰原	①(13.8) ②4.7 高台径8.8 高台高0.9	摩滅の為調整不明だが回転ナデか?	A密。1mm以下の白色粗砂を多量含む B不良 C内：灰白5Y7/1 灰黄2.5Y7/1～灰白5Y7/2 にぶい褐7.5Y6/3 外：灰白N7/～7.5Y7/1	
200	須恵器	杯身	確認灰原	①(13.8) ②4.7 高台径(6.9) 高台高1.0	底部回転ヘラケズリ後高台貼付の回転ナデ、外面回転ナデ、内面回転ナデ後一定方向のナデ	A密。微細な長石を少量、2mm以下の石英を微量含む B良 C内：灰白N7/、5Y7/2 外：灰白10Y7/1～N7/ 灰7.5Y5/1～4/1、10Y6/1	ロクロ右回転。
201	須恵器	杯身	立会灰原	①(14.1) ②4.3 高台径(9.8) 高台高0.7	底部回転ヘラ切り後高台貼付の回転ナデ、外面上半回転ナデ、下半ヘラケズリ、内面回転ナデ後一定方向ナデ	Aやや粗。1mm以下の長石、角閃石を多量含む B良 C内：灰白10Y7/1 灰黄2.5Y7/2 外：灰白10Y7/1～灰7Y6/1	
202	須恵器	杯身	確認灰原	①(14.0) ②4.9 高台径9.8 高台高1.0	底部回転ヘラ切り後回転ナデ、内外面回転ナデ	Aやや粗。微細な角閃石を微量、1mm以下の石英、長石を多量含む B良好 C内：灰白5Y7/1 外：灰7.5Y6/1	底部外面にヘラ記号あり。
203	須恵器	杯身	確認灰原	①(14.0) ②4.5 高台径(9.2) 高台高0.9	底部回転ヘラケズリ後高台貼付の回転ナデ、外面回転ヘラケズリ、回転ナデ、内面回転ナデ後一定方向のナデ	A密。1mm以下の白色粗砂を多量含む B良好 C内外：灰白7.5Y7/1 灰N6/	
204	須恵器	杯身	確認灰原	①14.0 ②4.5 高台径9.3 高台高0.8	底部回転ヘラケズリ後高台貼付の回転ナデ、外面回転ナデ、内面回転ナデ後一定方向のナデ	A密。微細な長石を少量、1mm以下の白色粗砂を微量含む B良好 C内：灰N6/～5/ 外：灰N6/～4/ 灰7.5Y6/1～4/1	ロクロ右回転。
205	須恵器	杯身	確認灰原	①(14.0) ②4.4 高台径9.8 高台高0.8	底部回転ヘラケズリ後高台貼付の回転ナデ、外面回転ナデ、内面回転ナデ後一定方向ナデ	A密。1mm以下の長石を少量含む Bやや不良 C内：灰黄2.5Y7/2～灰白5Y7/2、10Y7/1 外：灰白10Y7/1～N7/ 灰7.5Y6/1～4/1	
206	須恵器	杯身	確認灰原	①14.2 ②4.8～5.4 高台径9.1 高台高0.7	底部回転ヘラ切り後高台貼付の回転ナデ、外面回転ナデ、内面回転ナデ後一定方向ナデ	A密。微細な長石を多量、2mm以下の石英粒を微量含む B良 C内：灰10Y6/1～N6/ 外：灰10Y6/1～N6/ 降灰：灰7.5Y4/1	焼け歪む。
207	須恵器	杯身	確認灰原	①(14.0) ②4.8 高台径9.4 高台高0.9	底部回転ヘラ切り後高台貼付の回転ナデ、外面上半回転ナデ、下半ヘラケズリ後ナデ、内面回転ナデ後一定方向ナデ、摩滅気味。	A密。微細な長石、1mm以下の石英を多量含む B良好 C内外：灰白10Y7/1～N7/	
208	須恵器	杯身	確認灰原	①(14.2) ②4.1 高台径9.1 高台高1.0	底部回転ヘラ切り後高台貼付の回転ナデ、外面回転ナデ、内面回転ナデ後一定方向ナデ	Aやや粗。微細な長石、1mm以下の石英粒を多量含む B良好 C内：灰5Y6/1 外：灰白N7/ 灰10Y4/1～N4/	底部外面にヘラ記号あり。 焼け歪む。
209	須恵器	杯身	確認灰原	①14.8 ②4.7 高台径11.0 高台高0.6	底部回転ヘラケズリ後高台貼付の回転ナデ、外面回転ナデ、内面回転ナデ後一定方向ナデ	Aやや粗。1mm以下の長石を少量、石英を微量含む Bやや不良 C内：灰7.5Y6/1～10Y6/1 外：灰7.5Y6/1～N5/ 灰白5Y8/2～7.5Y8/2	底部外面にヘラ記号あり。 ロクロ右回転。
210	須恵器	杯身	確認灰原	①14.5 ②5.05 高台径9.4 高台高0.9	底部回転ヘラケズリ後高台貼付の回転ナデ、外面回転ナデ、内面回転ナデ後一定方向ナデ	Aやや粗。1mm以下の白色粗砂を多量含む Bやや不良 C内：灰N6/～灰白N7/ 灰白5Y7/1～7/2 外：灰5Y6/1～5/1 灰白N7/、5Y8/2	ロクロ右回転。
211	須恵器	杯身	確認灰原	①(9.0) ②3.1 ③(6.2)	底部回転ヘラケズリ、内外面回転ナデ	A密。微細な長石、1mm以下の石英を微量含む B良好 C内外：灰N5/～6/ 灰白N7/	やや焼け歪む。 ロクロ右回転。
212	須恵器	杯身	確認灰原	①(13.8) ②3.7 ③8.0	底部回転ヘラ切り後ナデ、外面上半回転ナデ、下半ヘラケズリ後ナデ、内面回転ナデ後一定方向ナデ	A密。微細な長石、1mm以下の石英を含む B良好 C内：灰5Y6/1～7.5Y6/1 外：5Y6/1～7.5Y6/1 灰5Y5/1	
213	須恵器	杯身 (穿孔)	確認灰原	①(15.2) ②5.0 ③(4.0) 穿孔径1.5	底部回転ヘラ切り後ナデ、内外面回転ナデ	A密。微細な長石を少量含む Bやや不良 C内外：灰白5Y7/2 灰7.5Y6/1～N6/	穿孔あり。
214	須恵器	高杯	確認灰原	①14.5 ②9.1 ③6.3	杯部外面底部回転ヘラケズリ、他回転ナデ、内面回転ナデ後一定方向ナデ、脚部内外面回転ナデ	A粗。1mm以下の白色粗砂・砂粒を多量に含む B良好 C脚内：灰白N7/～灰N6/ 杯内：灰白7.5Y7/1～5Y7/2 灰N5/ 外：灰白N7/～灰N6/	ロクロ右回転。
215	須恵器	高杯	確認灰原	①(15.2) ②8.2 ③10.1	杯部外面底部一部回転ヘラケズリ、他回転ナデ、内面回転ナデ後一定方向ナデ、脚部内外面回転ナデ	Aやや粗。1mm以下の長石、砂粒を多量含む Bやや不良 C内：浅黄褐10Y8/1 にぶい黄褐10YR7/3～灰黄褐10YR6/2 にぶい黄褐5YR5/4～にぶい褐7.5YR5/3 外：にぶい褐7.5YR6/3～にぶい橙7.5YR6/4 灰黄褐10YR5/2	ロクロ右回転。
216	須恵器	高杯	確認灰原	①(15.4) ②6.0+α	杯部外面底部回転ヘラケズリ、他回転ナデ、内面回転ナデ後一定方向ナデ、脚部内外面回転ナデ	A密。微細な長石を少量、2mm以下の石英粒を微量含む B良好 C内：灰10Y6/1～N6/ 外：灰白N7/～灰10Y5/1～N4/	杯部外面にヘラ記号あり。 ロクロ右回転。
217	須恵器	高杯	確認灰原	②4.2+α ③10.0	脚部内外面回転ナデ	A密。1mm以下の長石を微量含む B良好 C内：灰白5Y7/2 灰N6/～5/ 外：灰白N7/～灰N6/ 灰10Y5/1～4/1	
218	須恵器	鉢	確認灰原	①(12.8) ②5.0 ③8.0	底部外面ヘラ切り、内外面回転ナデ	A密。2mm以下の石英粒を微量、微細な長石を極微量含む B良好 C内外：灰白10Y7/1～灰10Y6/1、N5/、N4/	
219	須恵器	鉢	確認灰原	②8.1+α	外面上部回転ナデ、下部回転ヘラケズリ、内面回転ナデ	A密。2mm以下の石英粒を微量、微細な長石を極微量含む B良好 C内外：灰N6/ 外：灰10Y4/1～N4/、N3/	ロクロ右回転。
220	須恵器	長頸壺	確認灰原	②4.2+α ④(24.0)	外面回転ナデ後二条沈線2ヶ所、波状文施文、内面回転ナデ	A密。1mm以下の長石、1mm以下の石英粒を微量含む B良好 C内外：灰白5Y7/1～7.5Y7/1、5Y7/2 灰5Y6/1	

大谷窯跡群B地点

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量cm①口径②器高③底径④最大径※⑤は復元	形態・技法の特徴	A胎土 B焼成 C色調	備考
221	須恵器	杯蓋	14トレンチ	①10.6 ②1.2	外面1/2回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ、内面回転ナデ後ヨコナデ	A密。微細な白色砂粒を含む B良好 C内:黄灰2.5YR6/1 外:灰10Y5/1、灰白10Y7/1	
222	須恵器	杯蓋	14トレンチ	①14.0 ②2.2 つまみ径2.6 つまみ高0.4	外面1/2回転ヘラケズリ、内面回転ナデ後不定方向ナデ	A密。1～2mm大の白色砂粒を多量含む B良好 C内:にぶい黄橙10YR7/2 外:灰10Y5/1	焼け歪む。 外面ヘラ記号状沈線。 ロクロ右回転。
223	須恵器	杯蓋	14トレンチ	①17.6 ②3.4 つまみ径1.8 つまみ高0.8	内外面回転ナデ	A密。長石・黒色粒子を多量、1mm以下の石英を微量含む Bやや不良 C内外:灰黄2.5Y6/2～灰N6/ 灰白5Y7/1	やや摩滅。
224	須恵器	杯蓋	14トレンチ	①(14.8) ②3.3 つまみ径2.2 つまみ高0.5	外面1/2回転ヘラケズリ、他回転ナデ、内面回転ナデ後ヨコナデ	Aやや粗。石英・長石粒多量含む B良 C内:灰N6/ 4/ 外:灰10Y5/1～N4/	ロクロ右回転。
225	須恵器	杯蓋	14トレンチ	①14.9 ②2.6 つまみ径2.9 つまみ高1.4	外面1/3回転ヘラケズリ、他回転ナデ、つまみ貼付のナデ、内面回転ナデ後ヨコナデ	Aやや粗。長石を多量、0.5～3mm大の石英を少量含む B良好 C内:灰10Y4/1～N5/、10Y6/1 外:灰白10Y7/1～N7/ 灰10Y5/1～N4/	体部外面に粘土粒付着。
226	須恵器	杯蓋	14トレンチ	①15.2 ②3.8 つまみ径1.3 つまみ高0.7	外面摩滅のため調整不明、つまみ貼付のナデ、内面回転ナデ後一部ナデ	A密。微細な長石を多量、3mm程の石英を微量含む B不良 C内:灰白5Y8/1～浅黄2.5Y7/3 外:灰白2.5Y8/1～浅黄2.5Y7/3	
227	須恵器	杯蓋	14トレンチ	①16.1 ②1.8 つまみ径2.2 つまみ高0.5	外面1/3回転ヘラケズリ、他回転ナデ、内面回転ナデ後ヨコナデ	A粗。1～3mm大の白色砂粒を多量含む B良好 C内外:青灰10BG5/1	焼け歪む。 ロクロ右回転。
228	須恵器	杯蓋	14トレンチ	①18.0 ②2.7+α	外面1/3回転ヘラケズリ、他回転ナデ、内面1/3回転ナデ、他はヨコナデ後、多形状にナデ	A密。1～2mm大の白色砂粒を微量含む Bやや不良 C内外:灰白10YR8/2	つまみ欠損。 ロクロ右回転。
229	須恵器	杯蓋(穿孔)	14トレンチ	①(14.1～15.0) ②1.8	外面1/3回転ヘラケズリ、1/3回転ナデ、天井部・穿孔部ナデ、内面天井部不定方向ナデ後ナデ、他回転ナデ	A密。1mm大の白色砂粒を微量含む B良好 C内:にぶい褐7.5YR6/3 外:灰褐7.5YR6/2	つまみ取り付け後に穿孔か。 ロクロ右回転。
230	須恵器	杯身	14トレンチ	①12.8 ②4.0 高台径8.4 高台高0.4	底部回転ヘラ切り後ナデ、内外面回転ナデ	A密。1mm大の白色砂粒を微量含む B良好 C内外:青灰10BG6/1	外面降灰。
231	須恵器	杯身	14トレンチ	①14.4 ②3.7～4.2 高台径8.8 高台高0.5	底部ヘラ切り後ナデ、外面回転ナデ、内面回転ナデ後不定方向ナデ	A密。微細な粗砂を多量、3mm以下の石英少量含む B良 C内:灰白7.5Y7/1～5Y7/2 外:灰白5Y7/2～10Y7/1、暗青灰5PB3/1	焼け歪む。
232	須恵器	杯身	14トレンチ	①15.2 ②4.6 高台径10.7 高台高0.6+α	底部ヘラ切り後軽クナデ、外面回転ナデ、内面1/2回転ナデ、他回転ナデ後ヨコナデ	A密。1mm大の白色砂粒を微量含む B良好 C内外:にぶい黄橙10YR6/3	底部外面ヘラ記号。
233	須恵器	杯身	14トレンチ	①(14.0) ②5.4 高台径9.6 高台高0.6	底部ヘラ切り後ナデ、内外面回転ナデ	A粗。1～3mm大の白色砂粒を多量含む B良好 C内:青灰10BG6/1 外:暗青灰5BG3/1	底部外面降灰。 底部内面に須恵器片粘着。
234	須恵器	杯身	14トレンチ	①(15.0) ②5.75 高台径10.4 高台高0.7	底部回転ヘラ切り後ナデ、外面回転ナデ、内面1/3ヨコナデ、他回転ナデ	Aやや粗。1～2mm大の白色砂粒を多量含む B良好 C内外:オリブ灰5GY6/1	やや焼け歪む。
235	須恵器	杯身	14トレンチ	①14.8 ②4.6 高台径10.4 高台高0.3	底部回転ヘラ切り、外面回転ナデ、内面1/2回転ナデ後ヨコナデ、他回転ナデ	A粗。2mm以下の石英・長石・粗砂を多量含む Bやや不良 C内:灰黄2.5Y7/2 灰白N7/ 外:灰黄2.5Y7/2～灰白N7/～暗灰N3/	器表面やや摩滅。
236	須恵器	皿	14トレンチ	①(14.4) ②2.0 ③(11.0)	底部回転ヘラ切り後ナデ、内外面回転ナデ	A密。微細な長石・角閃石を多量含む B良好 C内外:灰10Y6/1～N4/	
237	須恵器	皿	14トレンチ	①15.0 ②3.1 高台径11.0 高台高0.5	底部回転ヘラケズリ、外面回転ナデ、内面1/2ヨコナデ、他回転ナデ	Aやや粗。1～2mm大の白色砂粒、黒粒を多量含む B良好 C内:灰白5Y7/2 外:灰5Y6/1	体部に焼き割れ。
238	須恵器	蓋	14トレンチ	①14.4 ②3.4 つまみ径2.6 つまみ高1.1	外面1/3回転ナデ、1/3回転ヘラケズリ後ナデ、1/3つまみ貼付のナデ、内面回転ナデ後1/4一定方向ナデ	A密。2mm以下の石英・長石少量含む B良好 C内:灰白N7/～暗灰N3/ 外:灰白7.5Y7/1～灰N4/	内面一部に降灰。 ロクロ右回転。
239	須恵器	長頸壺	14トレンチ	①10.8 ②9.0+α	内外面回転ナデ、外面下位ナデ・シボリ痕	A密。微細な長石を多量、1mm以下の石英を少量含む B良好 C内:灰N6/～10Y4/1 外:青灰5PB6/1～暗灰N3/	外面降灰。 内外に焼き影れ。
240	須恵器	鉢	14トレンチ	①(31.4) ②17.4+α	内外面回転ナデ、内面下位ヘラケズリ後回転ナデ	A密。1mm大の白色砂粒・黒粒を多量含む B不良 C内外:灰白10Y7/2	瓦質に近い。

小田浦遺跡群80地点

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量cm①口径②器高③底径④最大径※⑤は復元	形態・技法の特徴	A胎土 B焼成 C色調	備考
241	縄文土器	深鉢	13トレンチピット1	②4.2+α	口唇部刻目、外面:二枚貝条痕のち稜形状の沈線、内面:二枚貝条痕	A2mm程度の石英、微細な粗砂多量含む B良好 C内外:黒N2/ 灰10Y6/1～N6/	北久根山式。
242	須恵器	杯蓋	13トレンチ包含層	①(7.4) ②3.0+α 受部径(9.8)	外面1/3ヘラ切り、他回転ナデ	A密。微細な長石を多量、2mm以下の石英を少量含む B良好 C内:灰N4/～N5/ 灰白5Y7/2 外:灰N4/～N5/	焼け歪みのため復元 後に難あり。 体部外面ヘラ記号。
243	須恵器	杯蓋	13トレンチ包含層	①(8.6) ②2.9+α 受部径(12.1)	外面1/2回転ヘラケズリ、他回転ナデ	A密。1mm以下の白色・黒色粗砂を微量含む B良好 C内:紫灰5P5/1 外:灰白7.5Y7/1～灰N5/	外面に降灰。 外面に砂塊粘着。
244	須恵器	杯身	15トレンチ包含層	①(11.0) ②2.5+α 受部径(12.8)	内外面回転ナデ	A密。長石を微量含む B良好 C内:灰10Y6/1 外:灰N6/～青灰5PB6/1	
245	須恵器	短頸壺	13トレンチ包含層	①(7.4) ②6.1+α ③(9.4)	外面口頸部回転ナデ後右方向にナデ上げ、体部カキメ、下位ナデ、内面回転ナデ	Aやや粗。3mm以下の石英粒、微細長石・雲母片少量含む B良好 C内:灰10Y6/1 オリーブ黒7.5Y3/1 外:灰10Y5/1、5Y4/1	口頸部に降灰。
246	土製品	円筒状土製品	13トレンチ包含層	②6.8+α ④(21.4)	内外面ナデ	A粗。1mm以下の石英粒多量、角閃石・雲母片を少量含む B良好 C内外:橙5YR7/8～黄橙7.5YR7/6	やや摩滅。
247	瓦	平瓦	13トレンチ包含層	長9.5+α 幅7.5+α 厚1.6	凸面平行タタキ、凹面同心円文当て具痕、側面ヘラ切り	Aやや粗。3mm以下の石英、微細雲母・角閃石多量含む B良好 C凹凸:橙2.5YR6/6～6/8	249と同一個体。 土師質。
248	瓦	平瓦	13トレンチ包含層	長10.0+α 幅9.2+α 厚2.3	凸面ナデ、凹面布目痕、側面ヘラ切り	A密。微細長石多量、微細雲母少量、2mm以下の石英微量含む B良好 C凹凸:橙7.5YR7/6～にぶい橙10YR7/4	土師質。
249	瓦	平瓦	13トレンチ包含層	長17.5+α 幅16.7+α 厚1.4	凸面平行タタキ、凹面同心円文当て具痕、一部布目残る	Aやや粗。3mm以下の石英、微細長石・雲母多量含む B良好 C凹凸:明黄褐2.5YR5/8～橙5YR6/6～6/8	247と同一個体。 土師質。

图 版



(1) 調査区全景（北東から）



(2) 1号窯検出状況（北から）



(1) 1号窯煙突検出状況
(北東から)



(2) 1号窯焼成部横断面土層堆
積状況 (北東から)



(3) 1号窯焼成部縦断面土層堆
積状況 (北西から)



(1) 1号窯前庭部縦断面土層
堆積状況（北西から）



(2) 1号窯灰原縦断面土層
堆積状況（北西から）



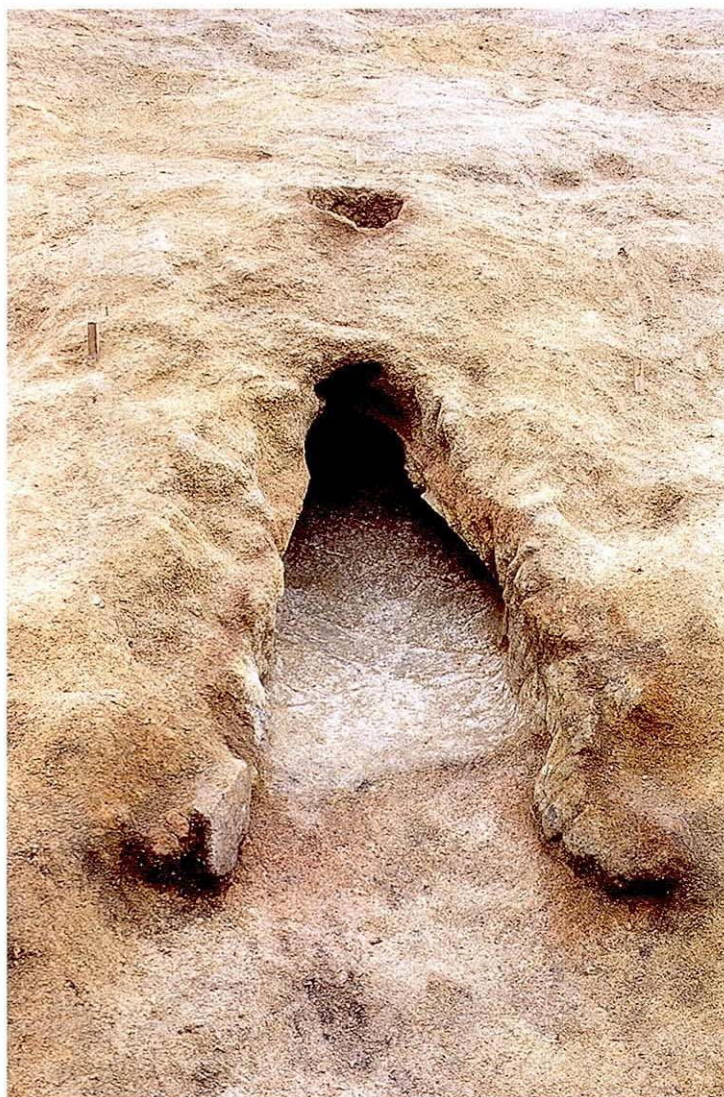
(3) 1号窯灰原横断面右側
土層堆積状況（北東から）



(1) 1号窯完掘状況①（北東から）



(2) 1号窯完掘状況②（北東から）



(1) 1号窯完掘状況③（北東から）



(2) 1号窯完掘状況④（南西から）



(1) 1号窯左側壁（北西から）



(2) 1号窯右側壁（東から）



(3) 1号窯右側壁遺物出土状況
（東から）

(1) 1号窯燃焼部たち割り
状況左側壁（北東から）



(2) 1号窯燃焼部たち割り
状況右側壁（北東から）



(3) 1号窯焼成部たち割り
状況（北東から）





(1) SX04完掘状況（北西から）



(2) 作業風景①（北東から）



(3) 作業風景②（北から）



1



8



2



9



3



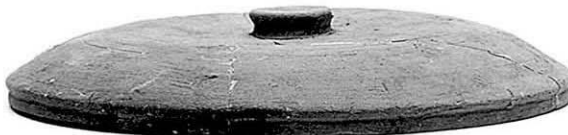
10



4



11



5



12



6



13



7



14



15



22



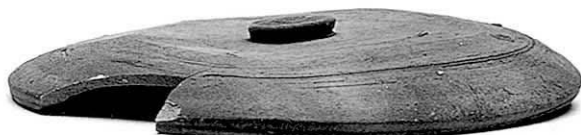
16



23



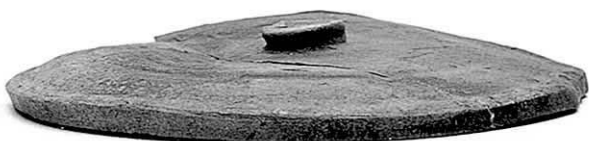
17



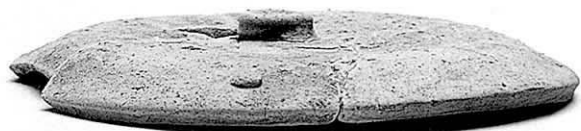
24



18



25



19



27



20



28



21



29



30



38



31



39



33



40



34



41



35



42



36



43



37



45



46



55



47



56



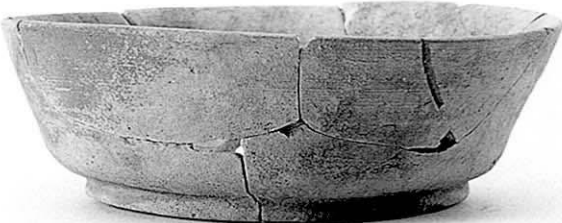
49



57



50



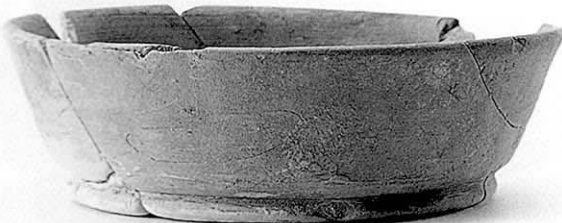
58



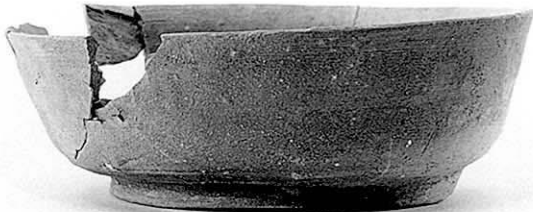
52



59



54



60



61



68



62



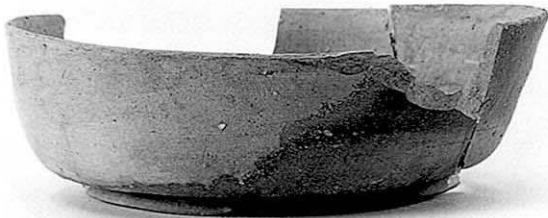
69



63



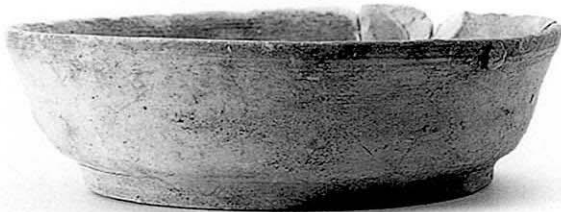
71



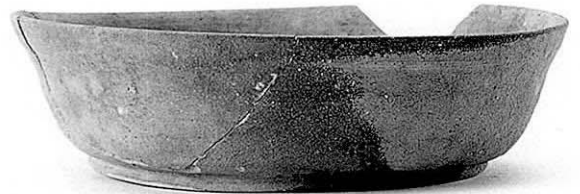
64



76



65



77



67



78



79



86



80



87



81



88



83



90



91



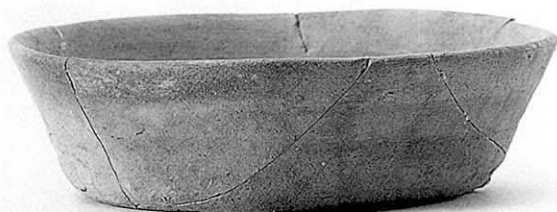
84



93



94



85



95



96



99



100



97



102



103



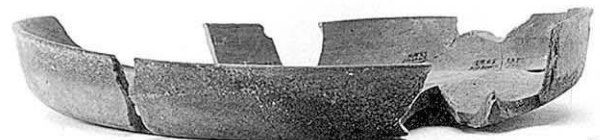
106



98



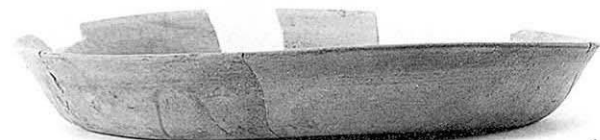
108



111



113



114



115



116



117



118



119



120



121



122



123



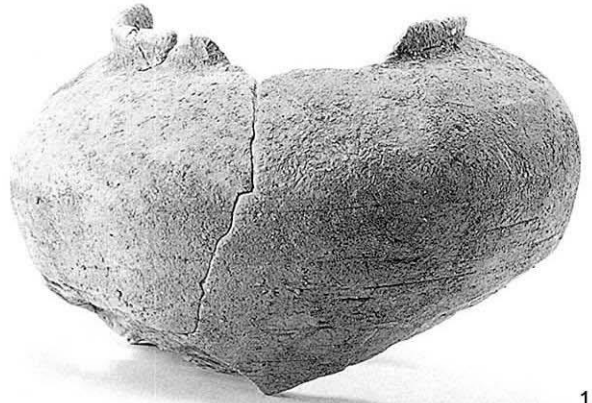
124



125



126



132



129



133



130



137



131



138



140



141



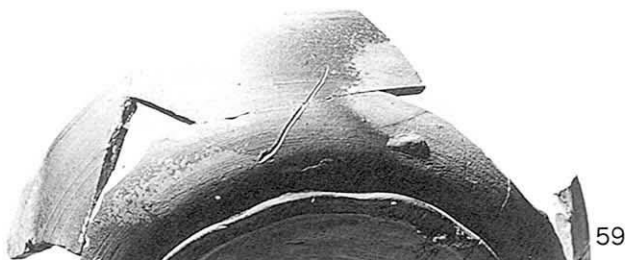
142



144



37



59



79



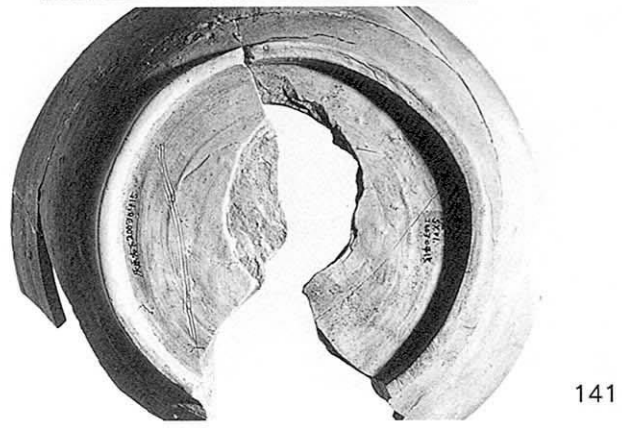
8



81



32



141



143



150



144



151



145



152



146



153



147



154



148



155



149



156



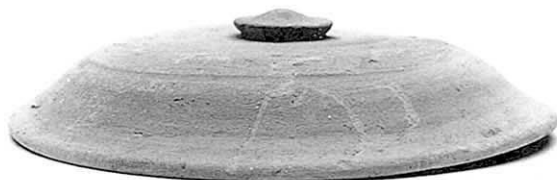
157



164



158



165



159



166



160



167



161



168



162



169



163



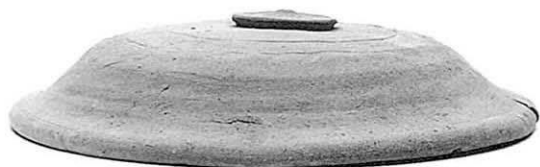
170



171



178



172



179



173



180



174



181



175



182



176



183



177



184



185



192



186



193



187



194



188



189



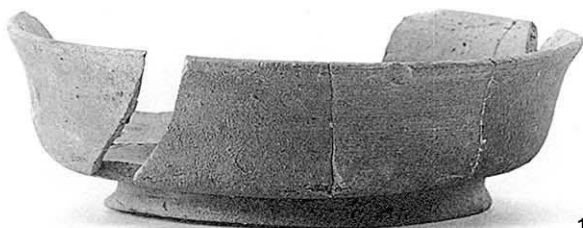
195



190



196



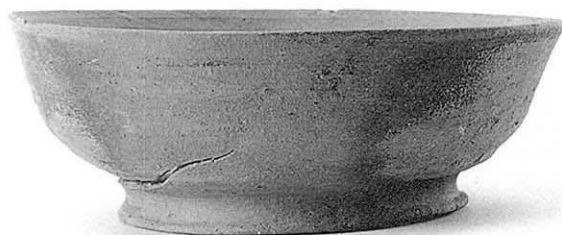
191



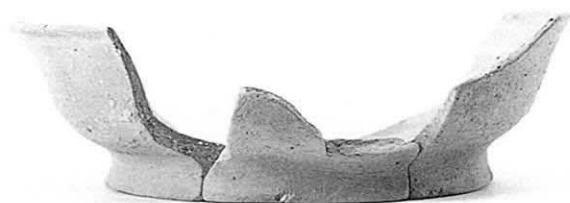
197



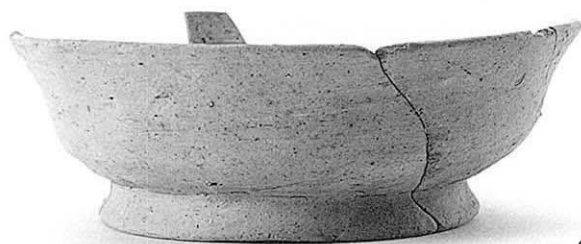
198



204



199



205



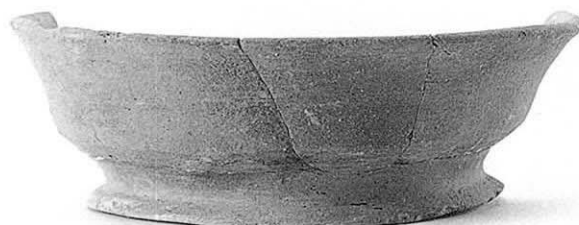
200



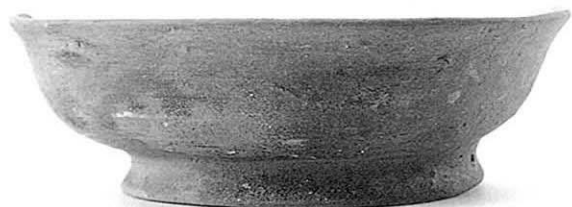
206



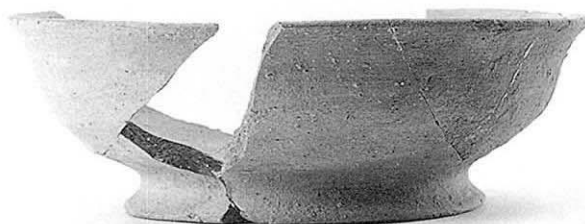
201



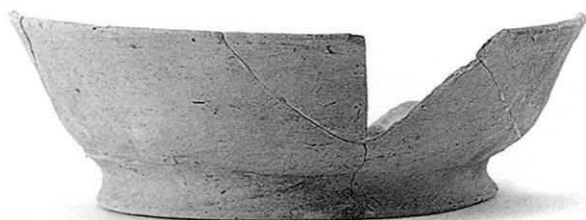
207



202



208



203



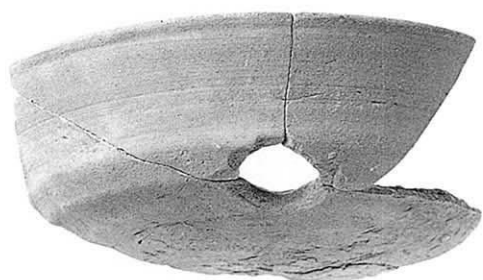
209



210



211



212



213



214



215



143



144



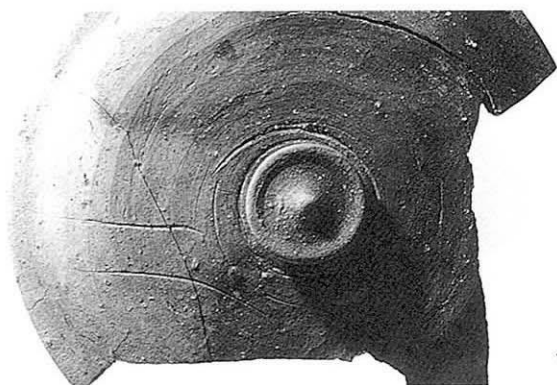
147



150



157



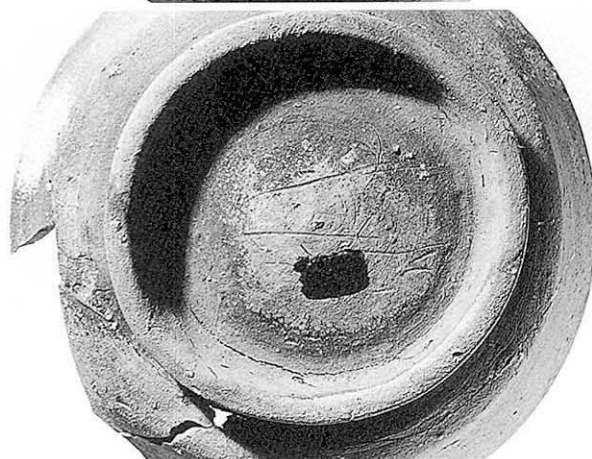
160



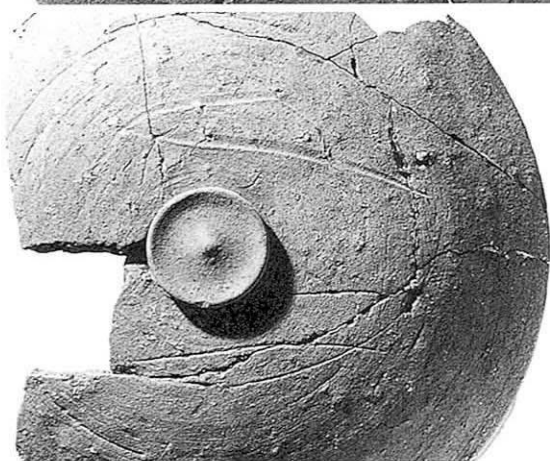
200



167



206



187



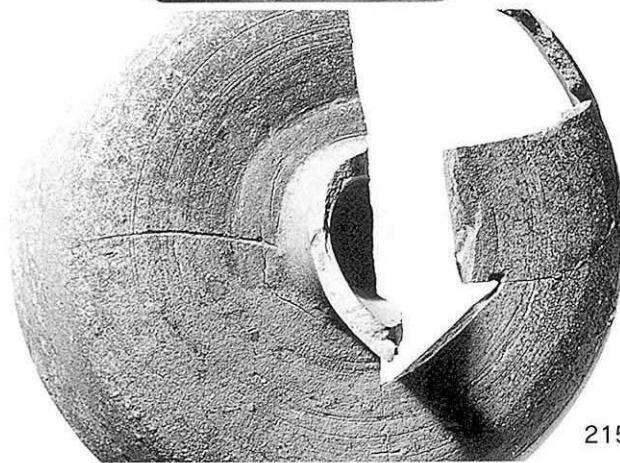
207



188



194



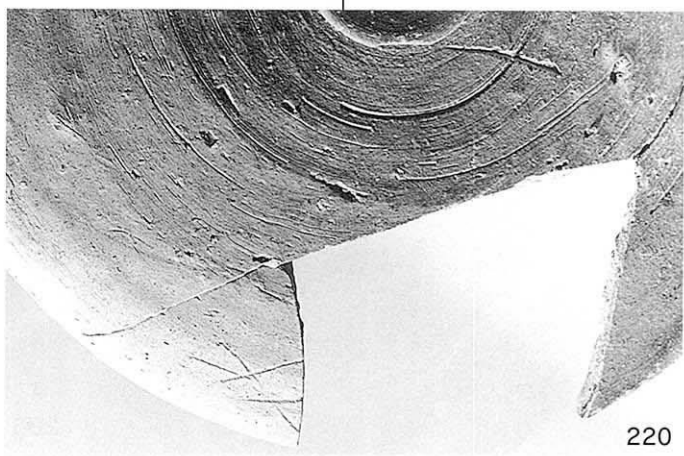
215



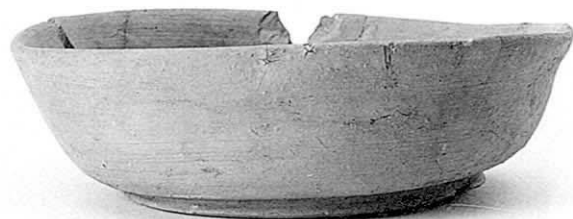
219



227



220



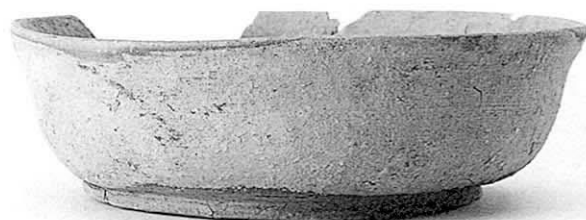
229



232



221



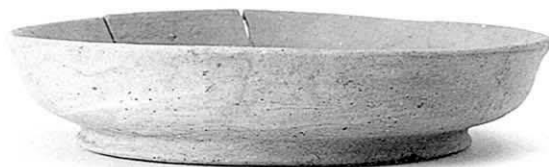
233



222



225



235



228



236



239



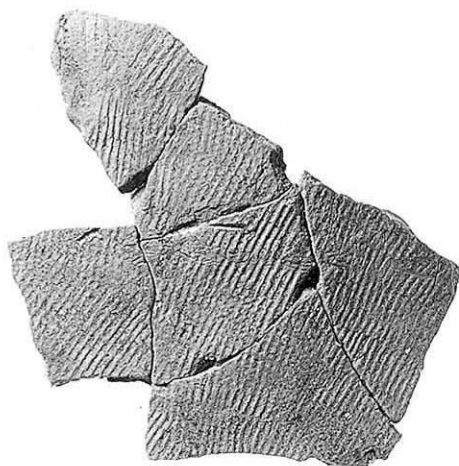
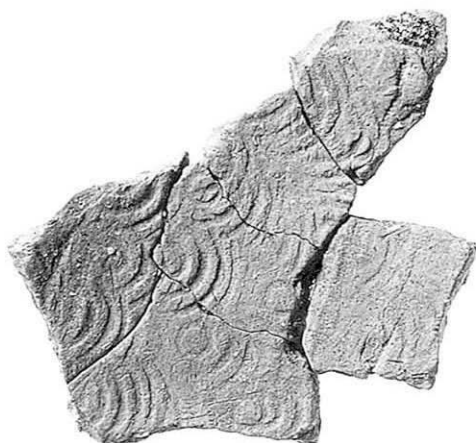
244



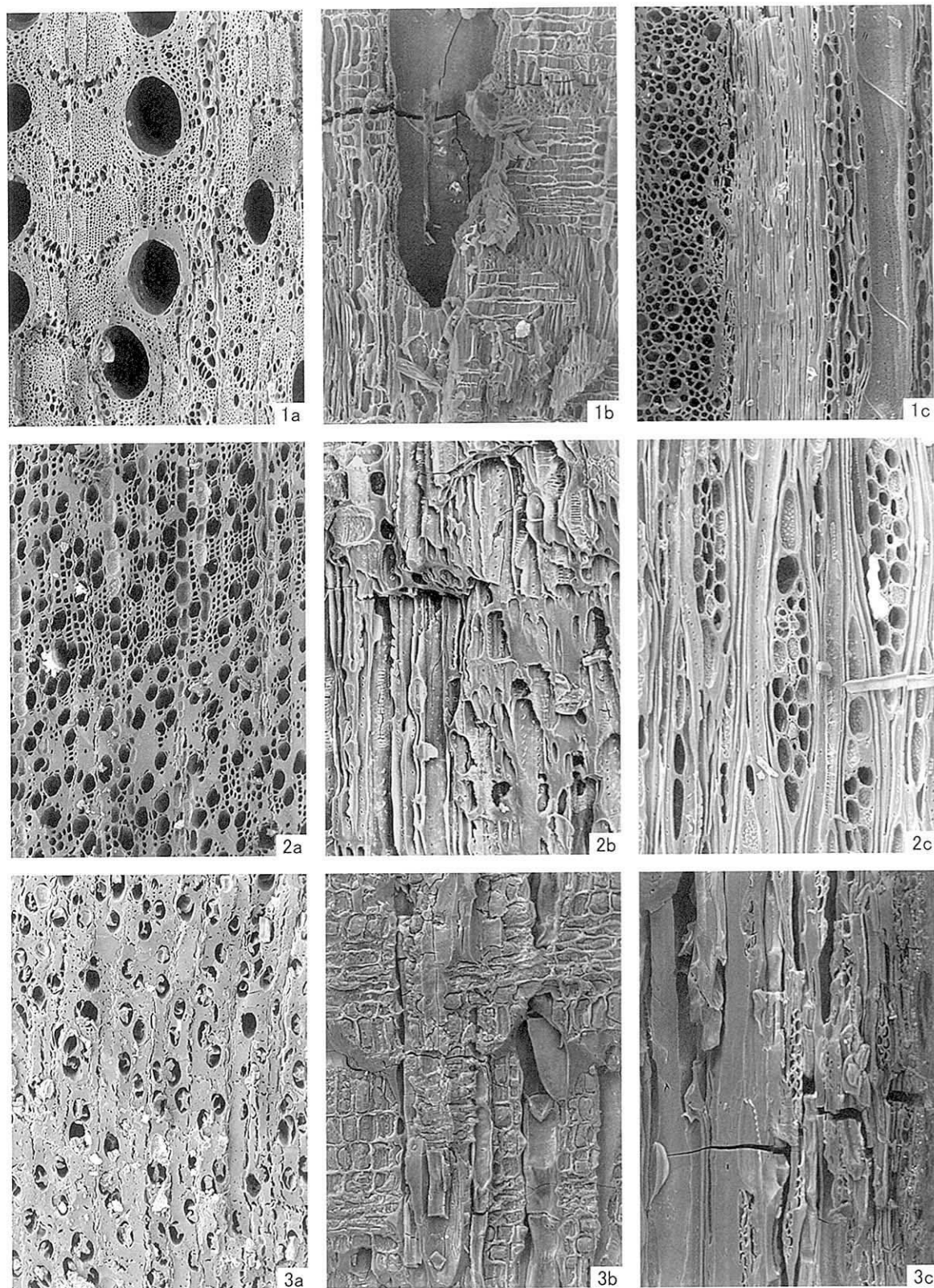
245



246

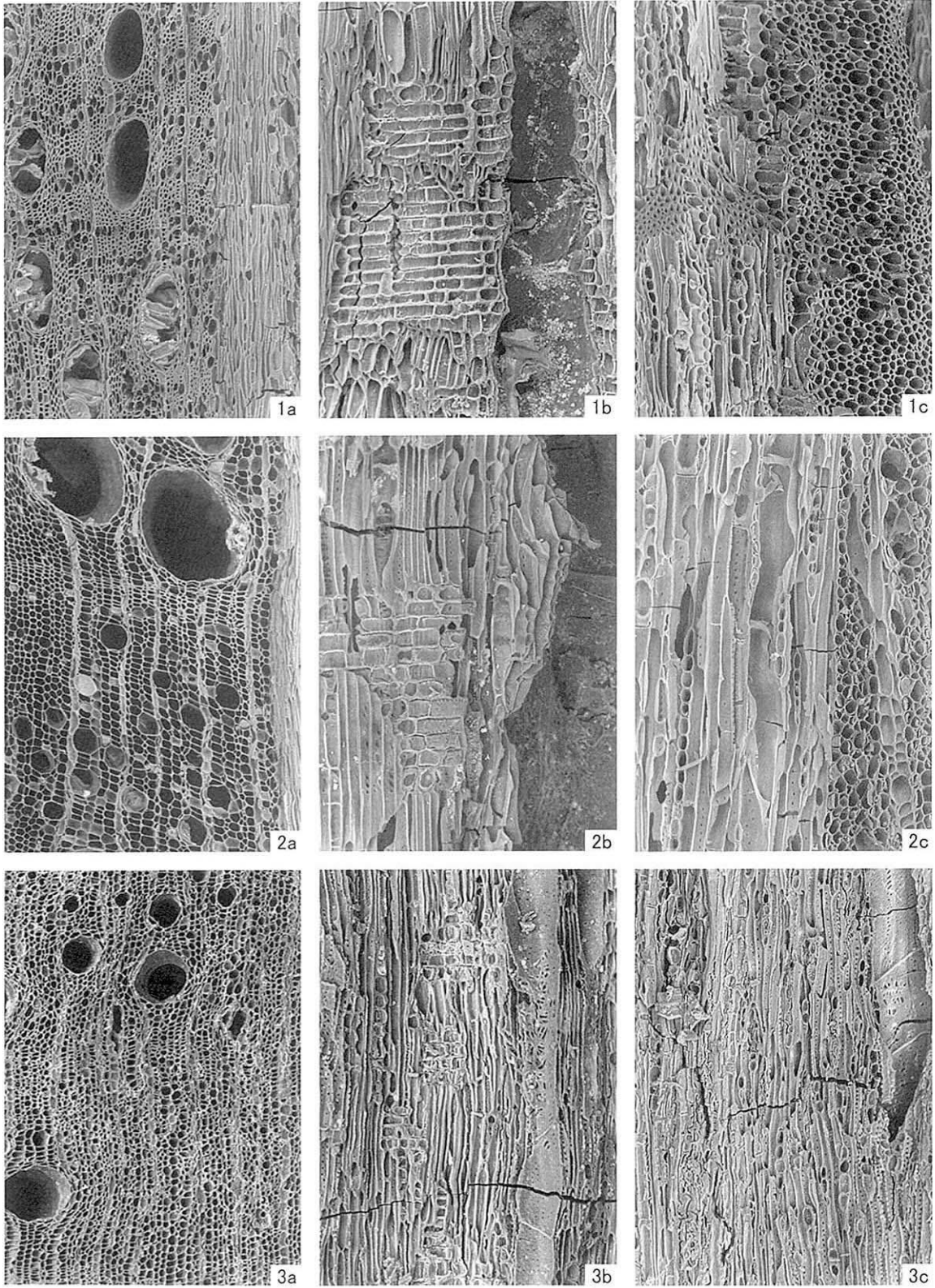


247



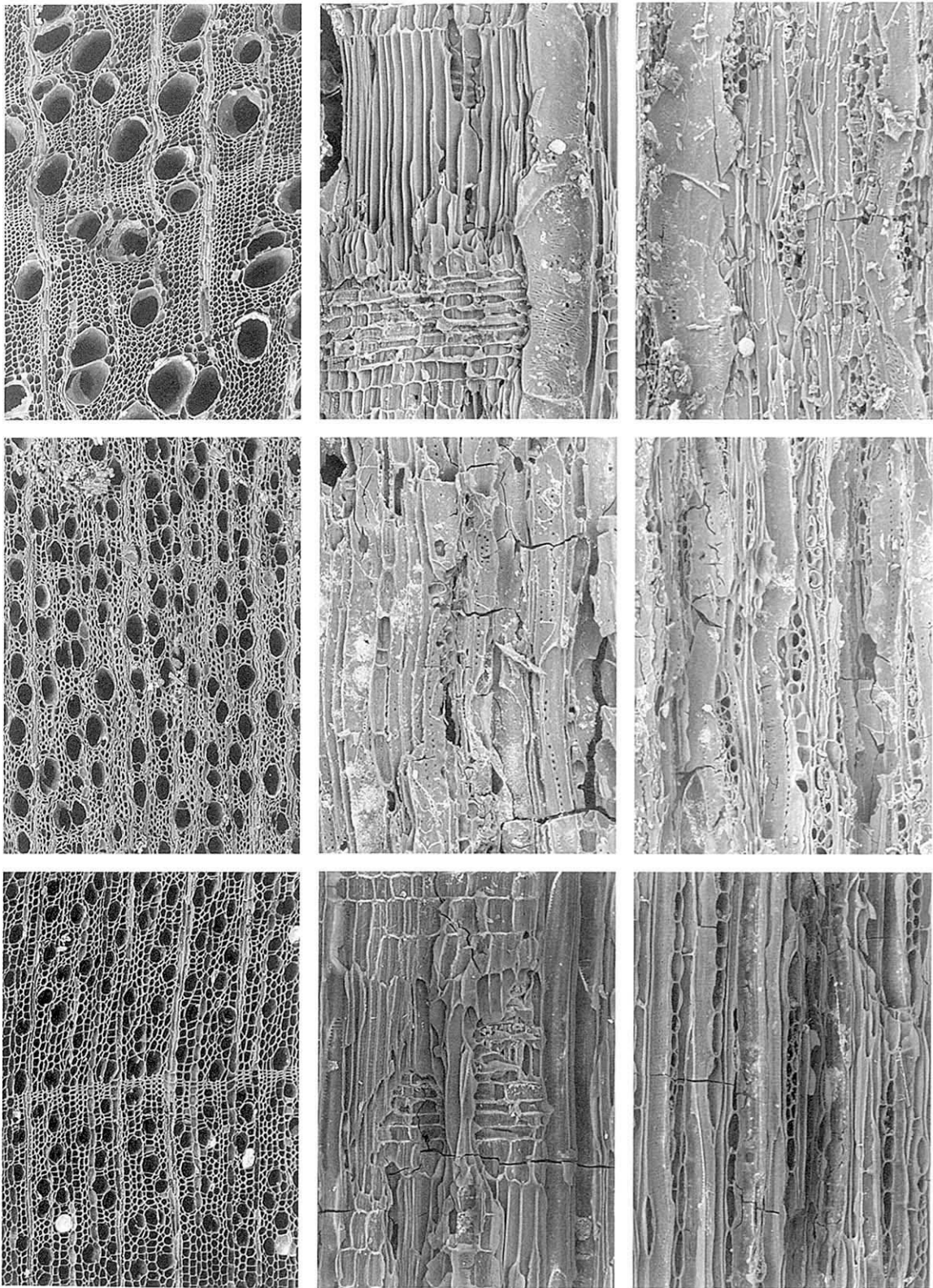
1. コナラ属アカガシ亜属(試料番号1)
2. シキミ(試料番号3)
3. イスノキ(試料番号4)
- a:木口,b:柾目,c:板目

200 μ m:a
200 μ m:b,c



1. コナラ属アカガシ亜属(試料番号8)
 2. ツブラジイ(試料番号11)
 3. スダジイ(試料番号17)
 a:木口,b:柁目,c:板目

200 μ m:a
 200 μ m:b,c



4. タブノキ属(試料番号18)
 5. シャリンバイ属(試料番号12)
 6. ハイノキ属ハイノキ節(試料番号10)
 a:木口,b:柁目,c:板目

200 μ m:a
 200 μ m:b,c

報告書抄録

ふりがな	うしくびうしろだかまあとぐん							
書名	牛頸後田窯跡群Ⅱ							
副書名								
巻次								
シリーズ名	大野城市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第89集							
編著者名	林潤也 徳本洋一							
編集機関	大野城市教育委員会							
所在地	〒816-8510 福岡県大野城市曙町二丁目2番1号 電話092 (501) 2211							
発行年月日	2009年3月31日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯 °'〃	東経 °'〃	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
うしろだかまあとぐん 後田窯跡群 77地点	ふくおかけんおおのじょうしおあざうしくび 福岡県大野城市大字牛頸2472-3			33° 29' 45"	130° 27' 19"	20030407 ～ 20030502	240㎡	最終処分 場建設
ハセムシ窯跡群 30地点 (確認調査)	ふくおかけんおおのじょうしつづじがおか 福岡県大野城市つつじヶ丘4丁目 282-3ほか			33° 29' 40"	130° 28' 37"	20081023 ～ 20081029	258㎡	擁壁建設
おおたにかまあとぐん 大谷窯跡群 B地点 (試掘調査)	ふくおかけんおおのじょうしおあざうしくび 福岡県大野城市大字牛頸2181-27 ほか			33° 29' 28"	130° 27' 57"	20070528～ 20070601・ 20070920	1200㎡	治山ダム 建設
おだうらいせきぎん 小田浦遺跡群 80地点 (確認調査)	ふくおかけんおおのじょうしつきのうら 福岡県大野城市月の浦2丁目8ほか			33° 30' 16"	130° 27' 40"	20051130～ 20051209 20080507～ 20080508	20,822 ㎡	宅地造成
うしろだかまあとぐん 後田窯跡群 76地点 (確認調査)	ふくおかけんおおのじょうしおあざうしくび 福岡県大野城市大字牛頸2472-70 ほか			33° 29' 42"	130° 27' 18"	20000301～ 20000310 20010910～ 20010917	149,510 ㎡	最終処分 場建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
後田窯跡群 77地点	生産遺跡	奈良時代	須恵器窯跡・ 土坑	須恵器・土師器				
ハセムシ窯跡群 30地点 (確認調査)	生産遺跡	飛鳥時代	須恵器窯跡 (灰原)	須恵器		確認調査のみ		
大谷窯跡群 B地点 (試掘調査)	生産遺跡	奈良時代	須恵器窯跡 (灰原)	須恵器		試掘調査のみ		
小田浦遺跡群 80地点 (確認調査)	集落遺跡	縄文時代 飛鳥時代	土坑	縄文土器・須恵 器・瓦・円筒形 土製品		試掘調査のみ		
後田窯跡群 76地点 (確認調査)	集落遺跡	奈良時代	須恵器窯跡	須恵器		試掘調査のみ (平成13年度本調査)		
要約	後田窯跡群77地点では、奈良時代の須恵器窯跡を1基調査した。窯は全長3.4mの地下式直立煙道窯であり、その規模や形態は、当該期の牛頸窯跡群の特徴をよく示している。出土須恵器は、8世紀中頃の好資料といえ、編年研究や焼成器種の分析等を行う上で興味深い資料を得た。 試掘・確認調査の結果については、4遺跡5地点の成果を掲載した。このうち、ハセムシ窯跡群30地点、大谷窯跡群B地点、後田窯跡群76地点については、須恵器窯跡ないしは灰原を確認し、小田浦遺跡80地点では土坑を検出した。							

大野城市文化財調査報告書 第89集

牛頸後田窯跡群Ⅱ

平成21年3月31日

発行 大野城市教育委員会
福岡県大野城市曙町2-2-1

印刷 (株)三光 福岡営業所
福岡県福岡市博多区山王1-14-4